

1990年7月2日発行 定価120円発行/第34巻第2号
2010年11月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

2
1990



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1990年2月号



一般

2

大管長会
メッセージ
最も価値あること
エズラ・タフト・ベンソン

6

私にとっての祝福
メルル・ブラッドショー

16

リチャード・G・スコット長老
「本当の力は主から来ます」
マービン・K・ガードナー

41

聖書——
あとわずか4,263の言語
ジョセフ・G・ストリンガム

35

エカエツテの世界
アン・レムリン

56

ヒギンズ兄弟の靈感
ラベール・ジョン

62

たったひとりの生徒
カレン・A・アンダーソン

青少年

10

あなが及ぼす
大きな影響力
ジャネット・トーマス

15

迫害
ダリナ・レイノルズ

49

モルモンメッセージ
ゴミのような思いを
捨てなさい

58

親と会話を持つ方法
クリス・クロウ

定期特別記事

1

編集室より／読者からの便り

24

訪問教師メッセージ
主を思い起こす

46

質疑応答
ロジャー・K・テリー

子ども

26

リーハイのけいこく

27

エルサレムを出て行くリーハイ

29

いのりの力
J・トーマス・ファイアンズ長老

30

分かち合いの時間
教会の音楽
パット・グレアム

32

小さなお友だちへ
F・エンツイオ・ブッシュ長老

35

歌
イエス・キリストの教会
ジャンス・カップ・ベリー

36

おもちゃばこ
このよげんしゃはだれでしょう
ジーンナビー・オールグラン
知っているかな、この「12」！
ジャネット・ピーターソン
てんむすび
ハワード・ブルーナー

37

教会でのエチケツト
ジュリー・H・ジェンセン

38

ガラスの白鳥
ベギー・バラス

編集室より／読者からの便り

国際機関誌編集室より

読者の皆さんは「聖徒の道」の装丁が変わったことに気づかれたと思います。合衆国とカナダ以外の国々では国際機関誌全体の装丁が変更になりました。私たちはこれまで現場の意見を調査し、機関誌の構成を簡素化、標準化することができました。これにより、世界各地で従来に比べてかなり容易に印刷できるようになるでしょう。

子供のページも新たに8ページを追加し、カラーページの採用枠も16ページに拡張されました。このうち8ページ分は子供のページに割り当てられ、残る8ページ分は機関誌全体に振り分けられることになります。表裏の表紙の見返しも同様にカラーになります。

今後はより短期間で作業を進め、将来的にはより時直にかなった出版を実現させたいと望んでいます。現在では、出稿から皆さんの手元に機関誌が届くまで、ほぼ1年かかっています。

国際機関誌の編集部では新たに読者の投書欄を設け、そのほかにも世界中の読者の声を反映できる新たな企画を設ける予定です。私たちは信仰あつい読者の方々に感謝しています。この機会に、手紙や記事、物語などをどしどし投稿していただき、読者の皆さんにも活発に誌面に参加していただきたいと思ひます。(住所、氏名、電話番号、所属ステキ部、ワード部名を明記のうえ、「聖徒の道」編集部あてにお送りください)主のために共に働く者として、私たちが互いに強め合えるように願っています。

読者の皆様へ

国際機関誌編集部

読者からの便り

本当の喜び

「リアホナ」(スペイン語版)に掲載される優れた記事に感謝しています。ここコロンビアでは、「リアホナ」が会員、宣教師、求道者に本当の喜びを与えてくれています。もちろんすばらしい伝道の手段になっていることは言うまでもありません。

コロンビア・ボゴタ伝道部
伝道部長ブルース・F・カーター

靈感された雑誌

「リアホナ」(ポルトガル語版)に心から感謝しています。試練に遭うとき、いつも力になる記事をそこに見いだすことができます。

また、生きた経験談や世界中の教会員の話など楽しく読んでいます。家族の皆が「リアホナ」を読むことで一層きずなが強められることも、私はうれしく思っています。

ブラジルで出版されている「リアホナ」に感謝しています。私は確かにこれが靈感された雑誌であることを知っています。いつも我が家にこの雑誌があり、友人たちとそこに記された教えを分かち合えることに感謝しています。

ブラジル ロザーナ・カルドーソ・ガードナー

問題解決の鍵

今まで特別な問題を抱えているときはいつでも、翌月の「ソンドエボ」(韓国語版。「聖徒の友」の意)の中に問題解決の鍵となる記事を見つけることができました。その度ごとにいつも驚きと神様への感謝の気持ちで満たされて

います。

「ソンドエボ」を初めて読んだときから、生ける予言者の愛ある勧告と言葉が記されたこの雑誌の価値と重要性について、よく理解できます。また実生活に根ざした証を読み、より具体的に原則を学ぶことができます。聖典は正しい生活の指針を与えてくれるものであるのに対し、「ソンドエボ」はその指針を実行に移すための励ましを与えてくれる書物と言うことができるのではないのでしょうか。

さて、また次号の記事を心待ちにしながら、今月号の予言者の言葉を載せた記事をもう1度読み返そうと思っています。

ソウル西ステキ部 ノリヤンジンワード部
キョン・ジョー・ユン

2部購読しています

「ディ・シュテル」(オランダ語版)はとても貴重な出版物です。私は教会員たちの記事を読むのが好きです。そこにはときにほほえましい記事もあればときに涙をさそう記事もあります。

特に大会特集号の記事を読むのが好きです。予言者たちの言葉を深く味わう機会になるからです。予言者たちの言葉は、キリストに真に従うための助けとなります。私は心から予言者と教会幹部を愛しています。もし「ディ・シュテル」がなければ、どうして彼らについて知ることができたでしょう。

我が家で2部購読をしている理由はそのためです。1部は私と妻のため、もう1部は子供たちのためです。

オランダ、ピアンオン在住
シーズ・ファン・インピレン

聖徒の道

1990年2月号

本誌は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語、隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語、季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マツ

クスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、フランシス・M・ギボンズ、ジェフリー・R・ブランド

編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン

教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集主幹補佐：アン・レムリン

編集主幹補佐/こどものページ：ディエーン・ウオーカー

アートディレクター：M・マサト・カワサキ

デザイナー：シェリー・クック

制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジェーン・アン・ケンプ、ティモシー・シェバード、ステイーブ

ン・デイトン
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1990年2月号第34巻第2号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通号 150円、大会号 350円

International Magazine PBMA

9002JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1990 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替

口座番号/東京0-41512)にて管理本部長

理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106 東京都港区南麻布5-10-30 管理本部長理課 ☎ 03-440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についての問い合わせ…〒213 川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部 配送センター ☎ 044-811-0417

The *Seto no Michi* is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$14.00 a year, \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seto no Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

最も価値あること

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

主が私たちに望んでおられるのは宣教師となり、福音を实践することなのです。
しかも完全に实践することです。主は王国の建設のために力を尽くすように
私たちに期待しておられるのです。

宣教師は、天父の子らを救うという世界で最も偉大な業に携わっています。これほど大切に、貴く、心を満たす楽しい仕事はありません。主は予言者ジョセフ・スミスを通して次のように宣言されました。「汝にとりて最も価値あることは、汝今の代の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き、以て彼らと共に父の御国に休まんことなり。」(教義と聖約15：6)

私たちは主の教会の会員として、伝道活動について真剣に考える必要があります。なすべきことを行ない、伝道活動を愛している人は、やがて人々を救いに導く業に携わるようになります。

教会がこの章を主のみ言葉として受け入れていることを理解したうえで教義と聖約第1章を読む人は、なぜ宣教師が全世界に派遣されるのか、その理由を理解できるはずですが。この非常に大切な責任は直接教会員の双肩にかかっています。なぜなら主ご自身が、「この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん」(教義と聖約1：4)と言っておられるからです。

伝道を進める非常に効果的な道具のひとつとして、福音に従順な教会員たちが示す完全な模範をあげることができません。主はそのことを、次のような言葉で教会員に伝えられました。「シオンはその美と聖とを増し、……シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからず。」(教義と聖約82：14)私たち教会員が信仰をもって実践するなら、主は私たちが伝道の責任を果たせるように助けてくださいます。

今こそより高い目標を掲げ、この偉大な業の重要性を理解しなければなりません。主が私たちにそれを望んでおられるのです。教会に籍を置き、聖餐会に出席するだけでは十分ではありません。それは確かに素晴らしいことですが、まだ十分とは言えないのです。主が私たちに望んでおられるのは宣教師となり、福音を实践することなのです。しかも完全に实践することです。主は王国の建設のために力を尽くすように私たちに期待しておられるのです。

力ある宣教師となるには、天父のすべての子供に対して愛と憐れみの情を持たなければなりません。人々は愛を示されれば、それにこたえることでしょう。多くの人が愛を求めています。皆さんが彼らの心情を理解するなら、彼らも良い思いをもって報いてくれることでしょう。そして友達になることができます。

前に聖餐会やステーク部大会、あるいは家庭の夕べに近所の人々を誘ってから、どのくらいの時間がたっていますか。福音について真剣に話し合ったのはいつだったのでしょうか。そのような体験をするのは、実に素晴らしいことです。



専任宣教師として働くか、
会員伝道という形で働くかを問わず、
福音を人々に分かち合うには、
このみ業の神聖さについて
燃えるような証がなければなりません。

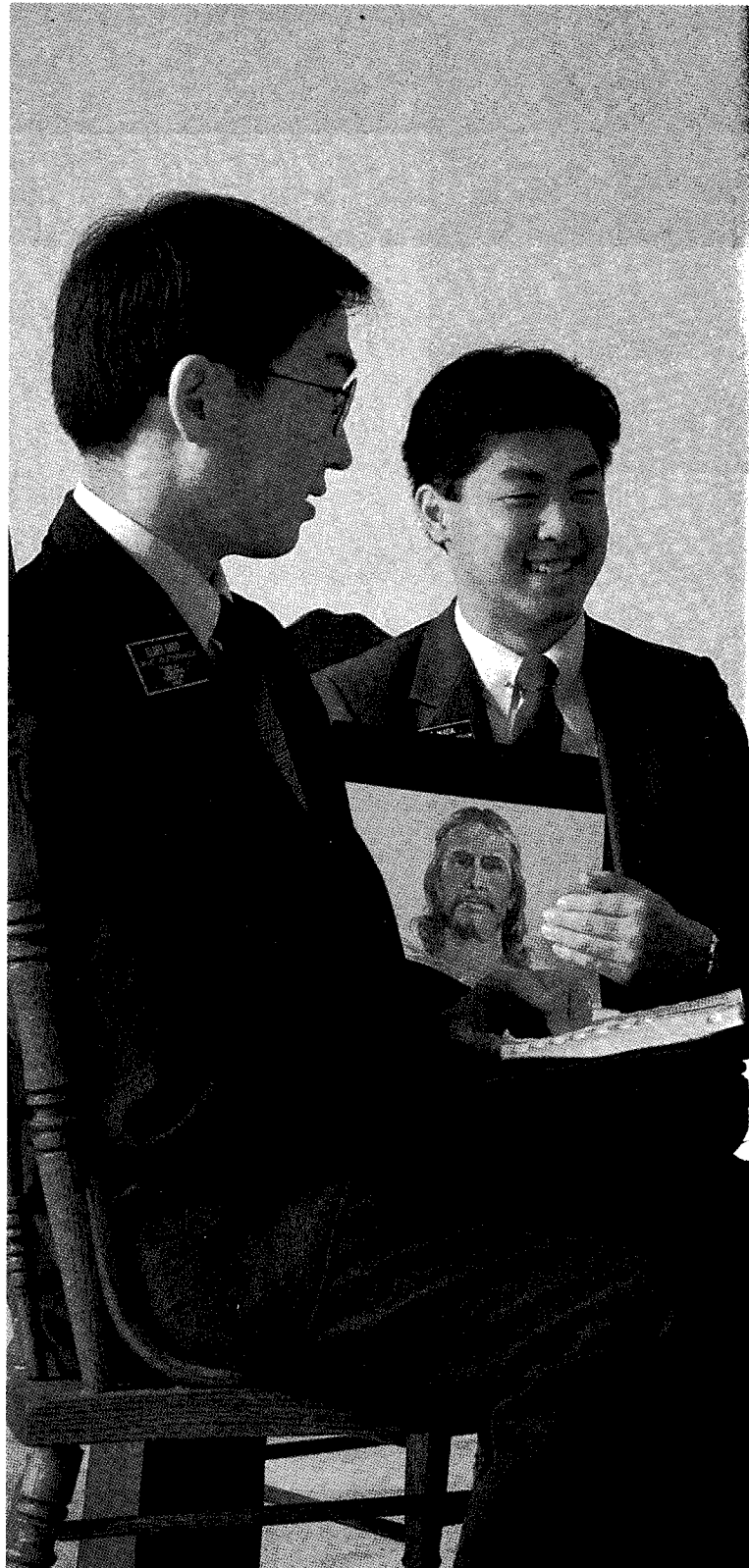
皆さんにお勧めしたいことがあります。キリストの復活に関して聖書から読むだけでなく、復活のあとアメリカ大陸の民にみ姿を示されたキリストについて述べたモルモン経の記録を読み、それについて教会員でない友人に話してください。また、彼らにモルモン経そのものをプレゼントしたり、貸したりするようにしてください。必要であれば自分自身が使っているモルモン経を渡してください。それによって彼らに永遠の祝福を与えることができるのです。

モルモン経は私たちが伝道活動に用いるべき偉大な規範です。モルモン経はジョセフ・スミスが予言者であることを明らかにしています。キリストのみ言葉を載せたモルモン経には、人々をキリストのみもとへ導くという重大な使命があります。そのほかの事柄はすべて二次的なものです。モルモン経に関する黄金の質問は、「キリストについてもっと知りたいと思いませんか」という問いかけです。

モルモン経は教会員だけでなく、まだ教会員となっていない人々のためにも与えられた書物です。主のみたまとモルモン経がひとつになれば、世の人々の改宗のために神から与えられた最も強力な手段となります。人々を改宗に導くには、そのために主から与えられた道具すなわちモルモン経を活用しなければなりません。

またモルモン経を読むことは、伝道に出るための最大の動機づけとなります。教会はもっと多くの宣教師を必要としています。しかし私たちが必要としているのは、モルモン経をよく読み、愛している家庭、ワード部、支部から出てくる、備えの十分にできた宣教師です。モルモン経の神聖さについて燃えるような証を持っている宣教師が欲しいのです。主が聖霊の力によってその真実性を示してくださいという揺るぎない確信を持って、求道者にモルモン経を読みその内容について深く考えるようみたまによるチャレンジができる宣教師が求められています。神のメッセージを伝えるにふさわしい宣教師が必要なのです。

道徳的に清い生活をし、教会の集会に熱心に参加している若い男性を送ってください。神権の召しを全力を尽くして遂行している若い男性を送ってください。またセミナーを卒業し、モルモン経について燃える証を持つ





若い男性を送ってください。そのような若人を送ってくだされば、私は伝道地のみならず生涯にわたって主のために奇跡を行なう力を持つ若人を送り返したいと思いません。

若い女性にも専任宣教師として仕える機会があることを忘れないでください。私は自分の永遠の伴侶が結婚する前にハワイで宣教師として働いたことを心から喜んでいます。また孫娘たちを専任宣教師として伝道に送り出したことをうれしく思っています。宣教師としてすばらしい働きをしている姉妹たちが少なからずいます。

専任宣教師として働くか、会員伝道という形で働くかを問わず、福音を人々に分かち合うには、このみ業の神聖さについて燃えるような証を持たなければなりません。皆さんが最初にすべき事柄は、祈り、断食、^{めいそう}瞑想、学習を通してその証を得ることです。その証が与えられるように熱心に祈り求めてください。召しが与えられたときにはそれを受け入れてください。神の實在、イエスがキリストにして世の贖い主であること、そしてジョセフ・スミスが神の予言者であること、神権と天父の権威とが地上にあることをぜひ理解しなければなりません。

私たちは大いなる喜びと希望をもって福音を広める業を果たしていかなければなりません。福音を伝える真の目的は、天父の子供たちをキリストのみもとへ導き、教えを授け、バプテスマを施し、御父の王国において共に喜びにあずかることができるようにすることです。□

ホームティーチャーへの提案

1. 主は私たちに、教会に籍を置き、聖餐会に出席すること以上のことを求めておられるのでしょうか。
2. 世の人々の改宗のために神から授けられた最も強力な道具は何でしょうか。
3. ベンソン大管長は、主のみ業に対する「燃える証」が必要であると言っていますが、その証を得、強めていくには何をしなければならぬと教えているのでしょうか。
4. 相手の家族と互いに個人的な伝道の経験を分かち合ってください。

私にとっての 祝福

メリル・ブラッドショー

私はよく自分に何かしら欠点があるのではないかと思ったものです。
というのも、モルモン経について祈っても、
何ひとつ変わったことは起こらなかったからです。

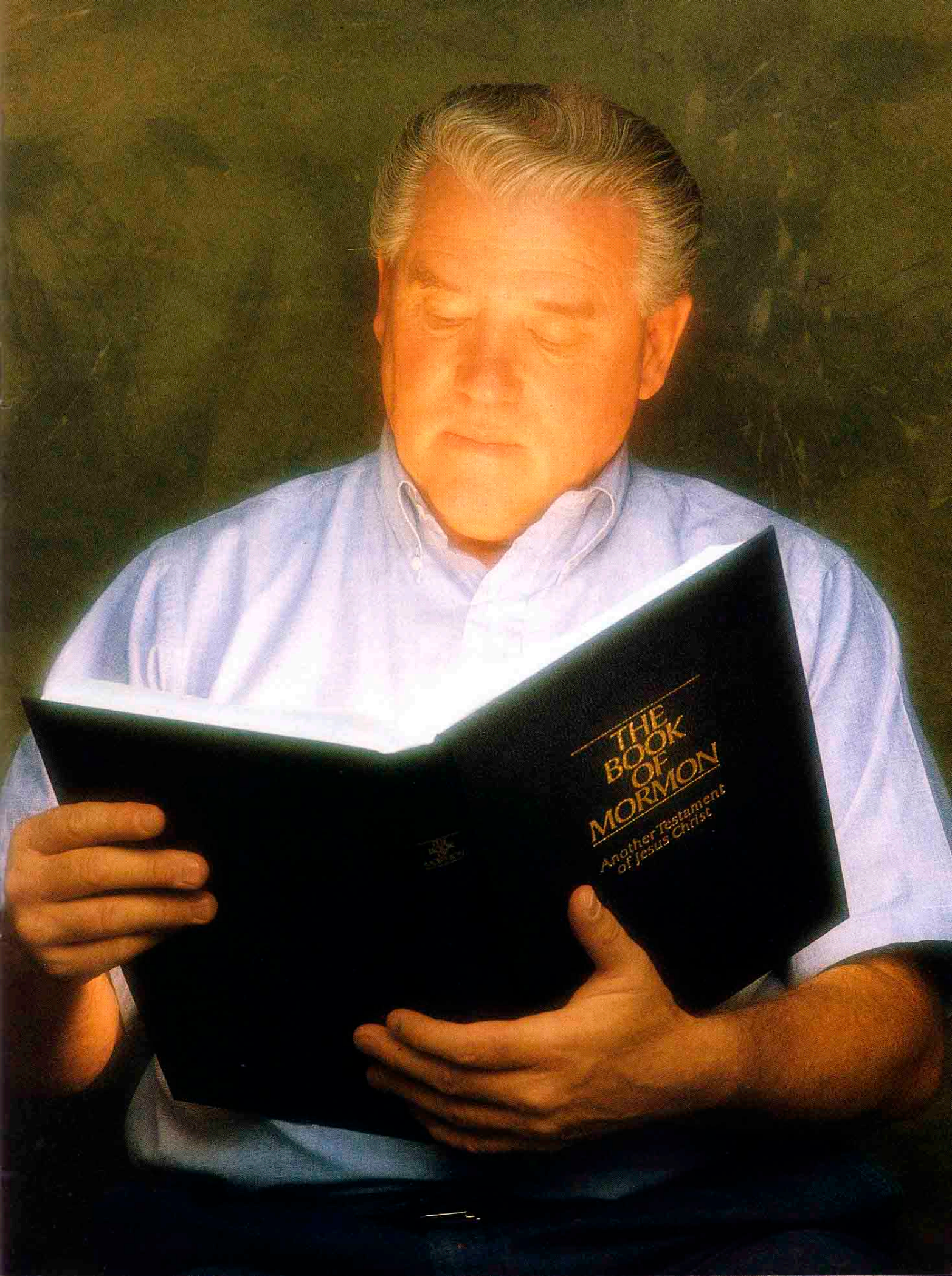
モルモン経に関して、奇跡的な現われを受けたという人々に対して疑いを抱くべき理由は私には何ありません。私にはそういう経験は一度もないのです。若いころ、私はよく自分に何かしら欠点があるのではないかと思ったものです。というのも、モルモン経について祈っても、何ひとつ変わったことは起こらなかったからです。このように何事も起こらなかったのは、実は私がモルモン経に対する信仰を持ち、モルモン経の理解すべき点を理解していれば、人々からどんな質問をされても答えられるだろうし、書物の真実性も立証されていくだろうと簡単に考えていたからではないかと思います。

そこで私の場合、モルモン経について祈り終えたあとも、ほかの多くの人々が経験しているような「この書物は真実だ」といった燃えるような思いは味わっていないのです。私はこの事実を事実として受けとめていますし、教会内には私と同様の立場にある人が大勢いることも知っています。しかし私がここで強調したいのは、モルモン経が真実であることを告げる劇的な霊的体験こそないものの、私は人生の大部分をモルモン経やその出現について、またその裏付けとなる様々な証拠の研究にあててきたということです。私は人々が抱いている疑問についてすべて考慮し尽くしたとは言えませんが、モルモン経について知るべきことをすべて知っておけば、今まで私にとってそうであったように、モルモン経はこれからも私たちの信仰のよりどころとなってくれると思っています。つまり、劇的な証が得られなくとも、モルモン経は現に私にとって、また家族にとって大きな祝福となっていると言えるのです。

ではモルモン経が私にとってどのような祝福を与えてくれたか、いくつか例をあげてみましょう。

(1) 1950年に、スイスへ伝道に行った時のことです。それまで、私は高校と大学ですでに3年間ドイツ語を学んでいました。当時私はまだモルモン経を読み通してはいませんでした。宣教師としての準備は万全だと思い込んでいました。ところが、スイス人の日常会話や方言を耳にして、私はすっかり打ちのめされてしまったのです。これまで学んできたことを生かすのはとても大変でした。そこで、同僚と私は、古いドイツ文字で書かれたドイツ語訳のモルモン経を毎朝1時間声に出して読むことにしました。最初のうちは大変でしたが、ドイツ語でモルモン経を読むことにより、リズムと流れがつかみやすくなり、前にも増して人々との交流を深めることができたのです。

またこの早朝の勉強会を通して、わかりにくいニーファイ第二書のイザヤの予言のところもよく理解できるようになりました。読みながら、私はイザヤの興味深い美しい詩や人類の全歴史について受けた示現、そしてまた貧者や未亡人に対する深い思いやりなどにも触れることができました。またこれがきっかけで、イザヤ書全書を生涯にわたって研究するようになり、霊的な飢えを覚えたり重要な問題に出くわしたときなど、幾度となく祝福を受けてきました。またこの読書会を通して、私は予言者たちのように、人生のいろいろな事柄に対して、永遠の中で真の意味を見いだせるような見方ができるようになりました。さらには、福音や救いの計画、自分自身の価値や目標、人生の意義などに対する理解が大いに深



THE
BOOK
OF
MORMON
Another Testament
of Jesus Christ

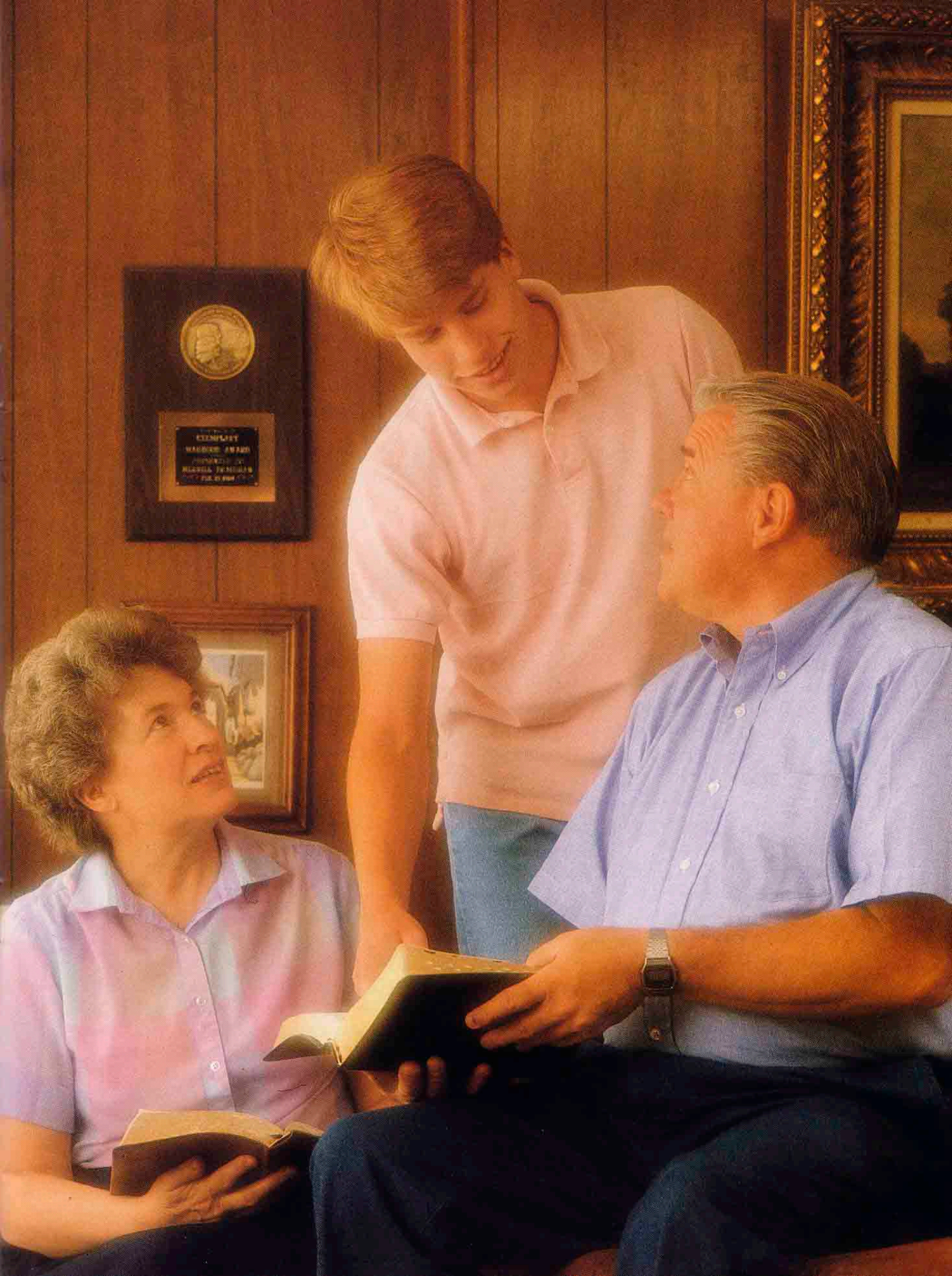
まったのです。これらはみな、スイスの町ベルンの屋根裏部屋で、早朝、同僚と共にモルモン経を読み始めたことから始まりました。この経験を通して私が身につけたのは、単に言葉だけではありません。聖句の美しさや大切さへの理解もまた深めることができたのです。

(2) 数年前のことです。私はブリガム・ヤング大学で、初年度のモルモン経クラスを教える教師の訓練セミナーに出席する機会がありました。その6週間という期間中、意味を深く考え、特に美しい聖句や教えをじっくり味わいながら、モルモン経を2度通読しました。その結果モルモン経に対する愛がまた一步深まりました。私はモルモン経に対してさらに親しみを深め、自分の関心を引くテーマや問題を一層深く掘り下げることができました。しかしそれでもなお、私には特別な啓示や証を得たと言えるようなことは何も起こりませんでした。この書物に関して、そういう経験は私には縁のないことのようにでした。私はむしろ、この書物の伝えるメッセージの美しさと今の時代の人々に対する警告の言葉の大切さをより強く感じるようになったのです。福音の教義クラスでモルモン経を教えるにつれ、この気持ちはさらに強くなっていきました。そしてついには、アルマやモルモンの抱えていた悩みが自分のことのようにわかり、私のような人々に対する彼らの深い思いやりを知ることができたのです。また、私たちのためにこの書物をとっておいてくださったキリストのこの上ない深い愛に比べれば、モルモン経の細かな点に対する批評家たちの様々な批判の言葉は大した問題ではないということも悟ったのです。

(3) 私たちは家族でたびたび聖典を読むようにしてきました。もちろん言われているとおり定期的にきちんと実行してきたわけではありませんが、共に聖典を読むことに費やす時間の半分以上を、モルモン経にあててきました。家族は皆この時間を楽しみにしてきました。年上の子供たちには、この時間にまつわる楽しい思い出がたくさんあるようです。我が家からも5人の子供たちが伝道に出ましたが、彼らも私と同様の備えをしてきました。彼らもモルモン経を何度も読み返したり、劇的な証を得たわけではありませんが、その書物を真実なものとして受け入れていました。たとえ劇的な霊的体験がなくても、モルモン経は私たち家族にとって、私たちの信仰にとってまた生活全体にとって心のよりどころとなっています。それはまた信仰のかなめ石でもあり、信仰そのものを意義深いものとしてくれています。このようなモルモン経の持つ重要性を思うと、霊的な経験がはたしてそれ以上に重要なものなのか疑問を感じてしまいます。

聖霊は必ずしも目に見えるはっきりとした形で、あるいはまた直接私たちに働きかけるとは限りません。聖霊は、生涯にわたって起こるささいな出来事を通して、私たちが正しい幸福な生活を築くための、すなわち地上の神の王国で堅実かつ豊かな生活を築いていくための礎を置いてくれるのです。モルモン経は私にとって、その礎の一部であり、モルモン経の持つ意味は次第に大きくなってきています。私はこのような祝福があることを、主に感謝しています。□

たとえ劇的な霊的体験がなくても、モルモン経は私たち家族にとって、私たちの信仰にとってまた生活全体にとって心のよりどころとなっています。



CENTENARY
WARRIOR AWARD
PRESENTED BY
MARIA FENIGAN
FEB. 1998



あなたが及ぼす大きな影響力

ジャネット・トーマス

人々に従うのではなく、人々を導いたスーの話

スー・ケラーの寝室に入ると、こんな標語が目に残ります。「あなたは大きな影響を及ぼすことができる。」彼女はこの言葉のある話の中で耳にしたのですが、それ以来お気に入りの写真やポスターと一緒に壁に張っているのです。

ただ、スーの場合、その行ないを見ると単に標語を掲げる以上のものがあります。彼女は、ひとりの人間がどのようにしてほかの人に大きな影響を及ぼすことができるか、ということを示す生ける模範なのです。マウント・サイ高校(ワシントン州ノースベンド)で、彼女は生徒会会長、バレーボール部とバスケットボール部のキャプテン、セミナーのクラス会長を務めました。スーに励まされた生徒たちは、タレントショー、校舎の塗り替えといった企画に取り組むことで、高校最後の年を思い出深いものとすることができました。

スーは最初から指導力を発揮したわけではありません。試行錯誤の中で体得していったのです。成長しても、特にこれといって目立つところのないスーでしたが、周囲の若い人たちが自分にとって受け入れ難い方向へと進み始めたのをきっかけに変わりました。教会で教えを受けたために、スーは友人たちとは異なる物の見方をするようになっていたのです。

「高校2年のとき、こちらが泣き出してしまいそうになるくらいひどいことを友達がやり始めました。私は本当に、『あなたたちは一体何ということをしているの!』と言ってやめさせたかったのですが、勇気がありませんでした。情けない気持ちになりました。そんな中で、こんな思いが生じてきたのです。『ねえ、スー、ほかの人と同じことをする必要はないでしょう。』」

そのとき彼女は決心しました。これからは自分自身で選択をし、できることなら、友達も正しい方向へ導いていこう、と。スーの集うスノーカールミーバレーワード部のアレン・ダンス監督は、彼女が友達に対してどれほど強い影響力を持っているかに気づきました。「スーはいつでも良いものを追い求めてきました。教会であれ、学校であれ、弱い立場にある人を元気づけてきました。友達の必要な人には、スーの方から働きかけて友達になってあげるのです。彼女の模範によって、ほかの人たちも祝福にあずかっています。」

人に良い影響を及ぼすということは、ときとして、それほどむずかしいことではなく、ただひと言口にすればすむということもあります。数年前のこと、女子バスケットボールのシーズンがもうすぐ始まるようとしているころ、スーは次のような提案をしました。「祈りましょう。」最初の試合の前に彼女の提案どおり祈ることになり、それ以来チームの習慣となりました。「私は試合の前に必ず祈りを捧げました。ときには、こう言うこともありました。『きょう祈りを捧げたい人がだれかほかにいないかしら。』2、3回ほかの人が祈ることもありました。でもほとんどの場合は、全員がまるく輪になって私を待ち、『スー、ここに来て祈って』と私を呼んでくれたものです。」

生徒会会長の選挙運動中、スーは「あなたの内なる最善の力を発揮しよう」というテーマを掲げました。ご多分にもれず、このテーマを聞いてばかりにする高校生も出てきました。しかし生徒会会長となったスーは屈することなく1年間、どの学内活動にも例外なく、同じテーマを貫き通したのです。そのうちにばかりにする人もいなくなりました。校長は次のように語っています。「人が何か良いことをしようとするとき必ずそれをばかりにする人がいるものです。しかし、そのような人もスーには勝てませんでした。スーはいつも明るく、くよくよせずに、自分の掲げたテーマをばかりにするような人がいても自己防衛の殻を閉じるようなことがなかったからです。このテーマは、その年全校生徒の認めるモットーとなりました。」

マウント・サイ高校の生徒には、やっかいながらも達成しなければならない仕事がありました。学校の廊下を塗り替える仕事です。これはとてつもない作業でしたが、スーをはじめとする生徒会役員は、やれないことはないという決定を下しました。順次段階を踏んでこの企画を推し進めていくためには、200人以上の生徒の参加と協力が必要でした。壁面を整え、1度下塗りをし、次に本塗り、最後に縁取りをすることになりました。

教頭は次のように言っています。「最初の集いに足を踏み入れた途端、私はきつと成功すると確信しました。スーはきちんと計画を立て、用意万端整えていました。スーのノートには数々の靈感あふれる言葉や必要な作業のリスト、そして段階ごとに進めていくスケジュールが

書き込まれていました。さらにスーは、各作業に適任と思われる人をすべてこの集會に招待していました。スーの目に指導力ありと映った生徒も、学校の補修整備員の中からも何人か招待していました。私も招かれたうちのひとりでした。本当にスーは、組織を動かす術^{すべて}を心得ていました。」

廊下の塗り替え作業は大事業でしたが、成功を収めました。ただ土壇場で何度か危機に直面し、スーはそれら乗り越えていかなければなりませんでした。4日間にわたる企画の1日目は好天に恵まれました。その時期にはめずらしい晴天でした。「突然、私は心配になりました。こんな天気の良い日に学校のペンキ塗りに来たいなんて思う人がいるかしら。」

ところが、スーの心配ははずれました。みんな来てくれたのです。次は2番目の危機です。あちらこちらの壁はペンキを塗る準備ができ、100人以上の生徒たちがまさに下塗りを始めようというときです。管理人が駆け込んできてスーのところに来ると、ペンキ缶のひとつに張ってあったラベルを見せました。「下塗り用ペンキは可燃性のため、風通しのよい所以外では使用しないこと」と書かれてあったのです。生徒たちは窓という窓、ドアというドアを開け、放電を避けるべく電気を消し、コンセントもすべて覆い隠しました。この最中に、スーは天よりの助けを祈り求めるために、その場を離れました。「私はだれもない部屋を見つけると、ひざまずきました。」はたして、すべてが順調に運び、危機は回避されたのです。参加した人はすばらしい体験をしました。確かに大変な仕事ではありましたが、本当に楽しい仕事でもありました。

こうして学校の廊下はペンキの塗り替えが終わり、薄い灰色地に栗色の縁取りが施されました。そしてスーの指導の下で作業に当たった生徒たちは、自分たちの学校に対してこれまでになく誇りを感じるようになりました。その結果、だれであっても、壁に落書きをしたり、傷つけたりしようとするだけでほかの生徒たちからたしなめられるようになりました。「そんなことをしたらだめだよ。ぼくもこの壁にペンキを塗ったひとりだ。だれに

教会もスーが導きや慰めを受ける
大きな源のひとつです。





スーはいつでも良いものを
追い求めてきました。
友達の必要な人には、
スーの方から働きかけて
友達になってあげるので
す。
彼女の模範によって、
ほかの人たちも
祝福にあずかっています。

も落書きなんかさせないから。」

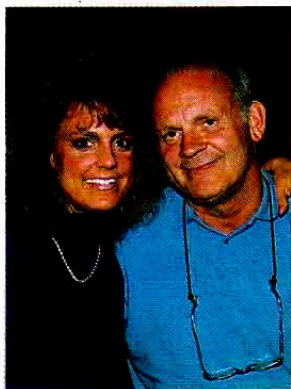
さて、次の企画はタレントショーでした。このショーで初めて、ピアノやダンス、演劇の才能を持った生徒たちが、その能力を認められました。スーはこう語っています。「一番すばしかったのは、このように才能豊かな人たちが学校にいて、このタレントショーを通じて運動選手と同じように評価されたということです。これこそ私たちの目的とするところでした。一度も人の口に乗ったことのないような人たちが喜々としてこのショーに参加したのですから。私たちは、生徒と父兄のそれぞれに見てもらえるように2度発表を行ないました。」

初めてのガールフレンドと別れた青年、あるいは、飲酒が原因でソフトボールチームをやめることになった花形選手。校長の話では、こういった人たちのところへもスーは出かけていって助けを与えました。「私はこれまでにあらゆる年代の男女を助け、励ますスーの姿を見てきました。つらい思いをしている人がいると、肩に手を置き、共に廊下を歩き、語りかけ、勇気づけてあげるのです。生徒会長みずからが自分のそばに来てそのようにしてくれるということは、この学校の多くの生徒にとってとても有意義な経験でした。スーは人と一対一で接し、問題を処理するのが本当に上手でした。」

しかし、それにしてもスーはどこからこのような力を得るのでしょうか。自分の信ずるところを守り通し、ほかの人々の生活に良い影響を及ぼそうという決意はどのようにしてするのでしょう。スーはこう述べています。「母は私の最良の友達です。つらい日々が続いても、心に思うすべてを打ち明けることができるのです。母に尋ねると答えがちゃんと返ってきます。学校のこと、ボーイフレンドのことで問題があると、どうすれば良いのか教えてください。私はそれを実行します。すると問題は解決されます。父と母の援助がなければ、私は途方に暮れてしまうでしょう。」両親からだけでなく、家族の皆から適切なアドバイスや援助がもらえるということです。

教会も、スーが導きや慰めを受ける大きな源のひとつです。あるとき、ユースカンファレンスで、監督が次のようなチャレンジを与えました。「若い兄弟姉妹の皆さ

友達に福音を教えたり、
同級生を励まして
有意義な企画に
参加させたり、
両親の忠告や
導きに従ったりすることで
人々に良い影響を
及ぼすことができる、
これがスーの
学んだことでした。



ん、教会が真実であることについて確信が得られるよう祈り求めてください。たとえもうすでに証がある人もやってみてください。」

スーはその必要性を感じませんでした。チャレンジにこたえることにしました。「私は祈る必要はないと思いました。教会が真実であることを知っていたからです。とは言うものの、高校卒業の前に友達に自分の証を伝えたいと思いました。モルモンだからということだからかわれることができましたから。」

スーは本当によく祈りました。しかし、答えはなかなか返ってきそうにありません。そんなある日のこと、何人かの友達とおしゃべりをしていると、予期せぬことが起こりました。友達のひとりと教会のことについてまじめに話をすることになってしまったのです。この友達は次のように尋ねてきました。「スー、どうしたらそのことが真実だとわかるの。」

「そのとき、はっと気づいたのです。天父が今この機会を与えてくださって、教会が真実であるという強い証を宣べ伝えることができるようにしてくださったのだ、と。」そこで私は、このことは確かに真実です、と証をしました。その晩初めて、私は自分の祈りが答えられたのだ、ということを知ったのです。

それから、この友達は、スーの家族と一緒に教会へ行ってもいいか、と尋ねてきました。やがて彼女はスーと

一緒にセミナーに参加し、宣教師のレッスンを受けるようになりました。スーは次のように語っています。「本当に素晴らしいことです。友達にこんな風に伝道したのは初めてです。」

スー・ケラーは平凡な女の子ではありますが、人々に大きな影響を及ぼす人なのです。父親のワード・ケラー兄弟はスーの個性について次のように説明しています。「娘は特別な個性を持っています。実際のところどうしてそうなったのか私にも見当がつかないのです。」このように言っただけでも、本当はわかっているのです。ケラー兄弟は娘の説明をしながら、ほかの人に比べてどんな資質が際立っているのか教えてくれました。「彼女は同世代の人に模範を示してきました。みずからの標準と信念を高く掲げ、一つ一つ実践していったのです。」

皆さんの周りには、スー・ケラー姉妹のように、福音の標準に従って生活することで人々に大きな影響を及ぼしている人がいることと思います。そのような人がいましたら、年齢に関係なくその体験談をこの機関誌に載せたいと思います。みずからの生き方を通して模範を示した人についての投稿を下記あてに、住所、氏名を明記のうえ、お送りください。お待ちしております。

International Magazines, 50 East North Temple Street, 25th Floor, Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A. □

迫害

ダリナ・レイノルズ



私と両親が教会に入ってちょうど1年が過ぎようとしています。私たちにとってこの1年は決して安楽なものではありませんでした。

私たちは素晴らしいふたりの宣教師からレッスンを受け、強い証を得ることができました。しかし、私たちがバプテスマを受けようと決心したとき、人々はいずれ私たちが道に迷い、最後には地獄に落ちるだろうと言いました。無用者扱いをされ、多くの迫害を受けたのです。

11年間通っていた前の教会の友達は皆私から離れていきました。以前はよくベビーシッターを引き受けていたのですが、教会が変わってからは、子供たちに悪い影響があるからと、私には二度と頼まないし、家にも来てほしくないと言われてしまいました。

そんなこんなで私はひどく傷ついていました。学校ではいやがらせをされ、家に帰れば郵便受けの中に教会に反対するパンフレットが入れてあり、また脅迫じみた電話がかかってくることもありました。

そのような迫害のために、バプテスマの予定もあやうく延期になるところでした。バプテスマを受けることになっていたその日、父が迫害を受けたため、もう少しでバプテスマを取りやめるところだったのです。しかし私たちは何とか予定どおりに受けることができました。

今はどうかといえば、私は自分がバプテスマを受けられたことを本当に感謝しています。たとえ友達を皆失っても平気だと私は母に言いました。確かにそれはとても悲しいことでしたが、イエス・キリストは私の罪のために亡くなられたのです。主は打たれ、唾を吐きかけられ、脇腹を刺され、そしていばらの冠をかぶせられました。それに比べれば私の受けた試練などは取るに足らないものでした。

教会に入ったことに対する非難は依然として続いています。イエス・キリストはそのような試練に耐えられるよう助けてくださいました。もう一度ベビーシッターの仕事に戻ることができ、また以前のような迫害を受けることもなくなりました。そして愛と友情と関心に満ちた会員たちの集うワード部で、素晴らしい真の友人を得ることができました。私はこれからも多くの試練を受け、また福音のために今まで以上の試しに遭うことでしょう。けれども私はこの真実の教会に導かれたことを天のお父様に心から感謝しています。□



リチャード・G・スコット長老
「本当の力は
主から来ます」

マービン・K・ガードナー

それは胸の張り裂けるような知らせでした。家族が受けた医師の説明によれば、父親は癌に冒されており、よくてもあと数カ月の命だったのです。医学もそれ以上になす術を知りませんでした。

悲しみにうちひしがれた息子たちの中に、科学技術の最前線で働く原子力技師がいました。しかし、このときばかりは科学技術も無力でした。

リチャード・スコットと4人の息子たちは輪を作り、断食と祈りの精神を込めて父親に神権の祝福を与え、その中で完全な治癒を約束しました。この祝福は成就しました。

かつて原子力技師であった十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老は、人と神の偉大な力を間近に見てきました。スコット長老はその両方を重んじていますが、人の力には限りがあり、神の力は無限であることを理解しています。

スコット長老は十二使徒定員会に召されてから最初の話の中で、こう語りました。「私は主の力、尊厳、完璧さを知り尽くしているわけではありません。しかし、主の愛、憐れみ、慈悲を幾分か理解しています。

主が取り除くことのできない重荷はありません、

主が清め、喜びで満たすことのできない心はありません、

主が洗い清め、建て直すことのできない生活はありません、

そのための条件といえば、ただ主の教えに従うことだけです。」(『引き上げてくれる真の友』「聖徒の道」1989年2月号, p.79)

「私は主の力、
尊厳、完璧さを
知り尽くしている
わけではありません。
しかし、主の愛、
憐れみ、慈悲を幾分か
理解しています。」

1987年のクリスマスに、
子供や孫たちと撮影したスコット家族の写真。
左が娘のリンダと夫のモンテ・マイケル、
そして3人の子供たち。
(左から、デボン、クリントン、エミリー)
スコット夫妻の後に立つ3人の息子は
左から、ケネス、マイケル、デビッド。
右端が娘のメアリー・リー。

リチャード・スコット長老は長年科学技術の最先端で働きながら、かえって主に対する信仰をますます強めてきました。十二使徒定員会会員に召されたときには、すでに「完全無比な友、救い主、^{あがな}贖い主、キリスト・イエス」と、もうひとりの「貴重な友」モルモン経に対する揺るぎない愛を持っていました。(同上、p.79)

1928年11月7日、アイダホ州ボカテロで生まれ、首都ワシントンで育ったリチャードは、早くから科学に興味を示しました。両親であるケネス・リロイ・スコットとメアリー・エライザ・ホイットル・スコット夫妻は息子たちの探究心を大事にし、機械を使って実験したり、仕掛けを調べたり、物を作ったり、修繕したりすることを勧めました。家の車の修理まで、息子たちにまかせました。スコット長老は、「あるときなど冗談で、排気筒に汽車の汽笛を取りつけたものですよ」と笑います。

スコット長老の父親は教会員ではなく、母親も活発ではありませんでした。しかし彼らは高い標準を保つ正直な人たちでした。リチャードは外向的な青年で、高校ではクラス委員長を務め、バンドでクラリネットを吹き、鼓笛隊の隊長もしました。

しかし、彼はそれでもまだ、自分の生活に何か欠けているのを感じました。彼は監督やホームティーチャーに勧められ、「気が進まないときもありましたが」、教会の集会や活動に参加しました。なぜか、自分が傍観者のような気持ちになることがときどきあったのですが、それは学校でも同じでした。学業に秀で、人気を集めながら、人づき合いやスポーツに自信がなく、孤独を感じることもよくあったのです。

伝道に出て初めて、どうすればそのような気持ちを取り除くことができるか理解しました。「福音を人々に伝えたいという一心から福音の理解が深まり、孤独のすき間が埋まりました。福音を本当に理解していたら、そんな気持ちを感じる必要はなかったのだということがわかり始めたのです」と、スコット長老は言います。

十二使徒定員会の会員であり、合衆国農務長官でもあったエズラ・タフト・ベンソン長老は、ワシントンD.C.で、スコット家の住む地域を管轄するステーキ部長でした。リチャードの父は農務次官補として、彼の下で働きました。ベンソン大管長の模範、すなわち「その高潔さや、献身、原則を守る優れた能力に、父は深く感動しました。ふたりのきずなが育っていくにつれ、ベンソン大管長は父の改宗に大きな影響を及ぼしました。」スコット長老はそう語ります。リチャードの父親がバプテスマを受けたとき、彼はベンソン大管長に按手礼を依頼し





ました。スコット夫妻は後に10年以上もワシントン神殿で奉仕し、兄弟は結び固めの権能を持つ神権者として働きました。

リチャードは十代のときに大学の学費を自分でためようと決心し、断固たる精神で初志を貫徹しました。ある夏は東海岸でカキの採取船に乗り込み、またある夏はユタ州の森林事業に加わって木を伐採し、鉄道車両の修理もしました。

ほかの夏には、ユタ州の公園併設ホテルに出した雇用願いが、仕事の空きがないという理由で断われたことがありました。彼は断わりの手紙をさっさとたたみ込んで、そのことはだれにも言わずに、ユタ州へ出発しました。合衆国を横断したとき、ポケットにはたった3セントしか残っていませんでした。

「手紙は読まなかったのですか」と、リチャードがたどり着いたとき、ホテルの責任者は尋ねました。

「読みました。でも、とにかく働きたいのです。事務の仕事はありませんか。」その男性は不審そうな表情をしました。リチャードは要求水準を下げて尋ねました。「ボーイならどうでしょう。」ふさがっていました。「わかりました。皿洗いをさせてください。」

「無理だね。仕事はまったくないんだから」という責任者の返事でした。

リチャードはポケットの3セントを握りしめて、必死に頼みました。「それじゃ、2週間だけ皿洗いをさせてください。私のした仕事が気に入ってもらえなければ、お金はいりません。」そうすれば、寝る場所と食べ物だけでも確保できると考えたのでした。責任者はとうとう承知しました。

リチャードは皿洗いをしました。しかし、それだけではありません。手伝うことがないかと、調理場にも行きました。夏が終わるまでには、彼は料理長に次ぐコックになっていました。

こうした経験は、学費をためるだけでなく、霊的な成長にも役立ちました。彼は空いた時間を利用してモルモン経を読み、考え、力強い霊的な自覚を得たのです。

家に戻ったリチャードはジョージ・ワシントン大学に通い、機械工学を専攻し、ジャズバンドに入ってクラリネットとサクソフオンを吹きました。まもなく卒業というころには、その後の生活設計が万事整ったように思われました。ところが、「主は私の小さな世界に、ジニー・ワトキンスという爆弾を落とされました。」快活なジニーは、ユタ州選出の上院議員、アーサー・V・ワトキンス氏の娘でした。

ふたりの間に育ってゆく愛は、リチャードが入念に計画した人生設計に次第に問題を投じるようになりました。ある晩、ジニーは彼にこう言ったのです。「私が結婚する場所は神殿で、相手は帰還宣教師よ。」彼は伝道についてあまり考えていなかったのですが、そう言われてから以前よりも熱心に祈るようになり、最後は監督に相談しました。そして卒業後すぐに、ウルグアイへ伝道に出ました。ジニーは翌6月に社会学の学位を取得して卒業した翌日、合衆国北部諸州伝道部へ宣教師として赴任しました。

ふたりは伝道から帰って間もなく、マンタイ神殿で結婚しました。

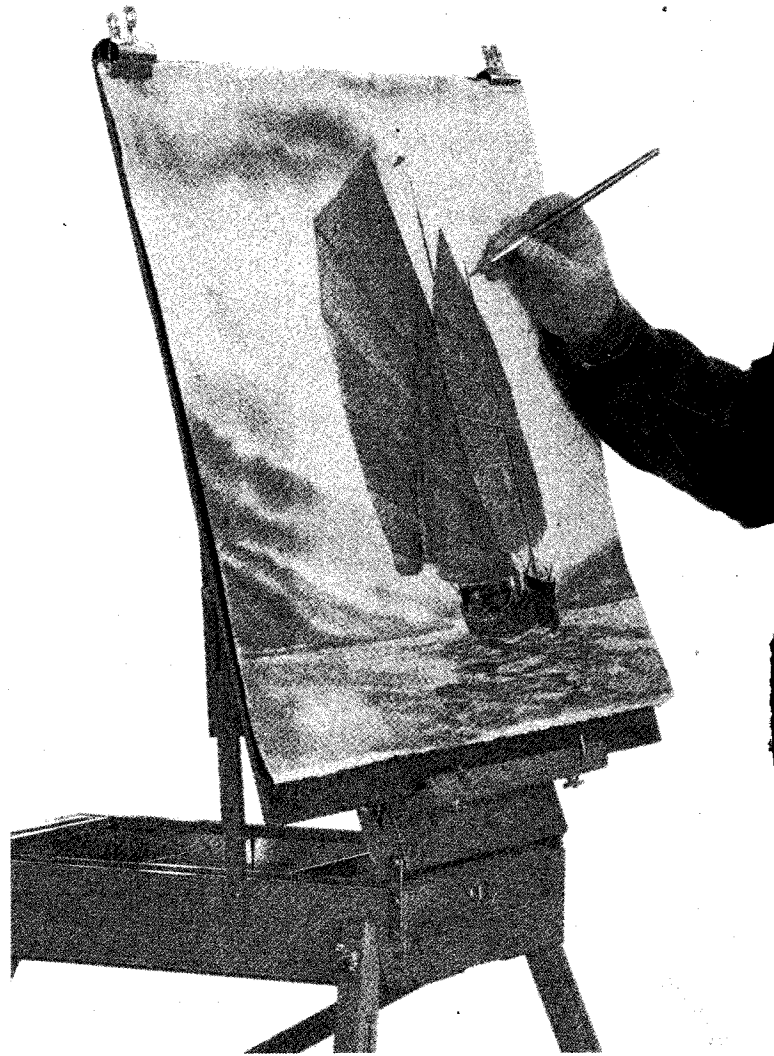
リチャードは伝道中にモルモン経を十二分に勉強し、証の基礎はさらに強まりました。自分のことを忘れて人に奉仕すればするほど、信仰が強くなることも知りました。

あるとき、改宗させる努力はしないという約束で、教会の教えを説明してほしいと言われ、同僚と共にある家庭に招待されたことがありました。行ってみるとほかにも招待客があり、それは南アメリカ全域を管理する別の教会の指導者でした。「その人は私たちが言うことすべてに反駁してきました。私は、^{はんぱく}乏しいながら自分の知識で信仰を擁護したいという気持ちと、改宗させる努力はしないという約束との板ばさみになりました。しかし、約束は守り通しました。集会が終わったあと、実にみじめな気持ちで帰宅しました。教会をうまく弁護できなかったと感じ、自分の福音の知識がまだまだ乏しいことがわかったのです。その夜は長い間祈りました。」

次の日、宣教師は同じ家族からまた招待されました。彼らは前日の議論に当惑し、相手が約束を破ったにもかかわらず長老たちが約束を守り通したことに心を打たれたのでした。今度は教えを受けたいというのです。最終的にはその家族はバプテスマを受けました。

リチャードが伝道に出る前、大学の教授は有望な将来を台無しにすると行って、彼に伝道を思いとどまらせようとしてきました。しかしリチャードは、ウルグアイから帰還して数週間後に、ハイマン・G・リックオーバー海軍大佐(後の大将)に呼ばれ、核エネルギーを含む軍の国家機密計画への参加を打診されました。

面接は、リチャードにとってはかんばしくないように思われました。彼はある質問に対して、自分の伝道のことを話しました。「何の伝道ですか」とリックオーバー大佐が聞いてきました。「君の伝道がどうかしたのですか。」



リチャードの人生で伝道は本当に貴重な期間だったので、彼は大佐に言い返しました。「今、自分が本当に理解していると思うことは、どれもみな伝道地で学び始めた事柄です。それで私は、どの質問にも積極的に答えようと決心したのです。」リチャード・G・スコット長老はそう述懐します。

大佐は次に、「最近読んだ本は何ですか」と尋ねました。

「モルモン経です」と答えました。

面接が終わり、リチャードは見込みがないと思っけすを立ちました。大佐が「ちょっと待ってください」と言いました。「実は、君が自分の信念にあくまで忠実かどうかを試していたのです。私たちの計画はなまやさしいものではありません。信念をもって働く人が必要なのです。」リチャードは、最初の原子力潜水艦ノーチラス号の原子炉の設計に携わることになりました。

後に職員記録を調べていたときに、彼に伝道を断念させようとしたかつての教授の名前が見つかりました。そ



のときこの教授はリチャードの管理下で、3階級ほど下の仕事をしていました。

スコット兄弟は12年間リックオーバー海軍大将の下で働き、1955年にテネシー州のオークリッジ原子炉工業技術学院で、原子力工学の博士号に相当する資格を得ました。(機密を要する仕事の性質上、大学の学位としては与えられなかったのです)また、第1号の商業用原子力発電所の開発にも参加しました。

この時期、スコット兄弟は七十人定員会の会長およびステーキ部書記として働きました。そして1965年、37歳の年齢でアルゼンチンの伝道部長に召されました。彼はまた伝道と仕事の二者択一を迫られ、このときも伝道をあきらめるように周囲から強い働きかけがありました。しかし、仕事の上でそれが不利益をもたらさずように思えても、彼の気持ちに迷いはありませんでした。

スコット兄弟は伝道部長として、モルモン経が靈感の絶えざる源であることを再び認識し、ゾーン大会や宣教師の相談に幅広くモルモン経を用いました。スコット兄

スコット長老は時折、水彩画の筆を取る。

「長年これがリチャードの息抜きになっているんです」とスコット姉妹は語る。

弟は心やさしい有能な伝道部長でした。当時の宣教師のひとり、ウェイン・L・ガードナーは伝道本部から遠く離れた場所で働いていました。ガードナー長老は現地での大会の準備を依頼されたときのことを覚えています。

「何もかもうまく行きませんでした。会場に予定していた場所が、土壇場になってキャンセルされました。伝道部長を迎えに飛行場へ行けば遅刻をして、彼を待たせてしまいました。しかもタクシーを待たせておくのを忘れて、乗ろうにもほかのタクシーが1台も見当たらず、私たちはそこで途方に暮れるばかりでした。

伝道部長の目にもいらついた気持ちは見えたのですが、彼は私に手をまわして、愛していますよとおっしゃいました。彼は本当に忍耐強く、心の広い方でした。私はあのときの教訓を決して忘れまいと思います。」

伝道地からワシントンD.C.に帰ると、スコット兄弟はリックオーバー氏の系列の、原子力工学関係の私設コンサルタント会社を経営する仲間に加わりました。また副ステーキ部長として働き、後には地区代表となりました。この時期にワシントン神殿が完成し、スコット夫妻は神殿のオープンハウスに備えて大勢の友人や同僚を家に招きました。こうして会社の同僚のある家族はバプテスマを受けました。彼らはスコット家族の近くに住んでいたのです。

そして、伝道部長を解任されて8年後の1977年、リチャード・G・スコット長老は七十人第一定員会の会員に召されました。1年間、神権管理部の実務部長を務めた後、メキシコおよび中央アメリカの地域代表役員となり、一家は通算6年におよぶこの召しの期間のうち3年間をメキシコで過ごしました。

ラテンアメリカの人々に対するスコット長老の愛情は、再び彼らと共に働いてますます深まりました。もちろん人々もスコット長老を愛していました。彼らはスコット長老の中に、指導者としての特質だけでなく、共に学ぼうとする友人の姿を見いだしたのです。

ある日曜日にメキシコシティで、スコット長老は神権会のレッスンに出席していました。教師にあまり深い知識はなく、レッスンはどこちないものでした。しかし教師が主や兄弟たちを愛していて、生徒たちに福音を伝えたいと謙遜に願っていることは明らかでした。神聖な雰囲気が部屋を包んでいました。

レッスンを聞きながら、スコット長老はその教えに対する霊的な確認を受け、自分に役立つ靈感もいくつか受けました。そこでスコット長老ははそれを書き留め、「もっと良い主の僕になるために、自分にとってとても必要

で大切な真理を教えられたことに気づきました。」彼は午前中ずっと、智と情に注ぎ込まれた考えを筆記し続けたのでした。このようなことは何回もありました。

スコット長老はこのように言っています。「私がみたまのささやきを受けるときの経験はほかの人たちと違わないと思います。ただ、必要に迫られたときや、さし迫った祈りにこたえて靈感がもたらされたときに、私たちは最初に与えられたささやきを記録し、それに従おうとしないために、個人的で貴重なみたまの導きを聞き取れずにいることがよくあると思います。」

教会本部に戻ったスコット長老は、現在の家族歴史部の実務部長に召されました。1年後の1983年には七十人第一定員会の会長に召され、1984年には家族歴史部の理事となりました。

続く4年間は、この部門の主要な変更を監督指揮しました。変更の大半が、家族歴史探求の必要に添ってコンピュータ技術を導入するものであったことは、むしろ当然と言うべきでしょう。

そのすう勢をはっきり示すものは、「系図」から「家族歴史」への名称の変更でした。そのほかの変更は、先祖を証明するのに必要な手続きの簡素化、人々に系図の専門知識を与えることに力を注ぐのではなく、人々が先祖を調べやすくすることに力を入れること、世界中にマイクロフィルムの記録をもっと普及させること、家族歴史センターの国際化、本部からの主軸機能の分散などがあげられます。

人生の大半を科学技術にかかわってきたスコット長老は、コンピュータによって合理化された家族歴史活動について語る時、顔が輝きます。スコット長老の妻も同じです。「リチャードの父は改宗者ですので、先祖を全員調べて、全員に必要な神殿の儀式を行なわなければなりませんでした。私たちは夫の両親と一緒に夫の先祖の系図を集めたものです。それが今、コンピュータを使ってできるので、すばらしいことです。」

スコット長老は、家族歴史部に改革をもたらした功績は自分のものではないと語ります。「それは大管長会や十二使徒定員会が立てた靈感された長期計画に従って行なわれたことです。前任者たちが立派な基礎を据えてくださったあとで私とその地位に就き、経験豊かな実務部長たちや熱心なスタッフの協力が得られたのは幸運でした。私は以前にも優れた人々と一緒に働いた経験があります。しかし、家族歴史部で働いたこの特別な時期ほど、熱心で有能で献身的な兄弟姉妹と共に働き、終始みたまの導きを感じて、祝福を受けたことはありません。」

夫が打ち込んでいる仕事にスコット姉妹が傾倒するのは、驚くに当たりません。「父のことを考えると、母のことも浮かんできます。私の両親はチームとなって働いているのだと思います」と夫妻の娘は語ります。

ボイド・K・パッカー長老は、スコット長老を十二使徒定員会に迎えたときの総大会で、「〔彼は〕霊的な力では一歩もひけをとらない愛妻ジニー姉妹の内助の功を得ておられます」と、スコット姉妹の助力をたたえました。（『葬儀での敬虔な思い』「聖徒の道」1989年2月号、p.20）

スコット長老は、最も愛するジニー姉妹の長所についてこう語っています。「主に対する愛と、彼女の霊性です。ジニーは家族を自分の生活の中心に置く、献身的で勤勉で有能な妻です。それに、私たちは一緒にいろんなことを楽しみます。」

ジニー姉妹もほほえんで言いました。「そう、そのとおり！ 夫は私の親友なんです。」

見るからにふたりの仲むつまじい夫婦のようです。夫妻の生活に、ユーモアと笑いは重要な役割を占めています。「まじめなときと遊びのときの区別は心得ていますよ」と長老は言います。ふたりはからかい合いますが、それは温かいやりとりです。お互いに対する愛情と相手を気遣う思いやりは、子供たちの思い出に残っています。

「ジニーの賜は、私の苦手なものの扱いが上手なことです。それがじつにうまいので、私はまるで自分が得意になったのだと錯覚させられるんですよ」とスコット長老は言います。「たとえばダンスです。私はダンスがまったく下手なのですが、妻は上手に踊ります。おかげで、私が踊り方を知っているように見えるのです。あるときなど、ステーキ部の大きな活動があって、私たちはワルツ競技で優勝したんですよ。信じられないでしょうが、それがふたりで一緒に踊った初めてのワルツだったのですから。」

ふたりは知り合ってから以来、共にジャズ音楽を楽しんできました。現在は南アメリカの民俗音楽にも興味を持っています。結婚後に趣味として一緒に絵画も始めました。夫は水彩画、妻はパステル画です。しかし夫婦どちらも、今はそれを楽しむ時間があまり取れません。

もともと機械好きのスコット長老は家族の修繕屋で、鉛管工事、電気器具や自動車の修理など、何でもこなします。ここ何年かは、自分で設計、建築をして自宅を建て増ししています。

スコット家には健在な子供が5人います。スペインで伝道したメアリー・リーは、ロサンゼルス大学カリフォ

1960年代にアルゼンチンの
伝道部長を務めたスコット長老は、
ポリビア南部に住む
ケチュア人の間で
伝道活動を行なう許可を得た。



ルニア校で応用言語学の博士号を取得し、現在はワシントンD.C.で働いています。テキサス州で伝道したケネスは今はアリゾナ州フェニックスに住んでいます。リンダは夫モンテ・マイケルと3人の子供と共にテキサス州ヒューストンに住んでいます。デビッドとマイケルは大学生です。

メアリー・リーは親子でよく話し合ったことを覚えています。「父には何でも話せました。自分を愛してくれていて理解があること、でも意見は率直に言ってくれることがわかっていましたから。」ワシントンD.C.で過ごした何度かの夏の間、彼女は父親の職場に近い場所で働いていたので、ふたりは総大会のテープを聞いたり会話を楽しみながら、一緒に車で通いました。「父と母はいつでも私の親友です」と彼女は言います。

また、メアリー・リーはこれまでに父から受けた数多くの神権の祝福や伝道中にもらった手紙のことを覚えています。「それは私にとって聖典のようなものです。」

スコット夫妻は若い時代にふたりの子供を亡くしました。娘を早産で失い、その1カ月半後には2歳の男児が心臓手術の最中に亡くなっています。それはつらい経験でしたが、「私たちにとっては、本当に証を強めた時期でした」と、スコット姉妹は語ります。「それは主のみこころであると知りました。今振り返ってみますと、どうしてあんなにしっかりしていられたのかと不思議に思います。けれど、あの悲しみから多くの祝福もいただきました。」

悲しみも喜びも経験したスコット長老は、こう語ります。「おそらくそうした人生経験があるからこそ、人は救い主の尊さを理解できるようになるのだと思います。主の教えに従いさえすれば、どれほど主から助けを受けられることでしょう。主のみもとへ行くなら、苦労や孤独はどれほど癒されることでしょう。」

1988年9月29日、エズラ・タフト・ベンソン大管長は、「決して忘れることができないやさしさと愛と深い理解をもって」、リチャード・G・スコット長老に、十二使徒定員会への召しを伝えました。スコット長老は2日後の10月1日に支持されました。

スコット長老はこう述べています。「スコット姉妹と私は、召しをいただいてからかなり祈ってきました。この召しは主からのものであることがわかります。現実の自分とあるべき自分の姿とは随分違うことがわかり、とても謙遜になります。愛情深い神の指示や導きを信頼せずに、この務めを全うできる人はだれもいません。本当の力は主から来るのです。」□

主を思い起こす

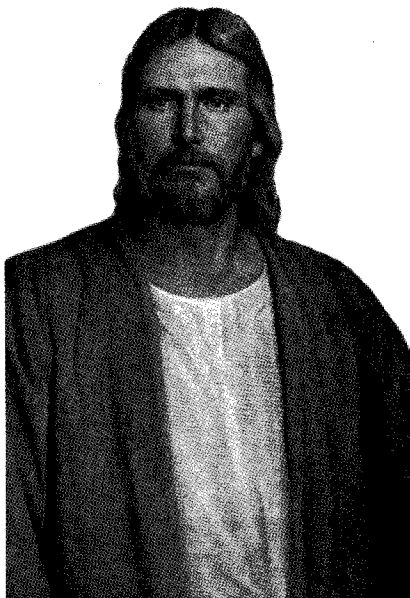
目的—「主のもろもろの戒めを思い起こして、それを行[う。]」(民数15:39)

ジェンセン姉妹はいくつかの困難な問題に直面していました。彼女は助けと心の安らぎを求めて祈っていましたが、答えはなかなか与えられませんでした。悲しみが募りに募ったある日、彼女は涙ながらに祈りました。「神様、助けが必要なこのときに、なぜ私の祈りに答えてくださらないのですか。」

そのとき彼女の心の中に静かな細い声が響いてきました。その声は「私が見捨てたことがあるか。私がいつあなたのもとから離れたか」と言っているようでした。突然ジェンセン姉妹の脳裏に、それまでの人生の中で主の助けを受けたときのことや、主の大いなる愛を感じたときのことや、次から次へと思い浮かんできました。そして彼女は、自分こそが主を覚えていなかったことを悟ったのです。

私たちもよくジェンセン姉妹のような気持ちになることがあります。様々な問題に心を苦しめるあまり、主から受けた助けと恵みとを思い起こせなくなってしまふことがあります。

日々のこまごまとした仕事に追われて、主を忘れることがあります。どうしたら常に主を忘れないでいることができるのでしょうか。私たちは常に主を思い、自分たちに望まれていることを思い起こせます。また、祈り、聖典を読み、戒めを守ることができるのです。過去の祝福か現在の祝福かを問わず、私たちは自分に与えられる恵みを



思い起こし、天父の愛に感謝することができるのです。

試練のときには、恵みを思い起こせなくなることがあるかもしれません。しかし、祈りが聞き届けられなくなって久しいと感じたり、主に見捨てられたのではないかと感じたりしたときでも、息子アルマにならって、自分たちが以前に主から受けた数々の恵みを思い起こしてください。(アルマ36:27—29参照)

主の数多くの恵みを思い起こす人は、主に導きを祈り求めるなら、続けて祝福が注がれるという確信を得ることができます。

おびただしい悪の軍勢が取り囲む現代にあつて、私たちは今まで以上によく救い主を思い起こし、従っていく必要があります。ヒラマンはこう述べています。「お前たちは神の御子でキリストである私らの贖い主の岩を基にしなければならぬことを忘れるな。」(ヒラマン5:12)キリストを「基」とすれば、どのような困難や試練にも耐えていくことができるのです。□

訪問教師への提案

1. 人生の中の重大な時期に主の助けを受けた体験を互いに分かち合う。
 2. 日々の生活の中で救い主を思い起こすための方法について話し合う。また自分によく合った方法で主を思い起こすように勧める。
- (「家庭の夕べアイデア集」pp.8—13, 19—23, 28—35, 41—70, 76—81, 120—26, 138—40参照)

再活発化計画—— 王国建設の推進力

アリー・デリック

主は教会とイエス・キリストの福音を回復されたのち、予言者ジョセフ・スミスにこう言われました。「王国は汝らのものなり。」(教義と聖約62:9)すなわち、主はまずジョセフ・スミスの手に、そして次に私たちの手に王国を築く責任を与えられたのです。

私たちがこのみ業をどのように行なうべきかについて、主は次のように勧告されました。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからず。」(教義と聖約82:14)

シオンがその美と聖とを増すためには、聖徒が心を改める必要があります。心から進んで美しい福音のメッセージを人々に伝え、利己心を捨て去り、一段と深い愛の精神をもって、困っている人々の福祉に一層大きな関心を寄せるようになる必要があります。伝道に対して新しい国々の門戸が開かれるにつれ、王国の境界が押し広げられていきます。会員一人一人が教会の責任を受け入れ、熱心にその務めを果たし、お互いに心からの関心を示し合うときに、シオンのステーキ部は強められます。また、会員たちがみずからをふさわしく整え、できるだけ頻りに神殿に参入し、聖霊の教えを受けるという完全な祝福にあずかる備えをなすときに、シオンはその美しき衣を身につけることになるのです。このようにして、私たちは神の王国を築くという務めを立派に果たすことができるのです。

アジア地域会長会が作成した「再活発化計画」は、各ステーキ部、ワード部または地方部、支部に浸透していま

す。神権指導者、補助組織の指導者そして各会員にどのようなことが求められているか、そこには明確に示されています。このプログラムの成功は、指導者と会員一人一人が、各ユニットの指導者に配付された小冊子「日本再活発化計画」に詳細に書かれた役割を十分に果たすかどうかにかかっています。すべての人が各自の責任を果たすことによってひとつになるときに、神の王国はアジアの地でこれまでになく力強い前進を遂げることでしょう。

地域会長会のひとはこのように述べています。「この計画が各ワード部、支部、各神権定員会およびすべての補助組織の中で推進されているという報告を聞くまでは、私たちは決して満足しないでしょう。初等協会の子供たちに至るまで会員一人一人がお互いに、また特に、新会員や訪問者、お休みがちな会員に対して積極的に温かい言葉をかけるようになってこそ、望ましい成果が得られるのです。」

すべての人が
各自の責任を果たすこと
によって
神の王国はアジアの地で
これまでになく力強い
前進を遂げることでしょう。

ある会員はこのように書いています。「私の義理の妹のパールは、新しい土地へ引っ越してきた後、毎週日曜日に聖餐会でひとりの女性の姿に目を留めました。彼女は礼拝堂の後ろの方でもひとり座っていました。会員たちは何の関心も示さず、気にも留めない様子でした。一見、彼女は取るに足ら

ない人のように見えるのです。もちろん、実際には取るに足らない人などはひとりもおりません。私たちは皆、神の子供であり、一人一人が大切な存在です。その女性は長年着古した黒いコートをいつも着ていました。彼女に注意を向け、話しかける人はだれもいませんでした。そこで、彼女には友達が必要だと感じたパールは、自己紹介し、話し相手になりました。

その女性は、ダイスター姉妹という名で、ドイツ人の改宗者だということがわかりました。職業はあるスポーツ施設に勤める調理師でした。少女のころに伝道プログラムを通して教会に改宗しました。そして、神の王国の一員となったことに深く感謝し、何年もの間、自分の生活を切りつめて伝道に出ている宣教師たちのために献金しました。こうしてパールは、利己心のない、愛にあふれたすばらしい女性と知り合ったのです。そして、思いやりの心をもってこの選ばれた神の娘を、人々との交わりの輪の中に招き入れました。そのような交わりは、だれにとっても自分の必要を満たすために欠くことのできないものと言えましょう。

私たちは皆さんに次のように提案したいと思います。毎週、ひとりだけでいいですからある人を選び、その人に心からの友情を示すよう特別な努力をしてください。神の子供たちのひとりに、愛を注ぎ、温かい関心と思いやりを示していただきたいのです。

*アリー・デリック姉妹の夫であるロイデン・G・デリック長老は、1989年10月の半期総大会において名誉教会幹部に召された。

み言葉を養い育てる

友人に命のパンを与えるには

シーム・オニール、ケイ・オニール

聖典の中には、食物や、あるいは養うという行為を、私たちの進歩成長に必要な糧の糧になぞらえた美しい表現が多々見られます。神はご自身の栄光に満ちた福音という織物の中に、食物とか養うという象徴を用いた比喩的な表現を巧みに織り込み、昔も今も、物心両面にかかわる事柄において、主の民を啓発し、教えを授けられたのです。

イスラエルの民が40年間荒野にいたときにマナを与えられたという奇跡的な出来事や(出エジプト16:35)、約束の地を乳と蜜の流れる地にたとえたり(出エジプト3:8)、エリヤがからずに養われ(列王上17:1-7)、尽きることないかめの粉と絶えることのないびんの油でやめ女を養ったという話(列王上17:8-16)などに見られるように、主は繰り返しこのような比喩的な表現を用いて、私たちに霊的にも物質的にも養ってくださることをわかりやすく示されています。

私たちがみずからを命のパンと水で養うという比喩的な表現も、単純ではありますが非常に力強い表現であり、私たちは福音がもたらす霊的な祝福を受ける前に、「義を渴望する」必要がある(IIIニーフアイ12:6)という主の言葉とぴったり一致する表現のように思われます。

事実、救い主はたとえ話や説教の中で、生命を維持するために必要な基本的な行為や必需品のたとえをたびたび用いておられます。そのようにして私たちの記憶に残る奇跡の意味をより深く理解できるように人々の注意を引きつけておられるのです。たとえば、数千人もの群衆に食物を与えられた奇跡や、水を酒に変えられた奇跡などです。さらには、過越も、後に定めた聖餐も、本来は祭の性格を帯び、何らかの食物を共に食べる儀式であり、一段と深い霊的な記念の祭を象徴しているのです。

このような比喩的な表現を用いた特

に啓発的で意義深い例は、ヨハネ書の21章の中にあります。使徒ペテロはこの世で生計をたてるために、漁師の仕事に戻っていました。魚を取る行為は、人をすなごらぬという主の大使徒としての霊的な召しを象徴すると同時に、多くの人々に食物という物質的な祝福を与える意味があります。救い主は岸辺に現われ、ペテロが伝道に出るよう最初に召されたときと同様、再びその召しを与え、時の絶頂に召された予言者に次のように言われました。「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう。」聖典には続けて次のように記されています。「彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかつた。」(ヨハネ21:6)後に、どのような方法でなされたかは不明ですが、いづれにせよ使徒たちではなく救い主が用意された魚とパンを皆で食べていたとき、主はペテロに次の質問を3度されました。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」その度にペテロは、だんだんと心を痛めながらこう答えました。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じます。」すると、やはりその度に、主はペテロに命じられました。「わたしの小羊を養いなさい。」(ヨハネ21:15-17)これは、伝道の業に励み、主の福音を人々に教えなさい、という意味です。

私たちは主の羊や小羊である兄弟姉妹を養うために十分な働きをしているのでしょうか。信仰を共にする聖徒たちに対しても、また回復された福音について証を得る祝福にまだあずかっている人々に対しても、自分たちがどのように養うことができるかをいつも心に留めているのでしょうか。さらに重要なことは、神の羊の群れを養うという召しをどのようにしたら十二分に果たせるのでしょうか。

幸いなことに、救い主はこのみ業をより効果的に行なうための鍵を私たち

に授けてくださっています。主は福音を宣べ伝えるために取税人と一緒に食事をされたのではないのでしょうか。群衆に霊的な糧を与えると同時に食物をも与え、霊的にも肉体的にも飢えを満たして一層深い充足感を与えられたのではないのでしょうか。また、永遠の生命へと導く霊的な糧とともに、私たちの肉体を強める日々の食物を与えてくださっているのではないのでしょうか。

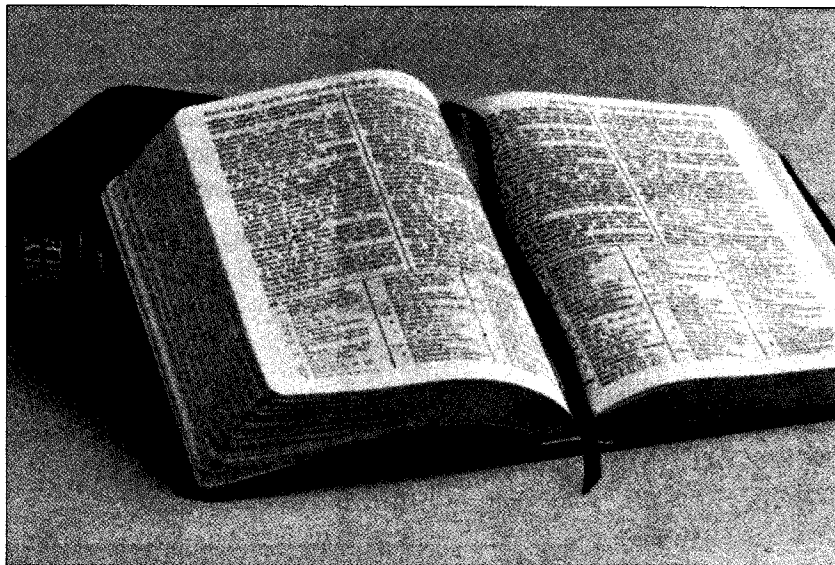
もし私たちが会員ではない友人や知人を家に招いて、簡素ながらも心を込めて作った料理を出し、祝福の祈りを捧げるならば、一口であろうとお皿に一杯であろうと、聖霊の導きによりおいしく味つけをされた福音の真理をずっと快く味わってもらえることでしょうか。こうした食事は家庭で出すべき点を強調したいと思います。ワード部や支部で行なう食事会も、ひとつの目的を達成することはできますが、家庭という親しみの込められた神聖な囲いの中の方が、みたまの働きもずっと強く、「主の群れを養う」というみ旨もより円滑に達成されるのです。

そのような機会に出すように勧められる霊の糧となるごちそうには、いろいろあります。たとえば、個人の証を書き込んだモルモン経、イエス・キリストが神であるという単純な証、教会の集会へ出席するようという招き、宣教師のレッスンの第1課や教会のビデオなどです。材料にお金をかけようとかけまいと、また、洋食、和食、中華であろうと、韓国またはフィリピン料理であろうと、それは大した問題ではありません。私たちが与える霊の糧は時間や場所、材料などに関係なく普遍的で、だれの口にも合うものです。

救い主はペテロに命じられたように、私たちにも主に従うように命じ、そして次のように質問されています。「わたしを愛するか。わたしの羊を養いなさい。」

養うということは、食物を与えるという意味もあり、物質的な糧を与えることによって霊の糧となる証を伝えることができるのです。これは救い主がなさったもうひとつの奇跡と言えます。

答えられた祈り



→ れは、ハント長老という名の宣教師が、最も霊的な日々を過ごしたときの話です。「ずっと昔、漢川^{ハンチオン}という名の遠く離れた土地へ行きました。そこはあまりに寒いので、ペンの中のインクが凍りつき、鉛筆ですら力を入れて書こうとしてもはっきりと文字が書けないほどでした。ある日のこと、とてもよく働く同僚のクレメント長老が起床時間の4時半に私を呼び、その日一緒に断食して祈ろうと言いました。

私たちはその土地へ来てから1カ月もの間、まったく何の収穫をあげることもできませんでした。バプテスマやレッスンはおろか、訪問先を紹介してもらうことやレッスンの約束をとることすらできなかったのです。漢川は当時、『モクサ』と呼ばれる活発なプロテスタントの牧師の勢力が強く、『モクサ』は町中に3つの教会を所有し、信徒を独占してほかの宗派に入り込む余地を与えまいとして、熱心に信徒たちを教えていました。モルモンの宣教師の姿を見るなり、反キリスト崇拝者と呼び、私たちが何を言おうと、ただ中傷するばかりでした。そして私たちがモルモン経を配布しようとする、すぐさま迫害の手を伸ばし、伝道の努力

を踏みにじろうとするのでした。

その日一日、私たちは断食して祈りながら、一軒一軒訪問し、ドアをたたき、再びドアが閉められてしまう前に何とかしてメッセージを伝えようしました。夜もふけ、いつものように私たちは決心しました。『きょうはこの一軒でおしまいにして。』すると、ドアが開き、驚いたことに温かみのある紳士が現われて私たちを中へ招き入れてくれたのです。そしてレッスンを聞き、次回の約束をしてくれました。彼のアパートを出た私たちの心は喜びと主に対する感謝の気持ちでいっぱいでした。凍りついた道を歩いていると、寒さで歯はガチガチと鳴っていましたが、心の中はポカポカと暖まる思いでした。すると、再び親しげな声が聞こえてきました。今度は英語です。『ちょっとこちらへいらっしゃい。お乗りになりませんか。』キムと申しますと言って自己紹介したその紳士は、その町に住む裕福な人でした。『アメリカに住んでいたときレッスンを受けたんですが、バプテスマを受ける前にこちらへ引っ越してきたのです。私はモルモンの人たちが大好きで、ぜひもう一度教会のことを勉強したいと思っています。何かお手伝いできることがあ

れば言ってください。レッスンのために私の会社の事務所を使ってもいいですし、もしよろしければ社員にもレッスンしてくださいませんか。』

断食と祈りの力について心から証できるとハント長老は断言しました。

「主は確かにその日、私たちの上に祝福を注いでくださったのです。このようにして私は伝道中、たびたびみたまの導きを感じました。ある日、朝の祈りをしていると、英語版のモルモン経を持っていくようにという強い気持ちがしました。これまで伝道中に英語版のモルモン経が必要だったことは一度もありませんでしたが、みたまの導きに従いたいと思いました。私も同僚も新しい英語版のモルモン経を持っていなかったの、伝道しながら回り道をして伝道本部へ立ち寄ることにしました。ところが、私はほかの宣教師たちのおしゃべりにすっかり夢中になってしまい、配送センターでモルモン経を買うのを忘れてしまいました。あとで思い出して自分の不注意を悔やんでいると、ちょうどスチーブンス姉妹とその同僚に会いました。『英語のモルモン経を持っていますか。』いきなり尋ねた私に、『はい、どうぞ』と1冊手渡してくれました。

夕方、街頭伝道をしていると、韓国人の紳士が教会を紹介する展示品に非常に興味を示しました。私はその人に近づき、黄金の質問をしました。すると、驚いたことに、彼はアメリカ生まれの二世の韓国人であると英語で答えたのです。そしてこう言いました。『私はあなたがたの宗教に大変興味を持っています。英語版のモルモン経がありませんか。私は韓国語は読めないんです。』私が伝道中に英語版のモルモン経を用意し、それが役立ったのはまさしくこの日だけでした。」

「されど、汝らに命ず、すべて何事も惜むことなく与えたもう神に願うべし。また、『みたま』の汝らに証したもうところを汝らの為すはわれ正しく望むところなり。すなわち、汝ら全く聖きところを以てこれを為し、わが前に正しく歩み、汝らの救いの末に就きて考え、祈りと感謝とを以て何事をも……為さんことを。」(教義と聖約46:7)

真の靈性

ドナ・シン

キリストは天の御父から靈的な力を受け、一生涯御父のみこころを行ないました。主は絶えずほかの人の生活を祝福するためにみ手を伸ばそうと心に懸けておられたので、道を誤ることなどはあり得ませんでした。主が世の救い主としての資格を備えることができたのは、主がこのように天父のみこころを行なおうとされた強い意志の力によります。また、自制心、みずからの使命に対する深い理解、父なる神、そして人々のために進んで行なった自己犠牲、ほかの人々の生活を永遠に変わらぬ祝福で満たしたいという願いと愛によるのです。主は天父の栄光と私たちの救いのためにご自身の命を捨てられ、みずからの意志を天父のみ旨に添わせることにより、私たちに永遠の生命を得る機会を授けてくださいました。

キリストは私たちにとって大いなる模範です。主は言葉と行ないを通して、天父のみもとへ行く道、すなわちこの世においても来たるべき世においても完全な者を目指して進む道を教えてくださいました。その道とは、ほかの人の生活を祝福する道であり、神に仕え、神の戒めを守る道です。愛と真理の実を結ぶ聖霊を伴侶とするためには、何よりもまず神と人々に仕えようと努めなくてはなりません。皆さんは失望して暗い気持ちになると、必ず内向的なものの考え方をするようになります。決して次のようには考えません。「ほかの人を助けるにはどうしたらよいだろうか。現状を改善するために、私にできることは何だろうか。私の励ましを必要としているのはだれだろうか。神はみ業を推し進めるために、今ここで私が何をするように望んでおられるのだろうか。」おそらく皆さんは、むしろ次のように考えるでしょう。「きょうはなんて嫌な日だ。事情が変わりさえすればどんなにかいいのに。こんな状態から抜け出すにはどうしたらいいだろうか。私はどうしてここにいろん

だろう。私には何の価値もない。」

前者のような問いを発する人たちの心はおもにほかの人々に向けられ、愛と真理のみたまに満ちています。それに対し、後者の人たちの心は、自分の関心事や慰めにばかり向けられ、みたまの力を締め出してしまいます。靈性が低く、暗い気持ちになっているときには、考えることに気をつけてください。努めて外へ目を向け、自分以外の人々のことを考え、助けるようにしてください。そうすれば聖霊の導きを受けることができます。

ある日、私は暗い気持ちになっていました。そのとき、ふと見上げると、

わたしのため、
また福音のために、
自分の命を失う者は、
それを救うであらう。
(マルコ 8 : 35)

涙に暮れている人の姿が目にとまりました。すると、急に私の悩みはどこかへ消え去り、その困っている人を慰めるにはどうしたらよいかということばかり考え始めました。その間、自分のことはすっかり忘れていたのです。これこそまさに鍵と言えましょう。ほかの人の生活を祝福するように熱心に努めるならば、自分の悩みは忘れてしまうのです。主は次のように教えておられます。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6 : 33)「わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであらう。」(マルコ 8 : 35)みずから教えられたとおりに生活され、世を救われた主の模範に従ってください。自分の考えに気をつけ、自分を満足させ、自分を慰めることばかりに気を取られているときには、ほかの人のことを考えましょう。そうすれば、聖霊の力を受け、だんだんと気持ちが軽くなるに違いありません。皆さんがそのように努力なさるときに、主の恵みが豊かに注がれますようにお祈りいたします。

(ニュースレター、1989年7月)

敬虔さ

初等協会の指導者は、主の宮居である教会では敬虔さを示すべきであると子供たちに教えるよう努めていることでしょう。すべての成人会員は、この重要な原則をみずから模範として示さなくてはなりません。そのためには、次の事柄を行なってください。礼拝の精神をもって礼拝堂に入る。主と交わした誓約を新たにするように準備する。絶えず聖霊の導きを受けられるように生活する。前奏曲や祈り、話によく注意して耳を傾ける。

礼拝堂で行なわれるすべての聖なる儀式に、次のようなふさわしい態度で参加してください。

- おしゃべりをしない。
- 人と話す必要があるときには、小さな声で静かに話す。

教会の所有物を大切にし、良く手入

れをすることも、敬虔さの表われです。子供たちは賛美歌集をおもちゃにしたり、カーテンで遊んだり、いすなどの上に乗ったりしてはなりません。

子供がおなかをすかしている場合には、礼拝堂の外へ連れ出して食物を与えてください。子供が騒ぎ立てる場合には、責任ある大人が静かに子供を外へ連れ出し、走り回ったり遊んだりしないように付き添って監督します。

すべての会員は礼拝堂を出るときに、きれいに片付け、整頓するようにします。

もし私たちが以上のことを行なうならば、「汝〔神〕を敬う者に汝〔神〕の宮居に於て注ぐことを定めたまいし祝福」(教義と聖約109:21)を受ける備えをすることができるでしょう。

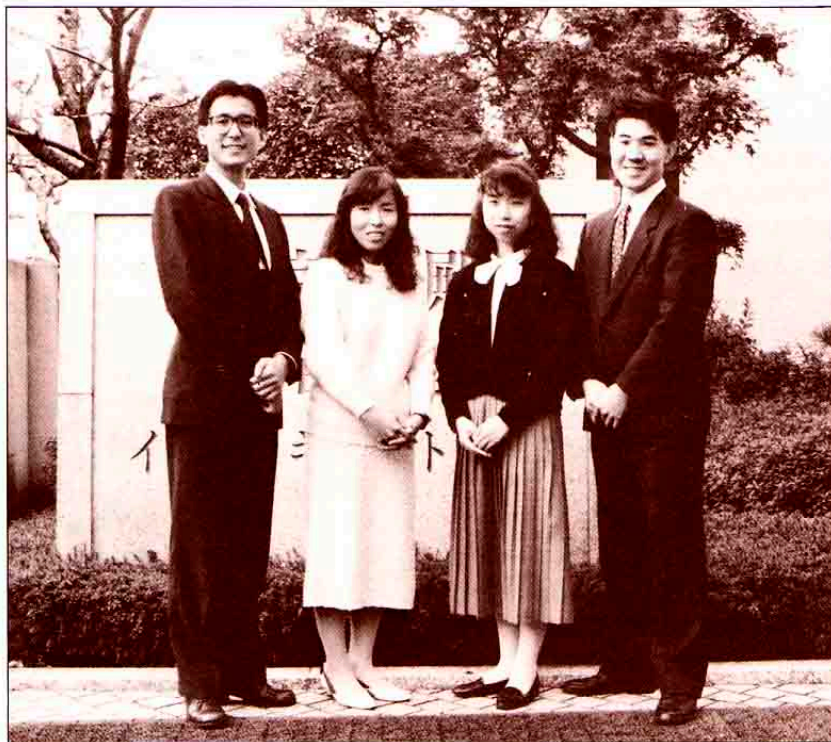
12月に召された 専任宣教師

第127期生 4人

左から1-4

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 高村 聡 <small>たかむら さとし</small>	西台北S / 台北第5 W	台湾台中伝道部
2. 田島 弘子 <small>たしま ひろこ</small>	鹿児島D / 川内B	神戸伝道部
3. 森井美智子 <small>もりい みちこ</small>	札幌西S / 新琴似W	仙台伝道部
4. 高良 広太 <small>たかひろ ひろた</small>	大阪北S / 城陽B	仙台伝道部

S : スターキ部, D : 地方部, W : ワード部, B : 支部



聖書 あと わずか4,263 の言語



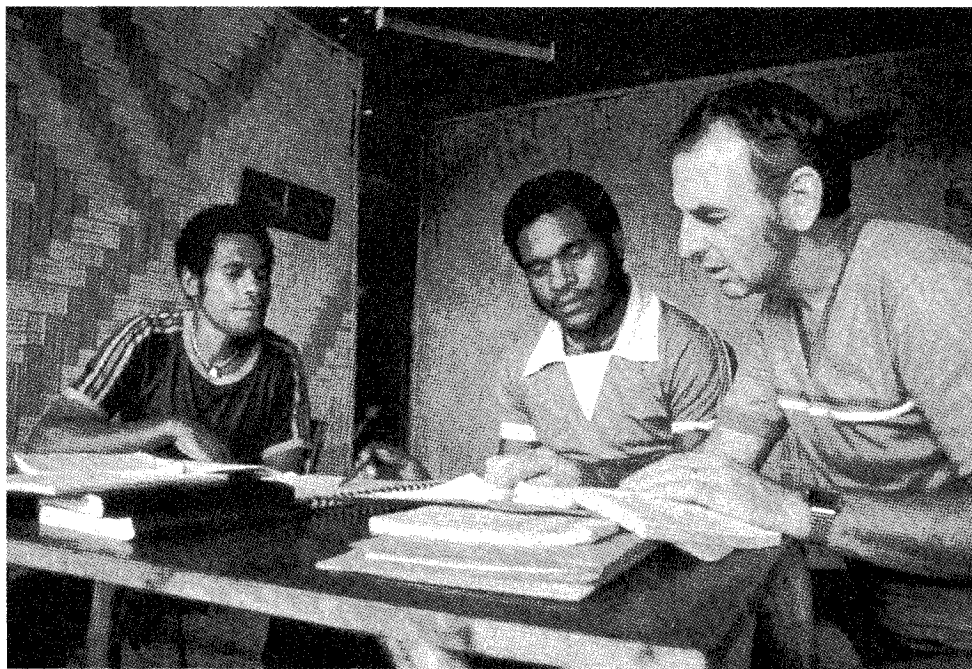
ジョセフ・G・ストリンガム

教会の今年の学習課程は旧約聖書です。聖書はどのようにして世界の隅々にまで伝えられていくのでしょうか。これはその興味深い研究です。

私は聖書の価値を十分に認識していないのかもしれませんが、聖書を読んでいるときでも、予言者や救い主がお使いになった言葉は今自分の使っている言葉とは異なるという事実をふと忘れていくことがよくあるからです。しかし、改めて考えてみると、こうして聖書を読めるのも、靈感を受けた数多くの学者たちが翻訳をしてくれたおかげだということがわかります。もし私たちが皆、ヘブライ語で書かれた旧約聖書を読み、ギリシャ語で書かれた新約聖書を読まなければならないとしたら、一体どうなっていたのでしょうか。

私たち末日聖徒の現在を考えてみると、聖書の翻訳者の恩恵をかなり被っています。教会の宣教師たちが、聖書を持っていない民の中で伝道を開始した例はまれです。人々に完全な福音を受け入れる備えをさせるうえで、聖書の存在はきわめて大きな要素なのです。

聖書は現在では310の言語で出版されています。ほとんどの人は、それほど多くの言語が世界に存在することさえ知りません。しかし、実はこれだけではありません。新約聖書は、さ



パプア・ニューギニアで働く聖書翻訳者たちは、聖典の中の一番わかりやすい言葉でさえ、地元の先住民に身近な言葉を使う必要があることを知った。

らに695の言語で出版されています。しかも、少なくとも聖書の1書、——普通は新約聖書の中の4つの福音書のひとつ——が以上に加えて902の言語に翻訳され刊行されています。この1,907の言語で、全世界の人口の97パーセントが、自分の読める言語で少なくとも聖書の1書は持っていることとなります。その大部分は、最近30年間に翻訳されたものです。

聖書の翻訳は、19世紀になってから拍車がかかり出しました。当時、おもだったキリスト教会は、それぞれ独自に翻訳を進めており、教派間の協力は皆無に近い状態でした。しかし、今世紀に入ってから、聖書翻訳の出版や配布に協力体制が敷かれ、今でもその努力が続けられています。さらに現在では、原語の使用者を翻訳者として起用する傾向にあります。

ほとんどの国には聖書協会があり、そこで聖書が出版されています。1946年には、様々な国の聖書協会が一堂に会し、聖書協会世界連盟が組織されました。この組織は、あらゆるキリスト教会を援助して、聖書の出版や配布を進めています。また、聖書を翻訳したいと考えている地域には、顧問団を派遣します。この顧問団は、翻訳経験者の場合がほとんどですが、ギリシャ語にもヘブライ語にも精通した人々です。さらに、聖書協会世界連盟は、聖書の各節ごとに、重要な意味を持つ表現について細かく解説し、語の表わす概念の違いを明確にするために同義語のリストを作るなど、資料の作製や出版にも力を尽くしています。現在では、かなりの数のキリスト教宗派が、この連盟の援助を受けながら、共同で翻訳を進める例が多く見られるようになりました。

(現在、聖書を配布する最大の組織は米国聖書協会です。ここは最古の組織ではありませんが、100万人以上の維持会員と様々な分野で奉仕する5万人以上のボランティアを擁しています。新しい聖書翻訳を開始する場合、人材はおもにここから派遣されています)

世界の97パーセントの人々が聖書の全訳ないしは部分訳を利用できるということで、あと一息と思うかもしれません。すでに聖書の部分訳のある言語では全訳を完成させ、それから残りのわずかな言語について翻訳に着手し、それで全世界に聖書が行きわたる。そう思えるかもしれませんが、残念なことに事態はそれほど簡単ではありません。

現在、6,170の言語(方言ではなく、独立した言語)があると考えられています。ここからすでに翻訳が開始されている1,907の言語の分を引くと、残りの3パーセントの人々が使用する4,263の言語が残ります。こうした言語は、人里離れた地域でごく少数の人々が使っているだけです。しかも、文字を持つものは皆無に近く、話し言葉しか持たない言語がほとんどです。それでも、聖書の翻訳は最終的には可能な限りあらゆる言語に及ぼしていかなければならないと考えている翻訳者たちがいます。

しかし、この事業の大きさを考えると次のような疑問が浮かんできます。「各国の公用語か、交易で使用される地域的な共通語で聖書を出版した方が、もっと人の理解を得やすいのではないだろうか。」

これに対するひとつの答えは教義と聖約の中にあります。「誠にその声は……出で去りて、全世界と世のあらゆる隅々までも及ぼざるべからず。すなわち、わが福音はあらゆる人々に説き教えられざるべからず。……」(教義と聖約58：64。下線付加)

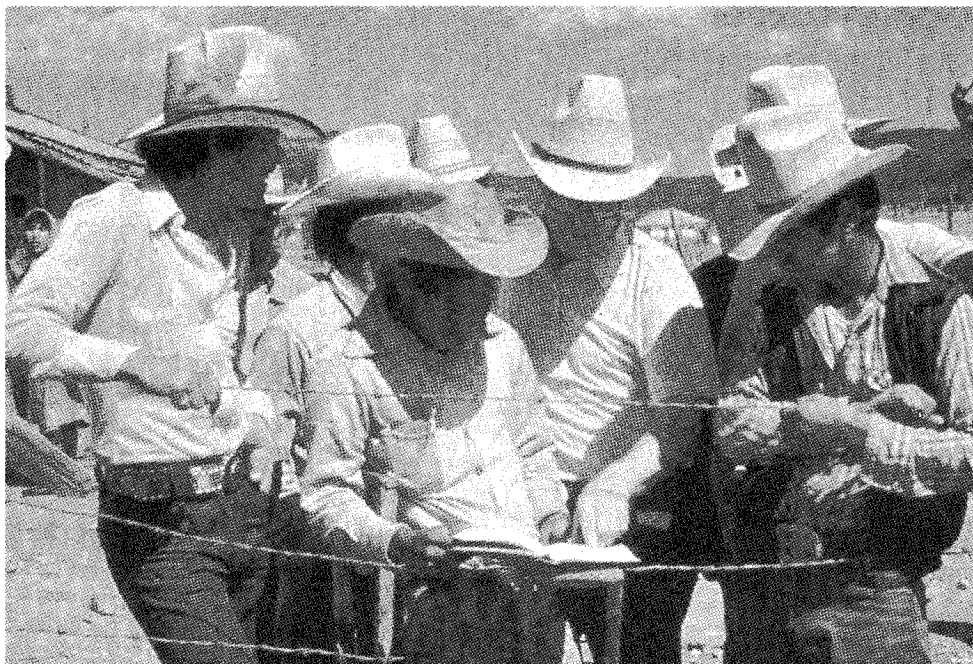
聖書の翻訳者であるリリアン・ハウランドは、ほかに次のような有力な根拠を教えてくださいました。「末日聖徒の教会では、家庭における両親の役割を強調していますが、それに加えて、各家庭でそれぞれの母語で書かれた聖典を備えるには、もうひとつの重要な理由があります。それは改宗のためです。もし教会で使う言語が日曜日以外のほかの6日間で使う言語と異なっていたとしたら、宗教上の行ないも同じように異なってきます。宗教の教えは1週間のうち1日しか人々の生活に影響を与えないようになるでしょう。1週間に1日しか聖書を読まず、1週間に1日しか祈らないようになるでしょう。言葉がわからないために、日々の生活の中から神が姿を消してしまうのです。母語で記された聖典の役割は、まず第1にその言語の使用者に救いと日々の成長をもたらすことなのです。家庭でその務めを果たせるよう助けることは、二義的な目的でしかないのです。」

ほかの聖書翻訳者の助言もあって、私はある実験を試してみました。1週間にわたって、聖典を母語の英語ではなく、私にとっての第2外国語で読んでみようとしたのです。しかし、この実験は1週間も続けられませんでした。興味がそがれて、一度聖書を閉じてしまうと、二度と開いてみる気にならなかったのです。読み取るのが困難で、表現の微妙な違いもわかりませんでした。このことから、私は聖典を深く理解できるかどうかは、自由に読み自由に考えることができるかどうかにかかっている、ということがわかったのです。

この経験を通じて、私は聖書をあらゆる言語に翻訳する必要性がよく理解できました。もちろんそれを実現するにはむずかしい現実の問題が数多く残されています。聖書のある部族の言語に翻訳する場合、平均的には、50万ドル(約7,000万円)以上かかります。これだけの費用をかけても、新しい言語で聖書を出すには、初版第1刷分の費用にしかなりません。したがって最初から正確な作業が要求されるのです。

およそどの言語を取っても、ほかの言語には見られない固有の特徴を持っています。例をあげてみましょう。英語は、一連の出来事を「時間」の流れに従って記述するという点で、へ

聖書の翻訳は、人人に完全な福音を受け入れる備えをさせるうえで、きわめて重要なステップなのである。この写真は、メキシコの地元住民とスペイン語訳の聖書を見る翻訳者。



ブライ語やギリシャ語と類似しています。ところが、ペルーのヤグア語のように、「場所」や「距離」の相互関係によって出来事を記述していく言語もあるのです。こうした言語では、「それ以前」とか「そのとき」といった言葉で文を続けることはできません。翻訳者は「その場所から」とか「その地点から離れて」といった表現を使わなければならないわけです。

翻訳者たちは、翻訳を開始する段になると、様々な問題に直面します。これまで、熱意あふれる宣教師たちが、その言語を自由に読み書きできないうちに翻訳したこともたびたびありました。また以前は、ヘブライ語やギリシャ語の最良の原典を利用せずに、1度翻訳されたものを基にして重訳が行なわれたこともありました。翻訳者は、教義や文化に対する自分の考えに左右されずに言葉の選択を行なうよう、注意する必要があります。

ほかにも、翻訳者は読者の文化的背景にも注意しなければなりません。ある翻訳者のグループは、パプアニューギニアの高地で使用されているユカランパ語の翻訳の進展具合について、次のような報告を寄せています。ひとつには、現地の住民がよく知っている単語を使うよう、注意する必要があったということです。たとえば、イザヤ1:18には、罪を赤に、赦しを白にたとえて、白の例に雪と羊の毛を取りあげている箇所があります。しかし、その部族の人々は赤や白は知っていても、雪や羊の毛を見たことがありませんでした。そこで翻訳者はこの問題を次のように解決しました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、オウムの羽のように白くなるのだ。」この地域には白色のオウムが多数分布しているのです。

フィリピンで働いていた翻訳者には、また別の問題がありました。その翻訳者はヨハネによる福音書の翻訳を完了し、印刷を終えると、一緒に生活していた部族の人々に数冊プレゼントしました。しかし、気に入る人はだれもなく、読んだ人もだれもいませんでした。しばらく調査した結果、その言語にはふたつの文体があることがわかりました。小説体と実話体です。その翻訳者は小説体を使って翻訳していました。こうして、実話体で翻訳し直された新しい版は、今度は広く受け入れられたのでした。

言葉の選択に失敗した不幸な例が、詩篇第23篇のトリンギット語への最初の翻訳にあります。この言語は、合衆国のアラスカ州に住む、あるインディアンが使用しているものです。その翻訳ではこうなっていました。「主はわたしのやぎ飼いであって、わたしには主はいらない。主はわたしを山まで運び上げ、浜辺まで引きずりおろされる。」

ひとつの言語と文化をほかの言語と文化に翻訳する作業には、無数の困難がつきまとうため、「完璧な」あるいは欠陥のない翻訳といったものは存在しません。ジョセフ・スミスが信仰箇条第8条で指摘したように、「正確に翻訳されたる限り」という限界は、今でも真実なのです。

それでも、聖書の翻訳に際しては、みたまと人間の言語との間に協力関係が見られます。翻訳はみたまをもたらし、みたまは人の言語の欠陥を補ってくれます。主は私たちに、あらゆる国民を教え、すべての造られたものに福音を宣べ伝えるよう、命じられました。主は私たちがその命令を成就するに必要なすべての力を持っておられます。それが私たちの信仰なのです。(マタイ28:18-20; マルコ16:15参照)主は人と意思の交流を図る方法を次のように説明されました。

「これらの誠命いましめはわれより出で、わが僕らの理解せんがため、彼らの言葉ふりにならいてわが僕らの弱きままに与えられたり。」(教義と聖約1:24)□

*ジョセフ・G・ストリングム：教会翻訳課の言語学担当者、ユタ州バウンテフルのバルベルダ第6ワード部伝道主任。

ひとつの言語と文化をほかの言語と文化に翻訳する作業には、
無数の困難がつきまとうため、
「完璧な」あるいは欠陥のない翻訳といったものは存在しません。

語学夏季講習所 (サマーインスティテュート)

聖書翻訳の先駆者のひとりにウィリアム・カメロン・タウンゼンドという人物がいます。1917年、当時21歳だったタウンゼンドは、雇われて中央アメリカでの聖書の販売を請け負いました。グアテマラのジャングルの中で、カクキケルのインディオと文字どおり顔と顔を合わせた彼は、スペイン語版の聖書を売ることはできたのですが、ほとんどの人が読めなかったのです。どの学校でもスペイン語が公用語として教えられていましたが、カクキケル族の中にはスペイン語で自由に話のできる人はほとんどいませんでした。しかも、彼らの部族の言葉には、文字がなかったのです。

ある先住民がタウンゼンドに尋ねました。「あなたの神はどうして私たちの言葉で話さないのですか。」タウンゼンドは、納得のいく答えをすることができませんでした。彼は契約期間が過ぎてからも、そこにとどまり、やがてカクキケル語を話せるようになると、その表記法を発明しました。こうして、新約聖書の翻訳にとりかかりました。完成までに12年かかりましたが、その翻訳のおかげで、この民も聖典に対して敬意と希望と愛を抱くようになりました。同時にカメロン・タウンゼンドは生涯の仕事を見いだすことになったのです。

1934年、アーカンソー州にある農家の廃屋を利用して、タウンゼンドは、いわゆる「語学夏季講習所」を開設しました。最初の年、わずかふたりの参加者で始められたこの講習所も、現在では3,000人も参加するようになり、操縦士や無線技師、看護婦、教師といった専門職を持った人々の語学訓練も行なっています。また、翻訳者たちはふたり1組になって、世界中の名もない民のところへ出かけていきます。そこでその言語を学び、その民に読み書きを教え、それから現地の言葉を話す人々とチームを作って、新約聖書の翻訳に着手します。この作業にはさらに、12年から14年ほどかかります。ここから派遣された人々の中には、20年も現地にとどまって、旧約聖書の翻訳までする人さえいます。ひとりの言語熟練者が聖書の翻訳に全生涯をかけて、やっとふたつの言語に翻訳できることとなります。

この語学講習所から派遣された人々は、風土病や災難のために、10人にひとりが現地で命を落としています。1982年には、ゲリラの銃弾に倒れた人もいました。かなりの数の人々が原始的な生活を送っています。しかも多くの場合、それは人里離れた場所で行なわれています。それでも、この人々はお出かけていくのです。

私たちは聖書の翻訳に携わる人々に深い尊敬と感謝の気持ちを抱く必要があります。今でも、他人の幸福を第一に考える立派な翻訳者たちが、その家族と共に砂漠やジャングルの中で、ときにはおそらく神にしかその消息がわからない民と共に働いているのです。そうした人々に感謝することを忘れないでください。彼らのために祈ることを忘れないでください。私たちにはこうした人々が必要なのです。□



夏季語学研修所創設者、
ウィリアム・キャメロン・タウンゼント
(1896—1982年)

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

質疑応答

私は毎日聖典を勉強していますが、
学んでいるという実感も、
進歩しているという実感も
わかないことがよくあります。

霊的な知識は
どのように深めたらよいのでしょうか。



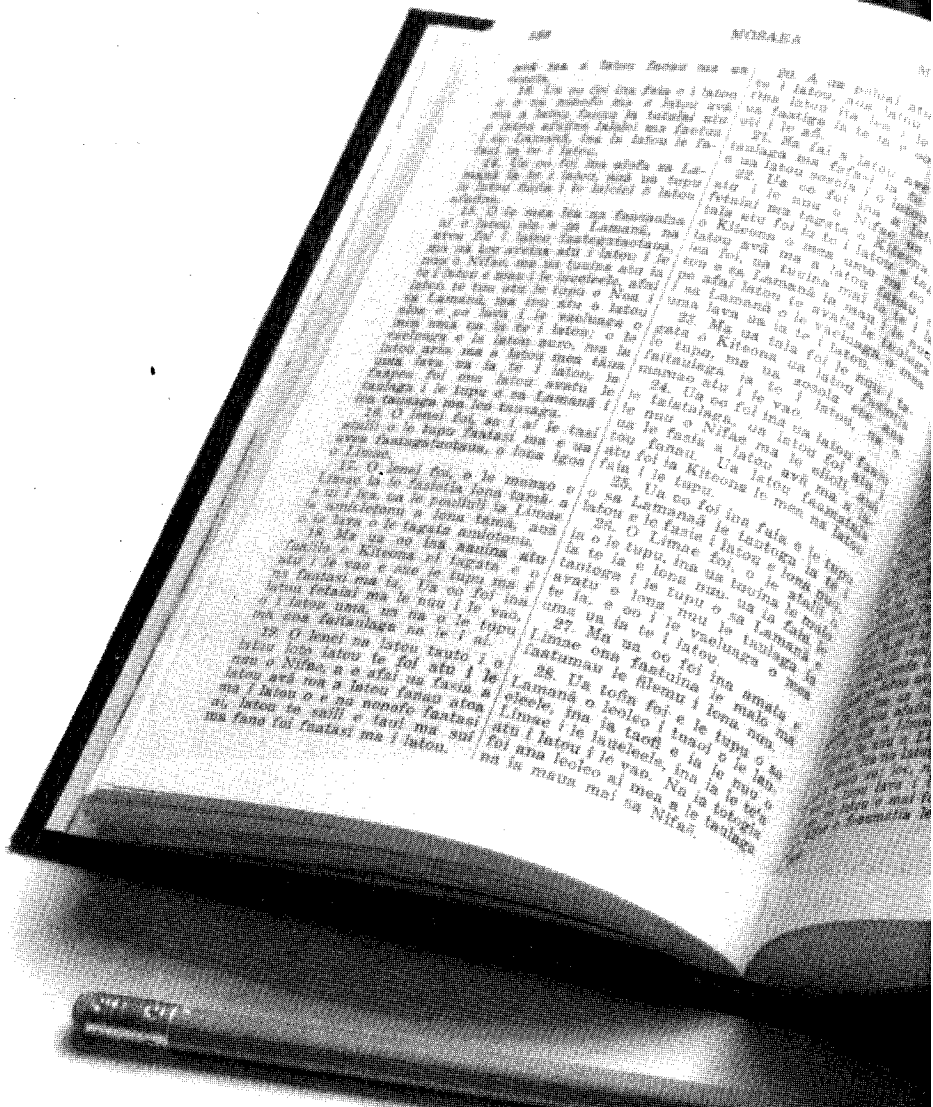
ロジャー・K・テリー
ユタ州プロボ、
プリガム・ヤング大学
経営学部

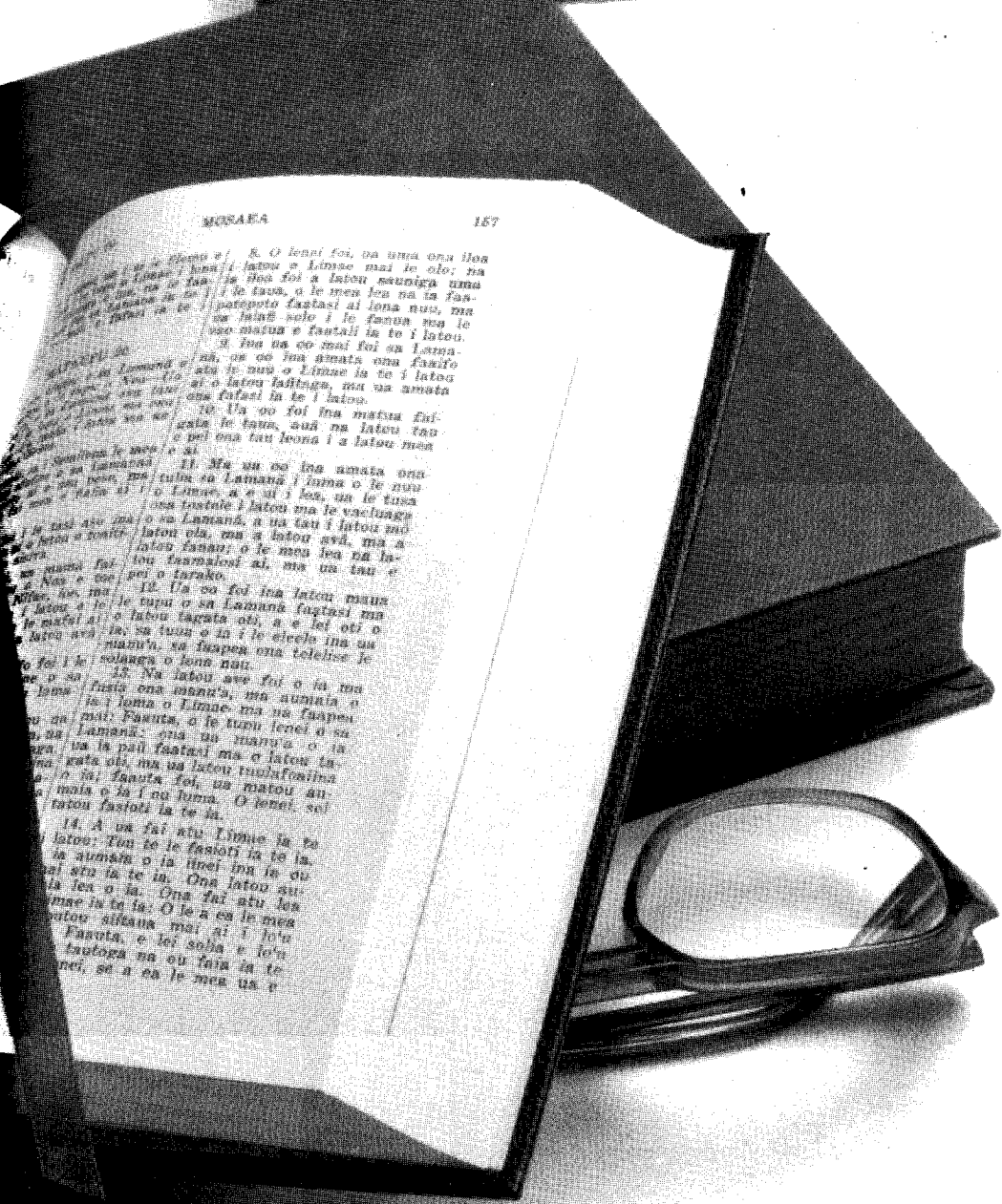
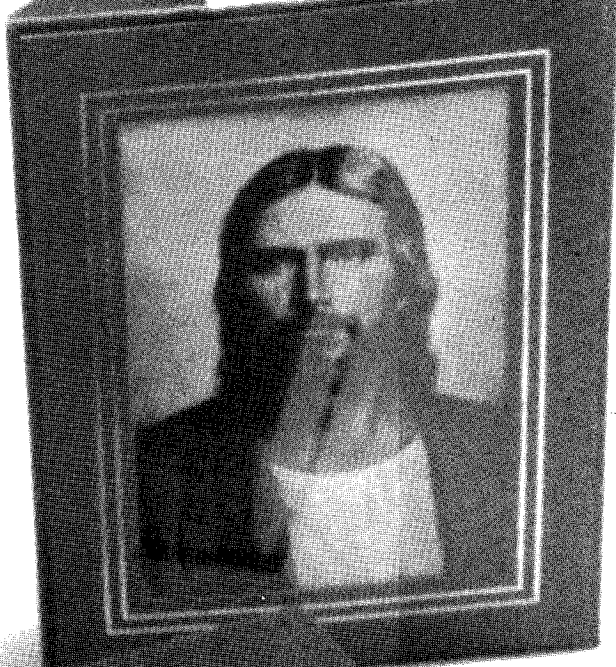
私たちは無知のまま救
われることは不可能
であると、生涯を通じて教
えられています。そこで、
福音を勉強し、聖典を相互
参照し、予言者たちの言葉
を深く考えてみるわけです。
しかし、ときに、力強い証
を聞いたり、ひざまずいて
熱心に祈ったりしたあとで、
もっと深く学ばなければなら
ないと語りかける声が、
何となく聞こえてくるよう
な気がするがあります。
そして突然、昔の予言者た
ちは一体どうやってあれだ
けの深い知識を身につけた

のだろう、と不思議に思う
のです。

私にとっては、少なくとも
も次の点だけははっきりし
ています。つまり、真の意
味で霊的な知識が深まると
いうことは、福音の概念を
理解する段階から福音を体
験する段階へと進むことで
す。

たとえば、新しい外国語
を学習する場合、まず文法
や語彙を学びます。十分に
訓練を積んで努力を重ねれ
ば、正しい発音やアクセント
を身につけることもできる
でしょう。しかし、その





外国語を真の意味で理解するためには、相当の時間をかけて、実際にその言葉を使う人々と話したり、また話を聞いたりする必要があります。その言葉が使われている文化の中で、その言語を実際に十分使ってみて初めて、人はその外国語を真の意味で理解できるようになるのです。

目の不自由な人が、色彩や光の理論や、視覚構造に関する専門家になったりすることは可能です。神経や組織がどのように機能して目に映った像を脳に伝えるのか、といったことは理解できるわけです。しかし、見るということに関して言えば、目の不自由な人の理解が、実際に見るという体験をしている人の理解と同じである、とは言えない部分が残ります。

同じように、福音を知的な意味で理解することは可能です。教義上の原則についてかなり深いところまで理解することもできるでしょう。しかし、それでも本当の意味で福音を「知っている」とは言えません。それは、宗教においては、大学の科目とは比較にならないほど、実際の体験というものが決定的な要素を持っているからです。たとえば、信仰は、それをどのように行使したらよいかということを知り、自分で正しい生活をすることによって信仰を深めるようになるまでは、単なる概念でしかありません。そうした段階を経て初

めて、信仰は力になります。つまり、生きた力を持つ原則となるわけです。

悔い改めについて知識を得ることもできますし、イエス・キリストが救い主として自分の罪を清める力を持っておられる方であるという証を持つこともできます。しかし、救い主の贖いの犠牲を受け入れて、自分の罪が実際に赦されたということを実感して初めて、本当の意味で悔い改めと赦しを理解したと言えるのです。

霊的に生まれ変わるということについて教義を勉強することは可能です。しかし、大きな改心を感じ、自分を変えて真の聖徒となり、キリストによって新しく生まれ変わる限り、生まれ変わるということの神聖な意味についてはほとんどわからずに終わってしまいます。

聖霊について、また個人が啓示を受ける方法について、研究することは可能です。しかし、永遠の真理に従った生活をし、聖霊を受けるにふさわしい者とならない限り、聖霊が導き共にいてくださるという、神から授けられる平安を完全に理解することはできません。

命のパンと水について説明することはできます。しかし、実際にそれを味わってみないうちは、確信と権威とをもって説明できません。

深く学ぶためには、体験に裏付けされた知識が不可



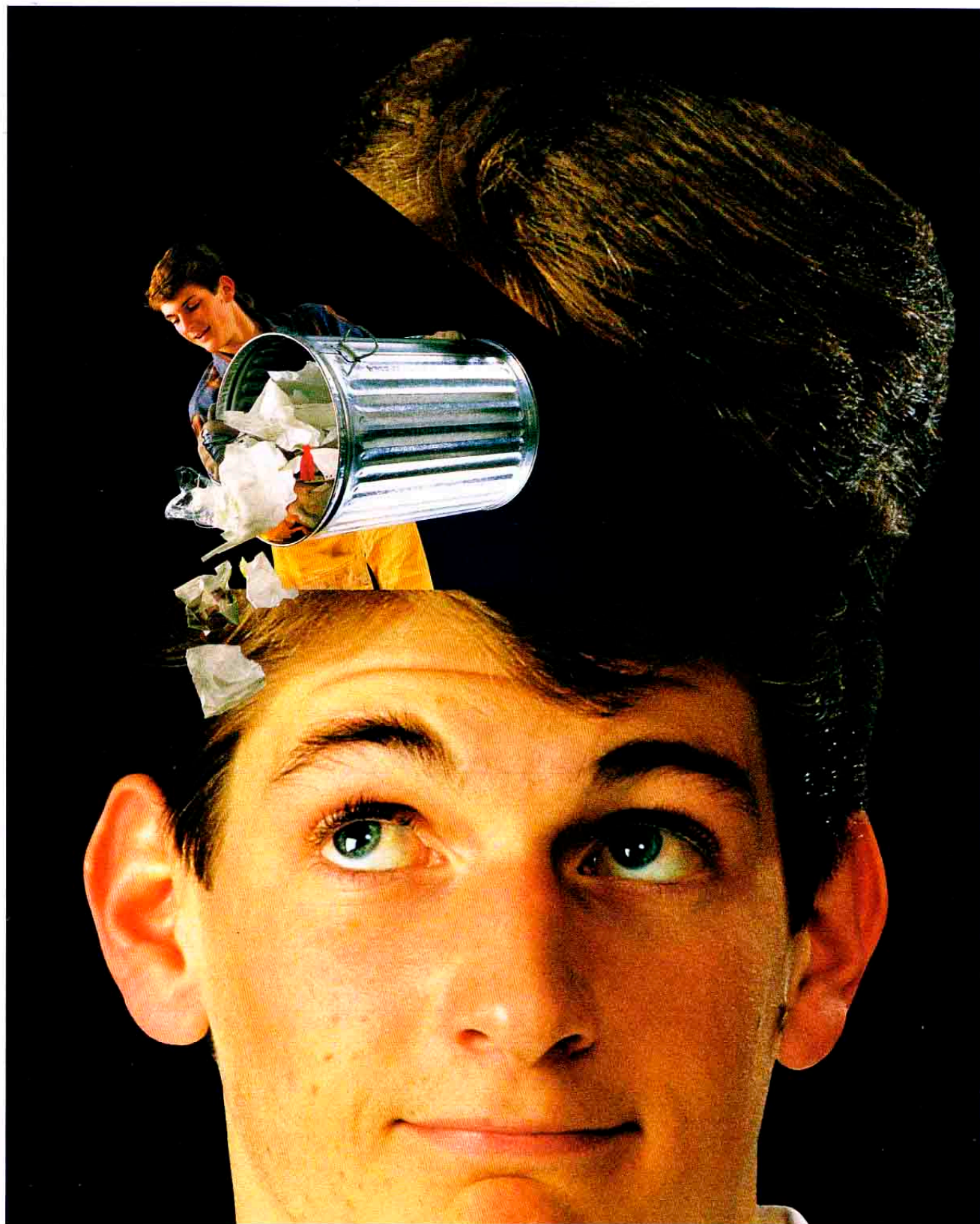
欠です。しかし、そのような体験をするにはどうしたらよいのでしょうか。私はそれを心の問題、すなわち従順さと献身の問題だと考えます。「見よ、主は真心と喜びで事に従う精神とを求めむ。」(教義と聖約64：34)

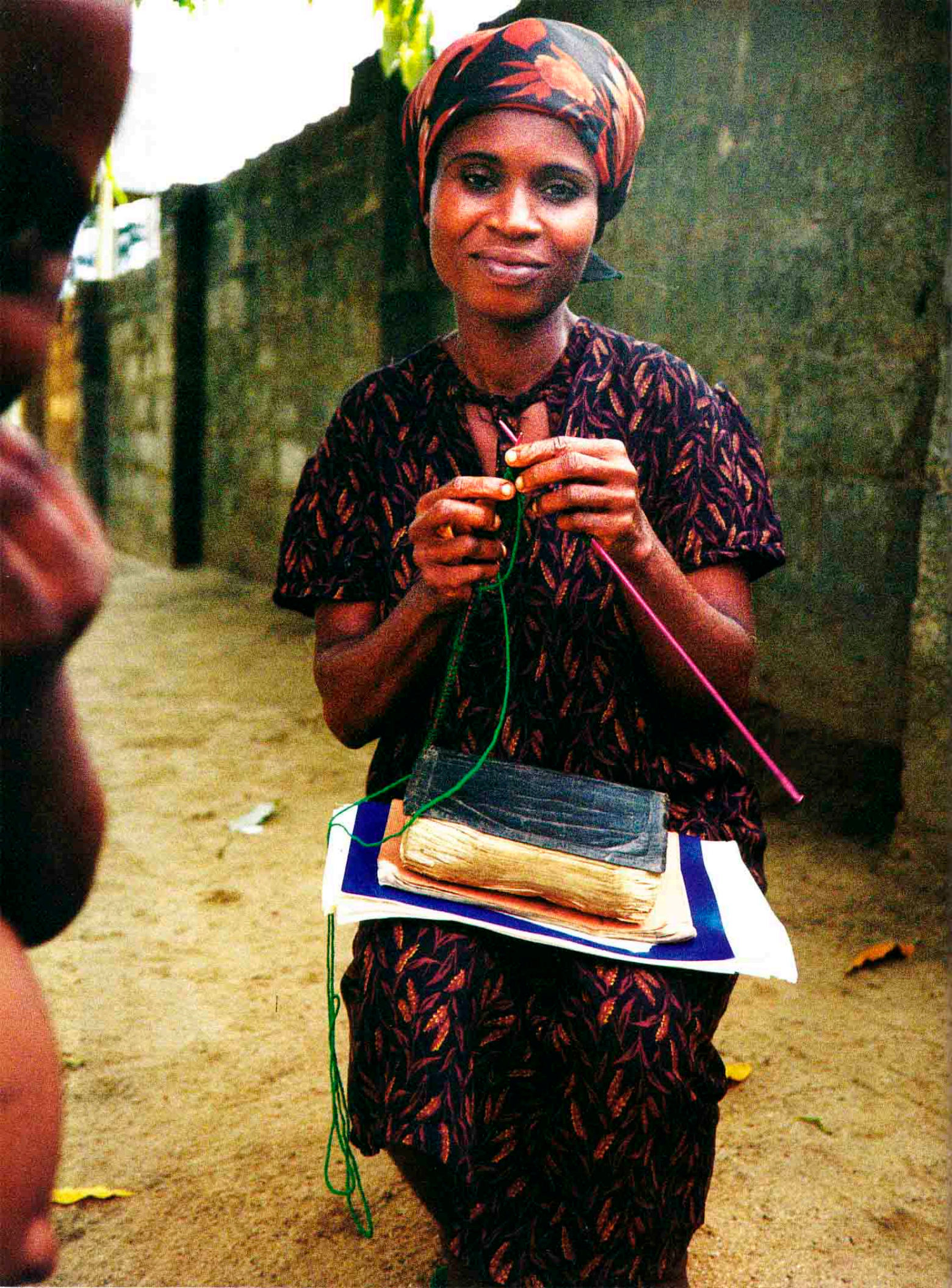
モルモンは、大きな迫害に遭っていたころの神の教会の民について語り、彼らがどのような霊的な祝福を受けていたか、次のように述べています。

「しかし謙遜な人たちはたびたび断食して祈り、ますますへりくだっていいよ固くキリストを信仰したから、喜びと慰めとがその心に満ち、その胸は清く神聖になった。このようなきよめはこれらの人がその心を全く神に従わせたからできたのである。」(ヒラマン3：35。下線付加)

私たちが体験を通して得る知識の多くは、このように心をまったく神に従わせ、神のみこころを行なった結果にほかなりません。私たちの心を常に神のみこころに従わせることは、学ぶ過程においては、ときに最もむずかしい問題になります。神のみこころに喜んで従うことは、大部分の人にとっては、決して生まれながらの性癖ではないからです。大抵の場合には、真心から祈り、断食することによってのみ、そうした柔和な心を持つ備えができ、正しい生活をしたいという望みを強めていくことができるのです。□

ゴミのような思いを捨てなさい





エカエツテの世界

アン・レムリン

あるナイジェリアの姉妹は、真の奉仕とキリストの教えを実践することを私に教えてくれました。

2 年半ほど近所に住んでいたエカエツテという名前の友達を皆さんに紹介したいと思います。彼女は、アフリカで最も人口が多い国、ナイジェリアの熱帯雨林に住んでいます。雨季にはエカエツテの家は青々と茂った熱帯植物で覆われます。ヤシの木が地平線に林立し、雲間からさす太陽の光が壮麗な夕焼けを作りだします。乾季には、サハラ砂漠から吹く風が細かいほこりを運んで霞をつくり、照りつける太陽光線をさえぎります。

エカエツテは、私より2歳年上です。10歳年上のアクパンとの結婚が取り決められたとき、彼女はまだ若い女学生にすぎませんでした。最初の子供を産んだのはわずか14歳か15歳のときです。8人の子供が生まれ、そのうち5人が元気に育っています。家族は数年前に改宗しました。

アクパンは決まった仕事についていませんが、いろいろ雑務をこなしたり、人々のために物を修理したりしています。彼は自尊心に満ちた働き者で、善良な夫であり父親でもあります。

エカエツテは竹と竹の間を赤い粘土で固めて作ったすてきな家に住んでいます。草ぶき屋根は熱帯の豪雨から家族を守ります。家の中には堅い土の床があり、4つの部屋に区切られています。屋根のついた調理場は家とは別に設けられています。

世界中のほかの多くの地域と同様に、エカエツテの住む地方には電気が通っていません。エカエツテは火で料理をし、川で洗濯をし、熱い石炭が入っているアイロンを使います。

エカエツテの一日は朝早く始まります。彼女は子供たちと一緒にその日に必要な量の水を、家からそう遠くない川に行ってくんでこななければなりません。週に何度かは、森に行つて必要な薪を伐ります。それから薪を束にし頭に載せて家まで運ぶのです。

エカエツテの家族の食料はほとんど村の外にあるいくつかの小さな農場から調達されます。彼女は、カッサバ、ヤムイモ、バナナ、パイナップル、赤とうがらし、いろいろなスープ用の数種の野菜を栽培しています。

家族は幸せな毎日を送っています。

私は、発展途上国の子供たちの健康にかかわる調査を援助するトレーシャー・リサーチ基金で、村の保険衛生プログラムを指導していたときに、彼女と知り合いました。私は同僚と共に何十もの村で保健の講習を開き、栄養や衛生、個人と家庭の健康管理などの基本的な健康に関する原則を教えるためにボランティアの教師を訓練していました。その教師たちは自分たちの家や学校、教会、村の会議所などで、学んだことを教えたのです。

ある蒸し暑い夕暮れのことでした。私は、天井に取りつけられた発電機で動く扇風機の下に座り、届いたばかりの最新の新聞の記事に目を通していました。すると、節約のために家庭でできる実用的な提案が満載されているページが目にとまりました。たとえば、使用しないときには電気を消したり水道を止める、食料を大量に購入して小さな容器に分けて冷凍する、紙おむつではなく布おむつを使用する、長距離電話の支払いを削減するために手紙で済ます、空腹のときには買い物をしななどのアイデアです。確かに、これらの提案は実際的ですが、当時私が住んでいた世界とはまるで無縁な世界のことでした。

しかし、そうした現在私が住む世界とエカエツテの世界との違いにもかかわらず、私たちが結ぶものがあります。それはイエス・キリストの福音、すなわちキリスト教なのです。

私たちがどのように信仰を行ないに表わすかは私たちが置かれた環境や状況に幾分左右されますが、キリスト教そのものは環境や状況によって左右されることはありません。つまり、肌の色や人種、生計をたてる方法、あるいはマーケットで何を購入するかなどに影響されるものではありません。また、気候や地理的な位置によって

愛の心で参加したエカエツテは、
保健に関する
技術を習得しただけでなく、
学んだことを
周りの人々に伝えました。

決められるものでもありません。

私はアフリカから帰国するときには、キリスト教というものがどういうものか以前よりもわかりやすく説明できるようになっていました。私にとって、キリスト教は愛、すなわち慈愛、最も高尚で高貴な揺るぎのない愛、つまりキリストの純粋な愛なのです。これは施しや慈善的な行ないを促すかもしれませんが、慈善行為そのものを指すではありません。

言い換えれば、キリスト教で大切なのは、何をやるかというよりはむしろ、どのように愛するかであり、キリストが人々を愛されたように愛することを学ぶ過程であるといえます。教会は、私たちがキリストについて学び、クリスチャンとなる訓練をする場所です。しかし、図書館に座っているだけでは学者になれないのと同じように、教会の集会に出席するだけではクリスチャンにはなれません。教会は単に、クリスチャンになることを学ぶ方法や機会を与えてくれるだけなのです。キリスト教は自分と神、自分と周囲の人々との関係を教えてくれます。この関係を理解することによって、自分の心を変え、愛する能力を増すことができるようになるのです。

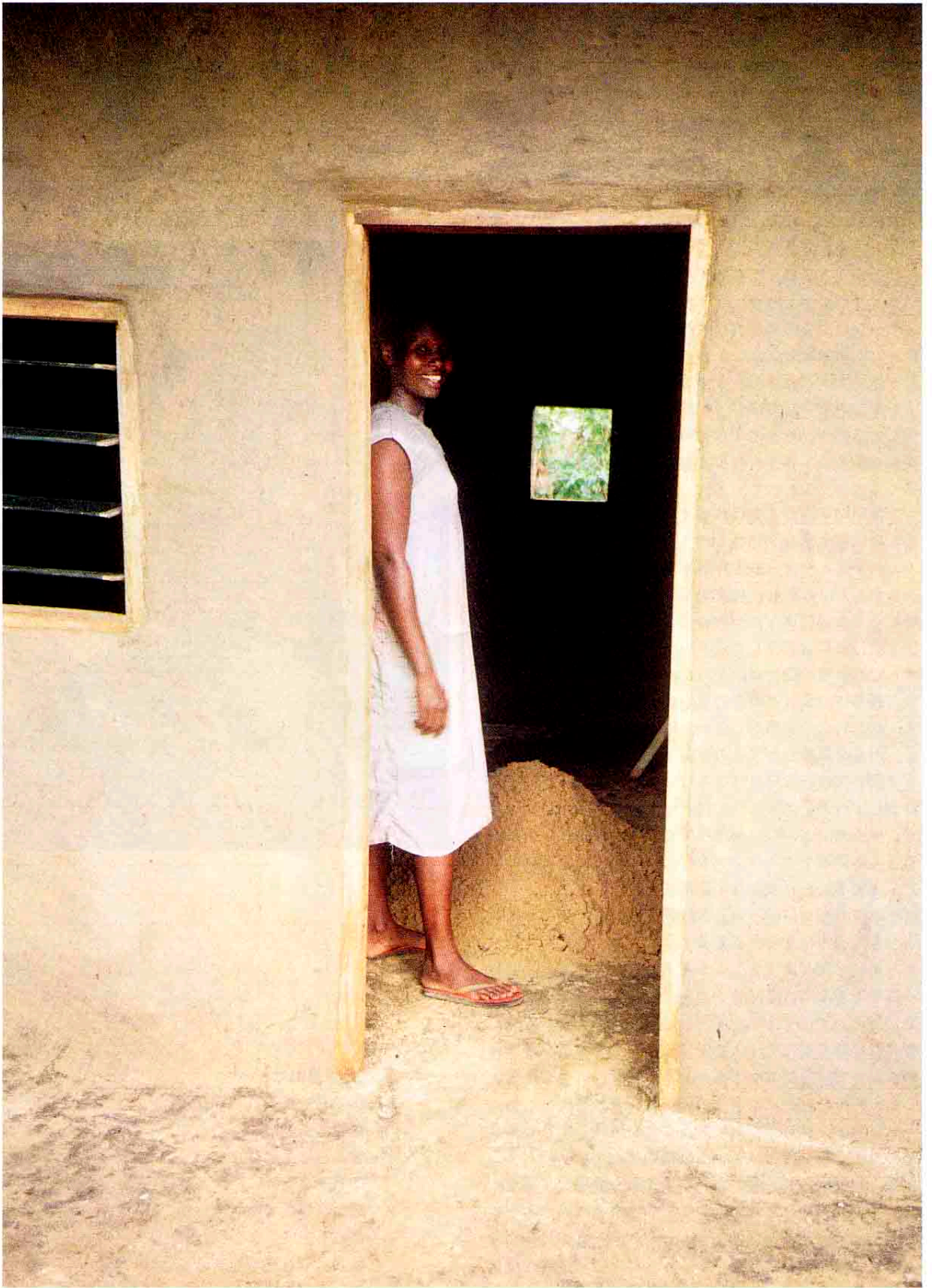
愛、犠牲、信仰、悔い改め、自立、奉獻などの原則は普遍的です。私はアフリカで働いて、このような原則がプログラムよりどれほど重要であるかを学びました。西側諸国は、発展途上国のためにたくさんのプログラムを提供しています。学校を建設し、診療所を設置し、薬を調剤し、トラクターを輸入し、食糧を配給しています。けれども、プログラムは緊急の必要を満たす手助けとはなりますが、実践の基盤となるべき原則を見失いがちです。食糧貯蔵や家族歴史活動などのプログラムは、どんなに価値あるものであっても、もし私がそれらのプログラムにばかり没頭していたなら、エカエツテのためにはならなかったでしょう。しかし、エカエツテと私は、信仰、愛、自立など、永遠の原則における基盤をふたりとも持っていたのです。これらの原則を実行しながら、私たちはお互いから学んだのです。

その地域の支部の扶助協会のレッスンに出席して、私は原則を教えることの大切さを知りました。テキストから抜粋されたレッスンのテーマは家庭をきれいに清潔に保つことでした。テキストにはきれいに整った、見るからに手入れがよく行き届いているアメリカの家庭のイラストが載っていました。教師は、西洋風の家をよく知らなかったのでしょうか、その写真を逆さまにして姉妹たちに見せていました。

その週の後半に、私はエカエツテの家を訪問すると、頭からつま先まで泥んこのエカエツテがほほえみながら出てきました。レッスンに啓発されて、家の大掃除をしていたのです。家の中のものを全部(そんなにはたくさんはありませんでしたが)外へ出し、新しい粘土を壁や床に塗っていました。彼女はすっかり興奮して、家の入り口をどのように飾ったかを説明してくれました。きれいな縁取りを施すために、暗い色の泥をまわりに使い、模様を入れたのです。とても美しく見えました。エカエツテは原則を学び、次に自分なりの方法で実際の生活に役立つように実行したのです。

エカエツテの模範により、私はキリスト教の原則を応用するために自分がどんな努力を払っているか考えさせられました。私の心に浮かんだ一番重要な原則で、最初に実行すべきだと思う事柄は、自分を省みることでした。たとえば私は、「それはいい考えだけど、実行する方法がないわ」と思うことが何度もあります。お金と物質的な問題がクリスチャンとしての奉仕を妨げる障害となるのです。しかし、クリスチャンになるためにはどんなものが必要なのでしょうか。ひざまずくためのマットや隣人と分かち合う温かいパンでしょうか。自分の持てるものを分かち合うにはお金持ちにならなければいけないのでしょうか。助けが必要な子供を見つけるためにアフリカまで行かなくてはならないのでしょうか。現在私たちが持っているものを用いて奉仕するときに、主は喜ばれると私は信じています。

2番目に私が学んだ原則は、どこにいても奉仕をする



ことが大切だということです。アフリカでの経験は非常に特別なものでしたが、自分の身近にいる人より遠く離れたところにいる人を愛する方がよいことだとは私には思えません。救い主は模範を通して、だれを愛すべきかを教えてくださっています。主はことさら遠くまで旅して人々に会ったわけではありませんでした。故郷を離れず、ご自分の身近にいる人々、すなわち金持ちや、貧しい人、政治家、病人、足や目の不自由な人、取税人、空腹な人、疲れている人、寂しい人、ふさわしくないと思われていた人まで、様々な人々と交わられました。

アフリカにいたとき、明らかにそこは私にとってクリスチャンになるのに最適な実践の場所でした。帰国した今、クリスチャンになるために最適な実践の場所は、私の同胞に囲まれたこの地なのです。これは私にとってはチャレンジです。お金を「世界を救う」機関に送る方が、忙しいスケジュールの中で弟や妹、隣人や、友達と話す時間を取ることもよりもちやすいと思われることが多いからです。

3番目に学んだことは、様々な状況において奉仕できるように自分自身を備えるべきだということです。私は、エカエツェとその家族を理解するのに役立つ多くの経験をしました。しかし、彼女が経験したすべてのことを理解することはできなかったため、最も適切で実際的な方法で助けるにはどうしたらよいかなかなかわかりませんでした。医者への助けがなかったがために3人の子供を自分の腕の中で失ったときの思いは、想像を絶するものです。次の自分の食事がどこから届くかわからないときには、どんな気持ちができるのでしょうか。家の壁を自分の手で固めて作らなければならないというのは、どんな思いでしょうか。エカエツェにとって最も大きな喜びは何でしょうか。どんなに頑張っても、私は彼女が抱えている多くの問題やチャレンジをひとつとして自分のものとして考えることはできないのです。

それでも私は、いろいろな経験を重ねれば重ねるほど、より多くの人々を理解できるようになることを学びました。自分と同じようなことを考え行なう人々だけと交わる道を選ぶなら、クリスチャンとしての奉仕の機会が非常に限られたものになってしまいます。それよりも、様々な経験を通して、人を愛する能力を増す道を選ぶ方がよいのではないのでしょうか。より多くの人々を理解するなら、キリストにより近づけるのです。

私は真のクリスチャンになることを実践しようとするにつれて、自分の持っている動機の多くが周りの人々の行ないに反映されるものだということを見ました。アフリカで同僚と私は何十もの村の何百人という人々に接していて、彼らがプログラムに参加する理由は様々であることがわかりました。ある人々は、白衣を着た職員が無料で様々な便宜を図り、薬や仕事を与えてくれると



「もしあなたが
私にお金をくれていたら、
金額の多少にかかわらず、
今ごろは全部なくなっていたでしょう。
でもあなたは
知識を与えてくれました。
だれも
私からそれを取り去ることは
決してできません。」



信じてやって来ました。村に白人が来たのが珍しいと、好奇心にかられて来る人もいました。別の人々は病気におびえ、わが子が死ぬのではないかと心配し、自分たちの家族の健康を思って来ていました。また、家族のためにもっと健康について学びたいと思って参加している人もいました。隣人についてきた人もいます。さらには、心に愛を持ち、どうすれば自分たちとその周りの人々の生活を改善できるのかを知りたいという願いから参加した人々もいました。

このプログラムに対して人が示した様々な反応を見ることは興味深いことでした。無料で何かを得ようとして来た人々はすぐに来なくなりました。物珍しきで来た人々は白人の顔を見慣れるとやはり来なくなりました。家族の健康に関する問題を解決する必要があった人々は、そのときに必要な答えを得ただけでなく、将来に備えて必要な情報を蓄え、大きな収穫を得ました。愛によって動機づけられた人々は参加しただけでなく、さらにもう一歩進み、自分たちが学んだことを周りの人々に伝えたのです。エカエッテはこのような人々のひとりでした。彼女は私に言いました。「もしあなたが私にお金をくれていたら、金額の多少にかかわらず、今ごろは全部なくなっていたでしょう。でもあなたは知識を与えてくれました。だれも私からそれを取り去ることは決してできません。」最後の年を迎えるころには、エカエッテはほとんど私たちの力を借りずに、いくつかの村で女性のグループを指導する教師を訓練するほどになっていました。

私は、エカエッテの生活の中にキリストの教え、すなわち愛が実践されているのを見ました。福音の原則に導かれ、彼女は毎日のチャレンジに対して実践的な解決法を見いだしてきたのです。私たちもそのようにできるはずです。イエス・キリストの福音は必ず世の中のすべての問題に答えてくれるのです。

私は、この10年間の半分近くを外国で過ごしました。その間、人々の習慣や信仰の様々な違いをこの目で実際に見ながら、人生において大きなチャレンジを抱えている多くの人々の目の奥にあるものを読み取ってきました。救い主が教え、模範を示された愛の福音の中に、すべての問題に対する答えを見いだすことができる、というスペンサー・W・キンボール大管長が言われたことは、真実であると確信しています。その愛を自分の心を持つならば、この地であろうとエカエッテの世界であろうとクリスチャンとしての行ないを実践できるのです。□

*アン・レムリン姉妹はレーシャー国際児童財団の元ディレクターで、現在国際機関誌担当の編集主幹補佐である。ソルトレーク・ミルククリークステーク部、ミルククリーク第2ワード部に所属。

ホームティーチャーには、
担当家族を助けるために靈感を受ける資格が
与えられていることを、
私は忘れていたのです。



ヒギンズ兄弟の靈感

ラベール・ジョン

座り心地の良いいすに腰を下ろして、さあ、これから楽しみにしているテレビの報道番組を見ようというとき、玄関のベルが鳴りました。「どなたかしら、見て来ます」と妻が言いました。

「今時分だけだろう。いつだってこうだ。好きな番組を見ようとする、必ずじゃまが入るんだから」と、私は思いました。

「ホームティーチャーよ。」妻が戻ってきて言いました。「言うのを忘れていたけれど、きょうの午後、ヒギンズ兄弟から電話があって、今晚から旅行に出られるので、その前に、夕方うちへいらっしやるってことになっていたんですよ。」

いすから立ち上がった私には、ヒギンズ兄弟がこれから何を言うか、もうわかっていました。彼はいつも同じことを言っていました。「お元気ですか。お変わりありませんか。きょうもいい日だったですね。何か私にできることはありませんか。」

案の定、そう言って話が始まりました。私は内心「テレビが見たいのに」と思い続けていました。

ところが、ヒギンズ兄弟が「何か私にできることはありませんか」と聞いたとき、「そうだ。彼に手伝ってもらおう。いい機会だ」という考えが、私の心に浮かんだのです。

「はい、お願いしたいことがあります。ご存じのように息子のミハイルは伝道から帰ったばかりで、まだ職が見つからず、力を落としているんです。私もどうにもできないのですが、何か仕事の口の心あたりはないでしょうか。」

「それは大変ですねえ。求人の方は聞いていませんが、どこかないか、あたってみましょう」というヒギンズ兄弟の返事でした。

実のところ、私はヒギンズ兄弟がこの問題を解決してくれるとは、思ってもいませんでした。しかし、ホームティーチャーには、担当家族を助けるために靈感を受ける資格が与えられていることを、私は忘れていたのです。ヒギンズ兄弟が実際に助けてくれるかは別として、自分たちの問題をホームティーチャーに打ち明けたことで、私の気分は軽くなっていました。

その2日後、ヒギンズ兄弟から電話がありました。「ミハイルに、タイヤ販売店のリード商会へ行って、ホッジ

氏と話をするように伝えてください。空きがあります」と言うのでした。

長い間職探しをしていたミハイルは大喜びでした。ところが、1時間後に帰って来た彼は、がっかりした様子で、明らかにうまくいかなかったことがわかりました。

「信じられないよ。」家に入るなり彼は叫びました。「ホッジさんが言うんだ。『だれに言われて来ましたか。空きなんてありませんよ。あったとしても、君の履歴書は、ここに積んである履歴書の一番下になりますよ』って。恥ずかしかった。来なきゃよかったって思ったよ。」

ミハイルのがっかりした気持ちがよくわかったので、何とか慰めようと思いました。しかし、ホームティーチャーがないはずの勤め口をなぜ教えたのかという思いは、抑えることができませんでした。

翌日電話があって私が出ると、相手は「ホッジという者ですが、ミハイル君はおいでですか」と言うのです。

ミハイルが変わると、ホッジ氏はこう言いました。「店まで来てください。正直そうで意欲的な君の態度が印象的だったので、結局、働いてもらうことにしました。きょうの午後からどうですか。」

ミハイルが店に行くと、雇ってもらえたうえに、時間帯を好きなように決められるということでした。それで、大学の授業時間と重ならないように、労働時間を調整することができました。それも、心からの祈りに対する答えでした。

ミハイルが新しい仕事を得るに至ったいきさつを順序立てて考えたとき、私はふっと急に、ヒギンズ兄弟はホッジ氏本人が気づく前に、店の欠員のことを知っていたに違いないと思いました。

ヒギンズ兄弟が次に我が家に来たとき、私は事の成り行きを説明しました。彼は、ミハイルの仕事を見つける手助けができるように祈り、ひとつ心あたりがあったので電話をしたのですと、淡々とした口調で説明しました。

主が私たち家族の必要をご存じで、ホームティーチャーを通して、その必要を満たしてくださったことは明らかでした。彼らは導きを祈り求め、主は彼らの祈りに答えてくださったのです。□

*ラベール・ジョン：元教育者。ユタ州北オグデンステーキ部北オグデン第一ワード部所属。



親と会話を 持つ方法

クリス・クロウ

親子の会話を改善するために、子供の側にもできることがあるのです。

親 友のブラッドの両親が離婚しそうだということで、彼とその問題について何時間も話し込んだことがありました。

気がついて時計を見ると、夜中の1時を過ぎていました。「うわっ、まずい！ 帰る時間がとっくに過ぎてる。父に怒られる。」私はブラッドにうまくいくようにと言いつつ、さよならを言って、走って家に帰りました。

玄関のポーチの明かりがまだついていました。これは悪いしるしです。父が起きていて私を待っているということなのです。

私は玄関のドアを神妙に開けて中に入りました。「今、何時かわかっているのか。」父が怒鳴りました。

「午前1時過ぎだ。もっと早く帰れと父さんは言わなかったか。」

「言いました。でも……」

「でも、何もない。遅くなったらどうということになる

か、わかっているね。」父は怒りで震えていました。「当分の間、友達のところへ行くことは許さん。いいね。」

私は裁判もなしに判決を受けたような気がして、納得できませんでした。「そんなのむちゃだ。説明くらいさせ

普段から親と話をしていれば、いざというとき大事な話がしやすくなります。心からの会話は急に実現するのではなく、訓練が必要なのです。その訓練の主導権を、子供が握ることもできるのです。

てください。」

「説明などないはずだ。遅く帰った。それ以外に何がある。もう寝なさい。」

「父さん。横暴だよ、それじゃ。」私は抗議しました。

その後の父とのやりとりは、互いに相手を非難して険悪になるばかりでした。私は父が話を聞いてくれないことを責め、父は私が生意気だとしかるのです。

とうとうベッドに引き揚げたときには、どうにも胸が治まらず、とても眠れる状態ではありませんでした。ブラッドのことが心配で、彼の問題を父に話せなかったことにもがっかりしました。帰ったら父にブラッドの両親

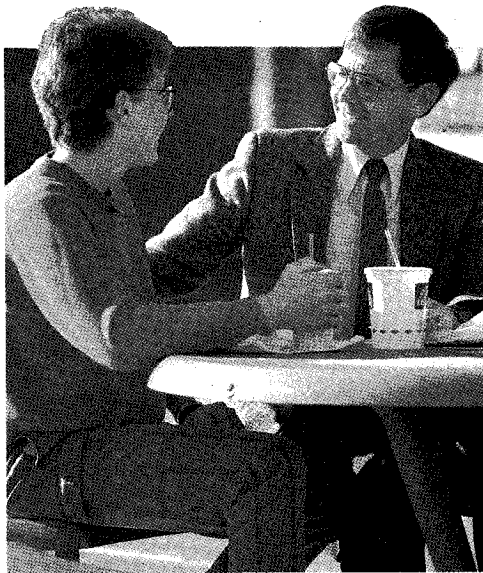
父とまじめに話ができたのは、父が監督になって、ぼくの誕生日に面接をしてもらったときが初めてでした。

のことを話せたらよかったのに、こんなことになるなんて思いました。話はおろか、遅い帰宅時間のことで言い争いをしただけでした。それも同じことだけを耳にたがができるほど聞かされました。

私は心から父との会話を望んでいました。父も同じ気持ちだと思うことが、ときどきありましたが、なぜか心を開いて話し合うことができなかったのです。

親と話をするのは必ずしも容易なことではありません。





もし時間が問題なのであれば、
頭を働かせて、
親と一緒に話せる時間を見つけてください。
たとえば、早起きするとか
遅くまで起きているとかすれば、
水入らずで話ができるかもしれません。
話をする時間や場所をメモに書いて、
約束を取るのもいいと思います。
知恵を絞れば、
親子で話し合いの時間を取るための方法は、
ほかにも見つかるはずですよ。

ある若者たち——皆さんもそのひとりかもしれません——は親との間にすばらしい関係を築いています。このような若者たちは恐れや気遣いを感じることなく、自由に親と話し合うことができます。しかし、だれもが皆そうした幸福な状況にいるわけではありません。私は、子供のころから父や母と満足のいく話をしたいといつも思っていました。でもできませんでした。親子の関係に問題はなかったのですが、腹を割って話し合うということはありませんでした。今振り返ってみると、会話を果たすための努力を、私は全部親に求めていたことに気がつきま

す。そこが私の悪い点でした。親子の会話を改善するために、子供の側にもできることがあるのです。

皆さんにできる第一のことは、皆さんからまず親に話をするということです。初めは簡単ではないでしょうが、やるだけの価値はあります。私の知っているある十代の学生はこう言っています。「父と話しているけど、面と向かって、生活の様子や悩みや将来の計画なんていうまじめな話はしたことがなかったんです。父とまじめに話ができしたのは、父が監督になって、ぼくの誕生日に面接してもらったときが初めてでした。

あの面接でよくわかったんですけど、ぼくの方がもっと努力すれば、もっと深い会話ができると思いました。次の日からがらっと変わったわけではありませんが、あれから父もぼくも、ときどき一緒にゆっくり話す時間を意識して取るようになりました。」

ある女生徒は、週にほぼ1度の割合で、両親と面接をしています。「別に『面接』というほどのものじゃないんです。意識してきちんとそうしているわけではありませんから。暇そうなときをつかまえて、昔の子供時代のこととか学校のこととか、そんな話を聞くようにしています。父さんや母さんたちが話し出したら、じっくりと話を聞いています。そうして、父や母のことが随分とわかるようになりました。」

普段から親と話をしていれば、いざというときに大事な話がしやすくなります。心からの会話は急に実現するのではなく、訓練が必要です。その訓練の主導権を、子供が握ることもできるのです。

話す時間を取るのがむずかしいこともときにはあります。そういう場合には、独自の工夫が必要です。ある若い宣教師からこう聞いたことがあります。「いつも母と話がしたかったのです。そりゃ、たあいな話もしましたが、まじめなことや個人的なことについては全然話せませんでした。仲は良かったんです。うまくいっていません。でもほんとに話をしたという記憶がありません。

母に話したいことはたくさんありました。伝道に出る前に聞いておきたいこともたくさんあったんですが、どうしてもそれができませんでした。

だから、手紙を書きました。長い手紙を書いて、引き出しの上に置いておいたんです。それがきっかけになって、伝道に出る前に2度じっくり話をしました。」

もし時間が問題なのであれば、頭を働かせて、親と一緒に話せる時間を見つけてください。たとえば、早起きするとか遅くまで起きているとかすれば、水入らずで話ができるかもしれません。話をする時間や場所をメモに書いて、約束を取るのもいいと思います。知恵を絞れば、親子で話し合いの時間を取るための方法は、ほかにも見つかるはずですよ。

もちろん、ときには親の話を聞くだけでなく、こちら

の話も聞いてほしいと思うでしょう。たぶん皆さんも気づいていると思いますが、相手の話に耳を傾けずに、望まれもしない助言をしようとする大人はたくさんいます。私自身もこの問題を抱えています。娘のクリスティーが、学校や友人との問題をときどき話してくれるのですが、私はじきに聞くのをやめて、助言を始めてしまいます。クリスティーは私の助言が欲しいのではなくて、ただ話がしたいのだとわかってはいても、ついつい口を出してしまうことがあります。

私が教えている学生の中に、話を聞くべきときに助言をしたがる両親や一般の大人に有効な方法を心得ている学生がいます。彼はこう言います。「私の両親は忠告をするのが好きなのですが、それでぼくが困ったことはほとんどありません。でも、話すべきことをどうしても聞いてほしいと思うときもあります。そのときはこう言うのです。『ぼくは父さん母さんに話したいことがあるので、最後まで何も言わずにまず聞いてほしいんだ。どうしても話しておきたいことなだけけれど、でも聞いてくれなければ、話しません。聞いてくれたら、父さんや母さんの言うこともちゃんと聞きます。』これはたいいてい効果があります。」

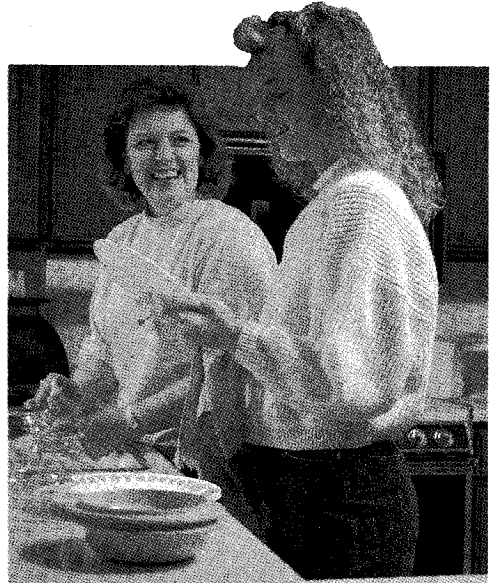
親に話を聞いてもらうのは、いつもこのように簡単ではないかもしれません。ときにはお互いの感情が会話の障害になっている場合もあります。どちらか一方が腹を立てていれば会話の糸口はすぐに失われてしまうでしょう。「父は私が運転免許を取る話をすると、いつもすぐに怒り出すんです」と、ある女子高生が私に話してくれたことがあります。

「お父さんが怒ったとき、君はどうするの。」私は彼女に尋ねてみました。

「私も言い返すんです。だからいつも派手な口論になってしまいます。」

細やかな心遣いを必要とする問題について話し合うときでも、だれともこの「派手な口論」をせずに、話し合えることはできるはずですが、両親に話さなければならないことがあるのに、恐れのためにそれができないときには、素直に自分の気持ちを話すことで状況を緩和できるでしょう。「話すのが怖いんだけど……」と切り出すのです。両親が腹を立てている場合は、「父さん(あるいは母さん)はこのことで怒っているけれど……」などと言って、親の気持ちを認めるように努めてください。会話の中で相手の感じている気持ちを理解すればするほど、会話はしやすくなるでしょう。

今になってみると、私が遅く帰宅したときの父とのあの出来事は、もう少し違った対処の仕方をすればよかったと思います。あのとき父はとても怒っていたので、その夜、父と議論してもむだだったのです。少し時間を置いて、ふたりとも落ち着いてから、父に自分の気持ちを

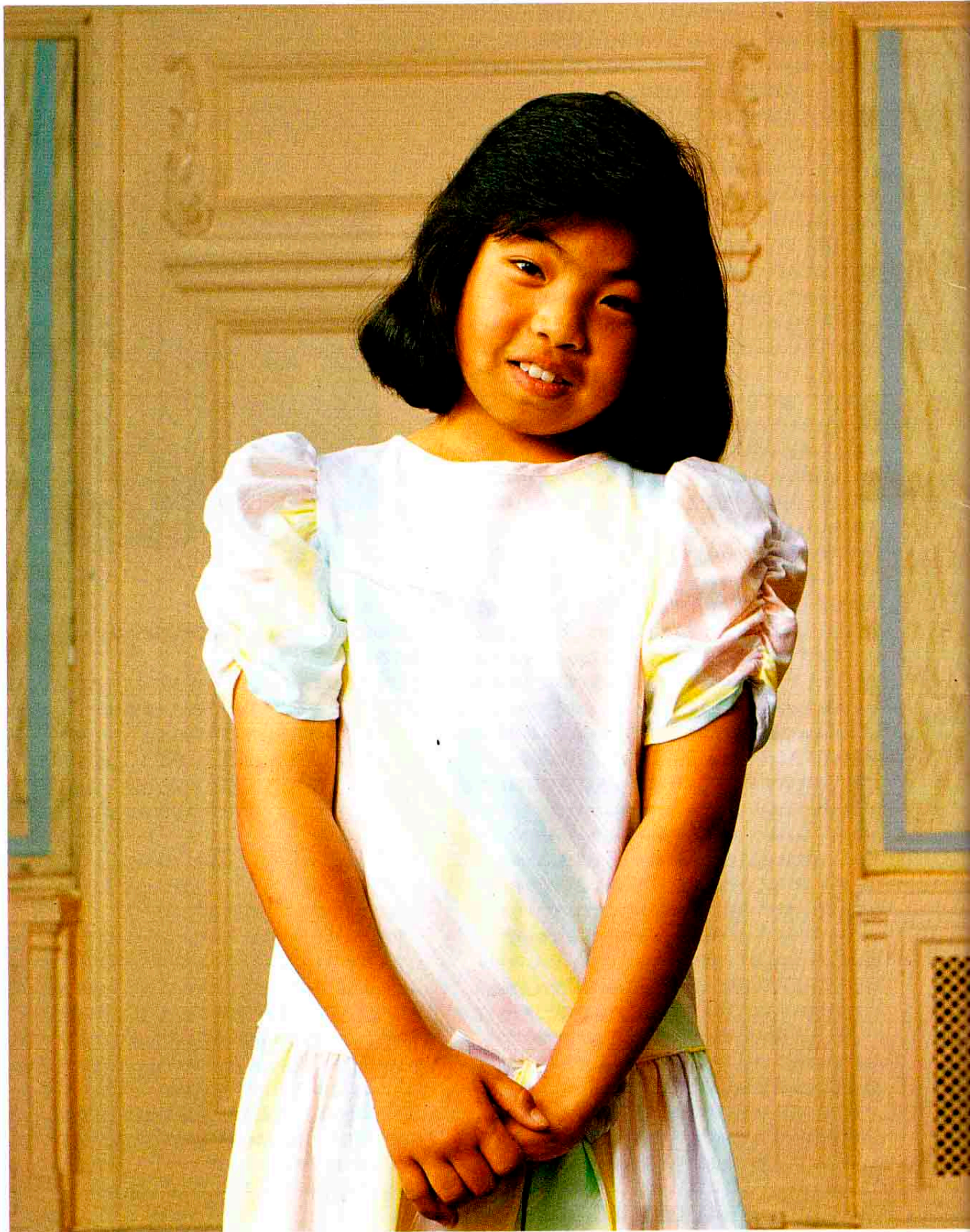


たぶん皆さんも気づいていると思いますが、よく話を聞きもせず、ときには必要でもないのに助言しようとする大人はたくさんいます。私自身もこの問題を抱えています。

説明すればよかったと思います。

両親と会話を持つことは大切だとわかっていましたが、いつもはとてむずかしいことでした。会話ができないことによくいらだちを覚えたものですが、絶望や怒りを感じずすんだのは、両親が私を愛していることを知っていたからです。私も両親を愛していました。互いに意思の疎通を図るのはへただったものの、心の中まで離れてしまうことはありませんでした。

このような親子の愛情は、意義ある会話を持つための基盤です。皆さんの両親が何を言おうとあるいは言うまいと、彼らは皆さんを愛しています。そのことを心に留めて、親との対話を改善する第一歩を踏み出してください。□



A photograph of a room with a wooden wall and a black chair. The wall is made of vertical wooden planks and has a blue decorative border. A black chair is visible in the foreground, partially cut off by the bottom edge of the image.

たったひとりの生徒

カレン・A・アンダーソン

ワード部の初等協会会長会は、来年度のクラス編成を行なうに当たってどのようにすれば子供たちの必要を満たすことができるか深く考えていました。「ジェニーはどうしたらいいでしょう」と、ひとりが質問しました。「11歳の子は、ワード部でジェニーひとりきりなんです。クラスを合同にしたらどうでしょう。教師を召してもらっただけでもなかなか大変なのに、まして生徒はたったひとりですから。」

会長は「確かに、そうですね」とうなずきました。「でも、合同にするのはあまり良くないような気がします。アンダーソン家では、ちょうど今、ジェニーのお姉さんのことでちょっと問題があってジェニーまではなかなか注意がまわらないんじゃないかしら。このことについては、特に熱心に祈る必要があると思います。」

当時、初等協会は週日の午後が開かれていて、普通の日に初等協会で教えることのできる人を見つけるのは困難でした。ましてや、たったひとりの子供を喜んで引き受けてくれる人を探すことは、とうてい無理なように思われました。

翌日、会長はワード部の会員名簿を調べました。しかし、せっかく適任と思われる人がいてもすでにいくつかの召しを受けているようでした。そこで彼女はその問題を天父にゆだねることにし、ジェニーの教師が見つかるように再び祈りました。

そして次に名簿を見たとき、コナー姉妹の名前が目にとまりました。しかしその選択は不適當だと思いました。コナー姉妹自身が、自分は教師には向かないと言っているのです。「私は教師の柄じゃありません。人前に出るだけであがってしまうのです」と、彼女は常々言っていました。始終そう言っているのです。ワード部のみんなはそ



のとおりだと思い込んでいました。しかし、みたまのさきやきに間違いはありません。会長は彼女を監督会に推薦しました。

コナー姉妹はこの召しを受けてびっくりしました。「本気ですか。私には教えることなどできないのはご存じでしょう。」すると監督はこう答えました。

「いえ、主はこの召しにあなたを必要としておいでです。コナー姉妹、ジェニーのために何ができるか、どうぞお祈りしてください。」

コナー姉妹は新しい召しに緊張しましたが、生徒がひとりだということで幾分荷が軽くなりました。ジェニーの方は、自分ひとりのために教師が決まったことを知って喜びました。ジェニーの両親は、コナー姉妹がそうした異例な召しを引き受けてくれたことで、ほっとするとともにとても感動しました。

初等協会の新年度が始まりました。初等協会の小さな教室に、コナー姉妹とジェニーの姿が毎回見られました。コナー姉妹がレッスンをし、ふたりで計画を立て、一緒に楽しみました。

冬本番というある木曜日のこと、下校したジェニーは風邪で具合が悪い様子でした。初等協会は休んだ方がいいとお母さんが言うと、ジェニーはわっと泣き出しました。「ママは何もわかっていないんだから。行かなくちゃ。だってコナー姉妹が私のこと、待ってるのよ。行かなかったら教える人がいなくて、姉妹はとっても悲しむに違いないわ。」

月日がたつにつれ、コナー姉妹とジェニーとの友情と愛は深まっていきました。コナー姉妹はジェニーに洋服

を教え、ジェニーはコナー姉妹に、「自分だけの」教師がいるということが彼女にとってどんなに大切なことかを教えてくれました。ジェニーはその年にたくさんの新しい技術を覚え、コナー姉妹は自分も教えることができると知り、実は教えるのが好きなことを発見したのです。

ジェニーが初等協会を卒業する日が近づくと、ふたりは卒業式をとびきりすばらしいものにしようと話し合いました。お母さんが新しい洋服の生地を買ってくれて、ジェニーとコナー姉妹と一緒にそれを縫いました。

ついに卒業式の日がやって来ました。プログラムは、特別な1年の最後を飾るとても霊的なすばらしいもので、共同製作のドレスを着たジェニーはとてもきれいでした。

ジェニーは今では自信を内に秘めた美しい女性に成長しました。結婚後9年たって、ひとりの子に恵まれました。でも彼女は、「たったひとりの子」の価値を、昔コナー姉妹から学んでいるのです。

一方、コナー姉妹はその後初等協会の立派な教師になりました。今も少人数のクラスを教えるのが好きで、ジェニーを教えたころのことを尋ねるとこう言います。「大したことはしませんでしたよ。それは私にとって決して犠牲などではなく、とても楽しい経験でした。私はただジェニーが大好きだったのです。あの年ほど楽しかったことは今までありませんでした。あれから随分たちますが今でもジェニーのことがなつかしいですよ。」

□

*カレン・A・アンダーソン：ノースダコタ州ファーゴステーク部グランドフォークス第2ワード部所属。



「アルマの改宗」ゲーリー・L・カップ画

このように「アルマとモーサヤの4人の息子たち」が神にそむいて歩きまわっていた時、主の使がかれらに現われ、……ちょうど雷のような声を立てて物を言ったので、その声はかれらの立っている地をふるい動かした。それでかれらは地上に倒れるばかりに驚き、この使の言った言葉が何であるか解らなかった。しかしその使はまた大きな声で「アルマよ、起きてわが前に立て、汝は何故に神の教会を迫害するか……」と言った。 モーサヤ27：11-13



再活発化計画—— 王国建設の推進力

アリー・デリック

主は教会とイエス・キリストの福音を回復されたのち、予言者ジョセフ・スミスにこう言われました。「王国は汝らのものなり。」(教義と聖約62:9)すなわち、主はまずジョセフ・スミスの手^{かんじ}に、そして次に私たちの手に王国を築く責任を与えられたのです。

私たちがこのみ業をどのように行なうべきかについて、主は次のように勧告されました。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は^{ひろ}拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは^た起ちてその美しき衣を着けざるべからず。」(教義と聖約82:14)

シオンがその美と聖とを増すためには、聖徒が心を改める必要があります。心から進んで美しい福音のメッセージを人々に伝え、利己心を捨て去り、一段と深い愛の精神をもって、困っている人々の福祉に一層大きな関心を寄せようになる必要があります。伝道に対して新しい国々の門戸が開かれるにつれ、王国の境界が押し広げられていきます。会員一人一人が教会の責任を受け入れ、熱心にその務めを果たし、お互いに心からの関心を示し合うときに、シオンのステーキ部は強められます。また、会員たちがみ^{ひんぼん}ずからをふさわしく整え、できるだけ頻りに神殿に参入し、聖霊の教えを受けるといふ完全な祝福にあずかる備えをなすときに、シオンはその美しき衣を身につけることになるのです。このようにして、私たちは神の王国を築くという務めを立派に果たすことができるのです。

アジア地域会長会が作成した「再活発化計画」は、各ステーキ部、ワード部または地方部、支部に浸透していま

す。神権指導者、補助組織の指導者そして各会員にどのようなことが求められているか、そこには明確に示されています。このプログラムの成功は、指導者と会員一人一人が、各ユニットの指導者に配付された小冊子「日本再活発化計画」に詳細に書かれた役割を十分に果たすかどうかにかかっています。すべての人が各自の責任を果たすことによってひとつになるときに、神の王国はアジアの地でこれまでになく力強い前進を遂げることでしょう。

地域会長会のひとはこのように述べています。「この計画が各ワード部、支部、各神権定員会およびすべての補助組織の中で推進されているという報告を聞くまでは、私たちは決して満足しないでしょう。初等協会の子供たちに至るまで会員一人一人がお互いに、また特に、新会員や訪問者、お休みがちな会員に対して積極的に温かい言葉をかけるようになってこそ、望ましい成果が得られるのです。」

すべての人が
各自の責任を果たすこと
によって
神の王国はアジアの地で
これまでになく力強い
前進を遂げることでしょう。

ある会員はこのように書いています。「私の義理の妹のパールは、新しい土地へ引っ越してきた後、毎週日曜日に^{せいさん}聖餐会でひとりの女性の姿に目を留めました。彼女は礼拝堂の後ろの方でいつもひとり座っていました。会員たちは何の関心も示さず、気にも留めない様子でした。一見、彼女は取るに足ら

ない人のように見えるのです。もちろん、実際には取るに足らない人などはひとりもおりません。私たちは皆、神の子供であり、一人一人が大切な存在です。その女性は長年着古した黒いコートをいつも着ていました。彼女に注意を向け、話しかける人はだれもいませんでした。そこで、彼女には友達が必要だと感じたパールは、自己紹介し、話し相手になりました。

その女性は、ダイスター姉妹という名で、ドイツ人の改宗者だということがわかりました。職業はあるスポーツ施設に勤める調理師でした。少女のころに伝道プログラムを通して教会に改宗しました。そして、神の王国の一員となったことに深く感謝し、何年もの間、自分の生活を切りつめて伝道に出ている宣教師たちのために献金しました。こうしてパールは、利己心のない、愛にあふれたすばらしい女性と知り合ったのです。そして、思いやりの心をもってこの選ばれた神の娘を、人々との交わりの輪の中に招き入れました。そのような交わりは、だれにとっても自分の必要を満たすために欠くことのできないものと言えましょう。

私たちは皆さんに次のように提案したいと思います。毎週、ひとりだけでいいですからある人を選び、その人に心からの友情を示すよう特別な努力をしてください。神の子供たちのひとりに、愛を注ぎ、温かい関心と思いやりを示していただきたいのです。

*アリー・デリック姉妹の夫であるロイデン・G・デリック長老は、1989年10月の半期総大会において名誉教会幹部に召された。

み言葉を養い育てる

友人に命のパンを与えるには

シーム・オニール、ケイ・オニール

聖典の中には、食物や、あるいは養うという行為を、私たちの進歩成長に必要な霊の糧になぞらえた美しい表現が多々見られます。神はご自身の栄光に満ちた福音という織物の中に、食物とか養うという象徴を用いた比喩的な表現を巧みに織り込み、昔も今も、物心両面にかかわる事柄において、主の民を啓発し、教えを授けられたのです。

イスラエルの民が40年間荒野にいたときにマナを与えられたという奇跡的な出来事や(出エジプト16:35)、約束の地を乳と蜜の流れる地にたとえたり(出エジプト3:8)、エリヤがからすに養われ(列王上17:1-7)、尽きることないかめの粉と絶えることのないびんの油でやもめ女を養ったという話(列王上17:8-16)などに見られるように、主は繰り返しこのような比喩的な表現を用いて、私たちが霊的にも物質的にも養ってくださることをわかりやすく示されています。

私たちがみずからを命のパンと水で養うという比喩的な表現も、単純ではありますが非常に力強い表現であり、私たちは福音がもたらす霊的な祝福を受ける前に、「義を渴望する」必要がある(IIIニーフアイ12:6)という主の言葉とぴったり一致する表現のように思われます。

事実、救い主はたとえ話や説教の中で、生命を維持するために必要な基本的な行為や必需品のたとえをたびたび用いておられます。そのようにして私たちの記憶に残る奇跡の意味をより深く理解できるように人々の注意を引きつけておられるのです。たとえば、数千人もの群衆に食物を与えられた奇跡や、水を酒に変えられた奇跡などです。さらには、過越も、後に定めた聖餐も、本来は祭の性格を帯び、何らかの食物を共に食べる儀式であり、一段と深い霊的な記念の祭を象徴しているのです。

このような比喩的な表現を用いた特

に啓発的で意義深い例は、ヨハネ書の21章の中にあります。使徒ペテロはこの世で生計をたてるために、漁師の仕事に戻っていました。魚を取る行為は、人をすなごるといふ主の大使徒としての霊的な召しを象徴すると同時に、多くの人々に食物という物質的な祝福を与える意味があります。救い主は岸辺に現われ、ペテロが伝道に出よう最初に召されたときと同様、再びその召しを与え、時の絶頂に召された予言者に次のように言われました。「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう。」聖典には続けて次のように記されています。「彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかつた。」(ヨハネ21:6)後に、どのような方法でなされたかは不明ですが、いずれにせよ使徒たちではなく救い主が用意された魚とパンを皆で食べていたとき、主はペテロに次の質問を3度されました。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」その度にペテロは、だんだんと心を痛めながらこう答えました。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。」すると、やはりその度に、主はペテロに命じられました。「わたしの小羊を養いなさい。」(ヨハネ21:15-17)これは、伝道の業に励み、主の福音を人々に教えなさい、という意味です。

私たちは主の羊や小羊である兄弟姉妹を養うために十分な働きをしているのでしょうか。信仰を共にする聖徒たちに対しても、また回復された福音について証を得る祝福にまだあずかっている人々に対しても、自分たちがどのように養うことができるかをいつも心に留めているのでしょうか。さらに重要なことは、神の羊の群れを養うという召しをどのようにしたら十二分に果たせるのでしょうか。

幸いなことに、救い主はこのみ業をより効果的に行なうための鍵を私たち

に授けてくださっています。主は福音を宣べ伝えるために取税人と一緒に食事をされたのではないのでしょうか。群衆に霊的な糧を与えると同時に食物をも与え、霊的にも肉体的にも飢えを満たして一層深い充足感を与えられたのではないのでしょうか。また、永遠の生命へと導く霊的な糧とともに、私たちの肉体を強める日々の食物を与えてくださっているのではないのでしょうか。

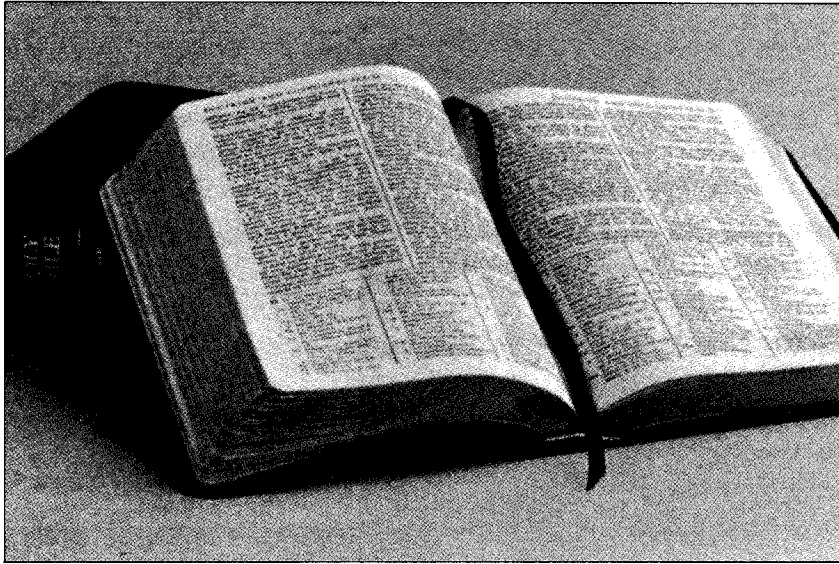
もし私たちが会員ではない友人や知人を家に招いて、簡素ながらも心を込めて作った料理を出し、祝福の祈りを捧げるならば、一口であろうとお皿に一杯であろうと、聖霊の導きによりおいしく味つけをされた福音の真理をずっと快く味わってもらえることでしょうか。こうした食事は家庭で出すべき点を強調したいと思います。ワード部や支部で行なう食事会も、ひとつの目的を達成することはできますが、家庭という親しみの込められた神聖な囲いの中の方が、みたまの働きもずっと強く、「主の群れを養う」というみ旨もより円滑に達成されるのです。

そのような機会に出すように勧められる霊の糧となるごちそうには、いろいろあります。たとえば、個人の証を書き込んだモルモン経、イエス・キリストが神であるという単純な証、教会の集会へ出席するようという招き、宣教師のレッスンの第1課や教会のビデオなどです。材料にお金をかけようとかけまいと、また、洋食、和食、中華であろうと、韓国またはフィリピン料理であろうと、それは大した問題ではありません。私たちが与える霊の糧は時間や場所、材料などに関係なく普遍的で、だれの口にも合うものです。

救い主はペテロに命じられたように、私たちにも主に従うように命じ、そして次のように質問されています。「わたしを愛するか。わたしの羊を養いなさい。」

養うということは、食物を与えるという意味もあり、物質的な糧を与えることによって霊の糧となる証を伝えることができるのです。これは救い主がなさったもうひとつの奇跡と言えましょう。

答えられた祈り



→ れは、ハント長老という名の宣教師が、最も霊的な日々を過ごしたときの話です。「ずっと昔、漢川^{ハンチオン}という名の遠く離れた土地へ行きました。そこはあまりに寒いので、ペンの中のインクが凍りつき、鉛筆ですら力を入れて書こうとしてもはっきりと文字が書けないほどでした。ある日のこと、とてもよく働く同僚のクレメント長老が起床時間の4時半に私を呼び、その日一緒に断食して祈ろうと言いました。

私たちはその土地へ来てから1カ月もの間、まったく何の収穫をあげることもできませんでした。バプテスマやレッスンはおろか、訪問先を紹介してもらうことやレッスンの約束をとることすらできなかったのです。漢川は当時、『モクサ』と呼ばれる活発なプロテスタントの牧師の勢力が強く、『モクサ』は町中に3つの教会を所有し、信徒を独占してほかの宗派に入り込む余地を与えまいとして、熱心に信徒たちを教えていました。モルモンの宣教師の姿を見るなり、反キリスト崇拝者と呼び、私たちが何を言おうと、ただ中傷するばかりでした。そして私たちがモルモン経を配布しようとする、すぐさま迫害の手を伸ばし、伝道の努力

を踏みにじろうとするのでした。

その日一日、私たちは断食して祈りながら、一軒一軒訪問し、ドアをたたき、再びドアが閉められてしまう前に何とかしてメッセージを伝えようしました。夜もふけ、いつものように私たちは決心しました。『きょうはこの一軒でおしまいにしよう。』すると、ドアが開き、驚いたことに温かみのある紳士が現われて私たちを中へ招き入れてくれたのです。そしてレッスンを聞き、次回の約束してくれました。彼のアパートを出た私たちの心は喜びと主に対する感謝の気持ちでいっぱいでした。凍りついた道を歩いていると、寒さで歯はガチガチと鳴っていましたが、心の中はポカポカと暖まる思いでした。すると、再び親しげな声が聞こえてきました。今度は英語です。『ちょっとこちらへいらっしやい。お乗りになりませんか。』キムと申しますと言って自己紹介したその紳士は、その町に住む裕福な人でした。『アメリカに住んでいたときレッスンを受けたんですが、バプテスマを受ける前にこちらへ引っ越してきたのです。私はモルモンの人たちが大好きで、ぜひもう一度教会のことを勉強したいと思っています。何かお手伝いできることがあ

れば言ってください。レッスンのために私の会社の事務所を使ってもいいですし、もしよろしければ社員にもレッスンしていただけますか。』

断食と祈りの力について心から証できるとハント長老は断言しました。

「主は確かにその日、私たちの上に祝福を注いでくださったのです。このようにして私は伝道中、たびたびみたまの導きを感じました。ある日、朝の祈りをしていると、英語版のモルモン経を持っていくようにという強い気持ちがしました。これまで伝道中に英語版のモルモン経が必要だったことは一度もありませんでしたが、みたまの導きに従いたいと思いました。私も同僚も新しい英語版のモルモン経を持っていなかったの、伝道しながら回り道をして伝道本部へ立ち寄ることにしました。ところが、私はほかの宣教師たちのおしゃべりにすっかり夢中になってしまい、配送センターでモルモン経を買うのを忘れてしまいました。あとで思い出して自分の不注意を悔やんでいると、ちょうどスチーブン姉妹とその同僚に会いました。『英語のモルモン経を持っていますか。』いきなり尋ねた私に、『はい、どうぞ』と1冊手渡してくれました。

夕方、街頭伝道をしていると、韓国人の紳士が教会を紹介する展示品に非常に興味を示しました。私はその人に近づき、黄金の質問をしました。すると、驚いたことに、彼はアメリカ生まれの二世の韓国人であると英語で答えたのです。そしてこう言いました。『私はあなたがたの宗教に大変興味を持っています。英語版のモルモン経がありませんか。私は韓国語は読めないんです。』私が伝道中に英語版のモルモン経を用意し、それが役立ったのはまさしくこの日だけでした。』

「されど、^{なんじ}汝らに命ず、すべて何事も惜むことなく与えたもう神に願うべし。また、『みたま』の汝らに証したもうところを汝らの為すはわれ正しく望むところなり。すなわち、汝ら全く聖きところを以てこれを為し、わが前に正しく歩み、汝らの救いの末に就きて考え、祈りと感謝とを以て何事をも……為さんことを。」(教義と聖約46：7)

真の靈性

ドナ・シン

キリストは天の御父から靈的な力を受け、一生涯御父のみこころを行ないました。主は絶えずほかの人の生活を祝福するためにみ手を伸ばそうと心に懸けておられたので、道を誤ることなどはあり得ませんでした。主が世の救い主としての資格を備えることができたのは、主がこのように天父のみこころを行なおうとされた強い意志の力によります。また、自制心、みずからの使命に対する深い理解、父なる神、そして人々のために進んで行なった自己犠牲、ほかの人々の生活を永遠に変わらぬ祝福で満たしたいという願いと愛によるのです。主は天父の栄光と私たちの救いのためにご自身の命を捨てられ、みずからの意志を天父のみ旨に添わせることにより、私たちに永遠の生命を得る機会を授けてくださいました。

キリストは私たちにとって大いなる模範です。主は言葉と行ないを通して、天父のみもとへ行く道、すなわちこの世においても来たるべき世においても完全な者を目指して進む道を教えてくださいました。その道とは、ほかの人の生活を祝福する道であり、神に仕え、神の戒めを守る道です。愛と真理の実を結ぶ聖霊を伴侶とするためには、何よりもまず神と人々に仕えようと努めなくてはなりません。皆さんは失望して暗い気持ちになると、必ず内向的なものの考え方をするようになります。決して次のようには考えません。「ほかの人を助けるにはどうしたらよいだろうか。現状を改善するために、私にできることは何だろうか。私の励ましを必要としているのはだれだろうか。神はみ業を推し進めるために、今ここで私が何をするように望んでおられるのだろうか。」おそらく皆さんは、むしろ次のように考えるでしょう。「きょうはなんて嫌な日だ。事情が変わりさえすればどんなにかいいのに。こんな状態から抜け出すにはどうしたらいいだろうか。私はどうしてここにいろん

だろう。私には何の価値もない。」

前者のような問いを発する人たちの心はおもにほかの人々に向けられ、愛と真理のみたまに満ちています。それに対し、後者の人たちの心は、自分の関心事や慰めにばかり向けられ、みたまの力を締め出してしまいます。靈性が低く、暗い気持ちになっているときには、考えることに気をつけてください。努めて外へ目を向け、自分以外の人々のことを考え、助けるようにしてください。そうすれば聖霊の導きを受けることができます。

ある日、私は暗い気持ちになっていました。そのとき、ふと見上げると、

わたしのため、
また福音のために、
自分の命を失う者は、
それを救うであろう。
(マルコ 8 : 35)

涙に暮れている人の姿が目にとまりました。すると、急に私の悩みはどこかへ消え去り、その困っている人を慰めるにはどうしたらよいかということばかり考え始めました。その間、自分のことはすっかり忘れていたのです。これこそまさに鍵と言えましょう。ほかの人の生活を祝福するように熱心に努めるならば、自分の悩みは忘れてしまうのです。主は次のように教えておられます。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6 : 33)「わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ 8 : 35)みずから教えられたとおりに生活され、世を救われた主の模範に従ってください。自分の考えに気をつけ、自分を満足させ、自分を慰めることばかりに気を取られているときには、ほかの人のことを考えましょう。そうすれば、聖霊の力を受け、だんだんと気持ちが軽くなるに違いありません。皆さんがそのように努力なさるときに、主の恵みが豊かに注がれますようにお祈りいたします。

(ニュースレター、1989年7月)

敬虔さ

初等協会の指導者は、主の宮居である教会では敬虔さを示すべきであると子供たちに教えるよう努めていることでしょう。すべての成人会員は、この重要な原則をみずから模範として示さなくてはなりません。そのためには、次の事柄を行なってください。礼拝の精神をもって礼拝堂に入る。主と交わした誓約を新たにするように準備する。絶えず聖霊の導きを受けられるように生活する。前奏曲や祈り、話によく注意して耳を傾ける。

礼拝堂で行なわれるすべての聖なる儀式に、次のようなふさわしい態度で参加してください。

- おしゃべりをしない。
- 人と話す必要があるときには、小さな声で静かに話す。

教会の所有物を大切に、良く手入

れをすることも、敬虔さの表われです。子供たちは賛美歌集をおもちゃにしたり、カーテンで遊んだり、いすなどの上に乗ったりしてはなりません。

子供がおなかをすかしている場合には、礼拝堂の外へ連れ出して食物を与えてください。子供が騒ぎ立てる場合には、責任ある大人が静かに子供を外へ連れ出し、走り回ったり遊んだりしないように付き添って監督します。

すべての会員は礼拝堂を出るときに、きれいに片付け、整頓するようにします。

もし私たちが以上のことを行なうならば、「汝〔神〕を敬う者に汝〔神〕の宮居に於て注ぐことを定めたまいし祝福」(教義と聖約109:21)を受ける備えをすることができるでしょう。

香港島ステーク部に新たなステーク部長会召される

1989年10月22日に開かれた香港島ステーク部大会で、楊恵周ステーク部長とふたりの副ステーク部長が、これまでの献身的な働きに対する感謝の念をもって解任された。楊兄弟は家族と共に12月にカリフォルニア大学サンディエゴ校へ行き、核医学の研究を続ける予定である。

これまで第一副ステーク部長を務めた謝惠民兄弟は、香港島ステーク部の新しいステーク部長に召された。謝兄弟は、1951年7月9日、中国の廣東において、蘇武と霍啟義の間に生まれた。

1956年、家族は香港へ転居し、兄弟は1972年に香港政府の事務官となり、現在は不動産部門の調査官を務めている。2年前には、歴史上有名な九龍城の通関手続きを行なう特別関税局で働いた。

謝兄弟は、1971年、20歳のときにバプテスマを受けた。当時彼は家族の中でただひとりの教会員であったが、その後3人の兄弟姉妹がそれぞれ別々にバプテスマを受けた。これまでに務めた教会の責任は以下のとおりである。支部長、監督、ステーク部若い男性会長、高等評議員、ステーク部書記および副ステーク部長。

1976年に改宗した章福善(旧姓)姉妹と、1978年3月30日、ユタ州プロボ神殿で結婚した。夫妻にはふたりの子供がいる。

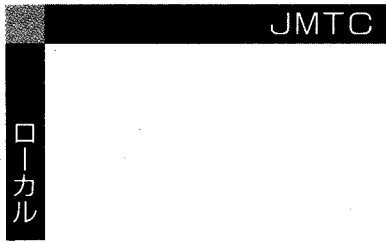
第一副ステーク部長に召されたのは、これまで銅鑼灣ワード部の監督を務

めてきた張柏雄兄弟である。張兄弟は以下の職を歴任している。副監督、高等評議員、ステーク部伝道部長、伝道部長補佐、M.I.A. 管理会長。14年前に、麥碧俊姉妹と結婚し、サイモンという名前の息子がいる。

第二副ステーク部長には、秦錦涛兄弟が召された。秦兄弟は、ソーシャルワーカーであり、1977年、21歳のときに改宗した。香港で生まれ、カナダで高等教育を受け、サイモン・フレイザー大学を卒業している。これまでに、ステーク部宣教師、香港伝道部専任宣教師、初等協会教師、副監督、ステーク部幹部書記、高等評議員を務めた。

秦夫妻は、1984年にシアトル神殿で結婚した。

第二副ステーク部長を解任された凌廣龍兄弟は、新たに組織された銅鑼灣ワード部監督会の副監督に召された。

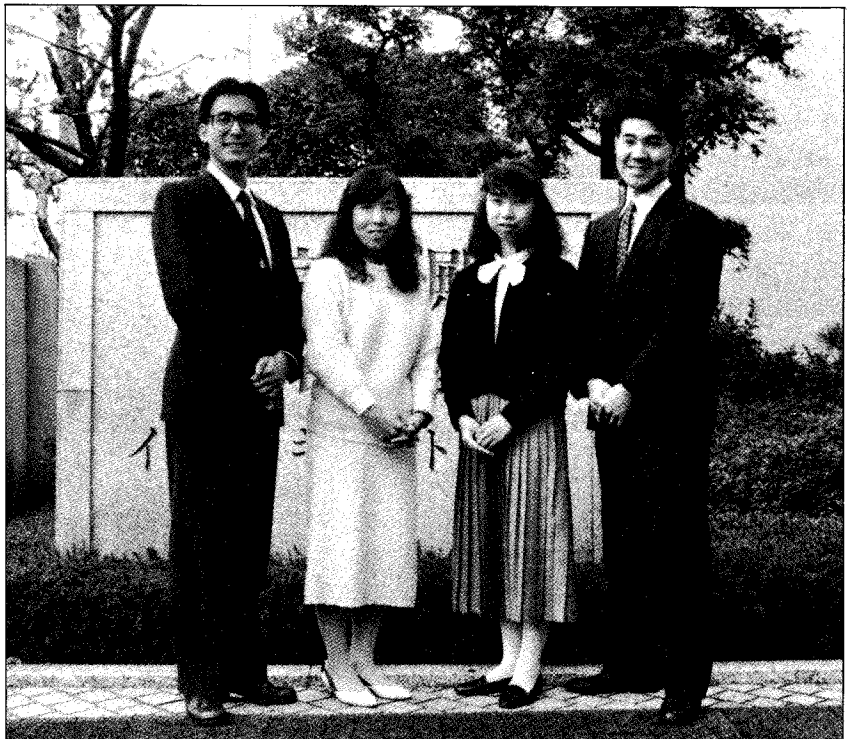


左から1-4

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 高村 聡	西台北S / 台北第5W	台湾台中伝道部
2. 田島 弘子	鹿児島D / 川内B	神戸伝道部
3. 森井美智子	札幌西S / 新琴似W	仙台伝道部
4. 高良 広太	大阪北S / 城陽B	仙台伝道部

S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

12月に召された専任宣教師 第127期生 4人

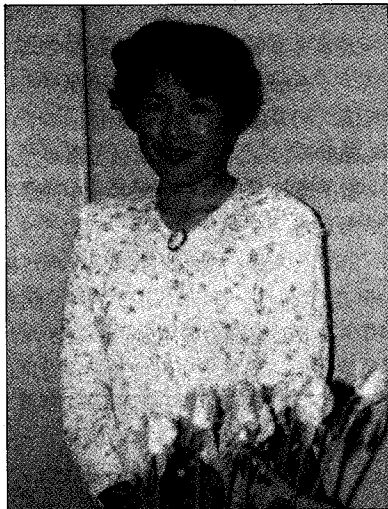


教え子の母親に導かれて

広島ステーキ部五日市ワード部

森崎邦子

そのうち、桐林さんのすばらしさは聖書、
そしてモルモン経にあることを知りました。



1989年9月2日、土曜日、雨。この日は私の生涯で忘れぬ日となりました。この日私は、人生の折り返し点とも言うべき40歳の誕生日を迎えると同時に、家族一同に見守られ、教会員の方々の励ましと祝福を受けながらバプテスマを受けたからです。神の娘としての第一歩を踏み出すことができた喜びを、ひとりでも多くの方に伝えできれば、と思います。

私にはふたりの子供がいますが、お腹の中でそれぞれが日を追って大きくなるのを感じたとき、いつも「これは神のなせるみ業であり、神の賜である」との思いを強めてきました。到底、進化論では説明できないことであり、いつかは聖書を学びたいと思い続けていました。下の娘の出産休暇で3カ月ほど聖書を学び、前にも増して神のみ業であるとの思いが強くなっていきました。けれども悲しいことに、出産後は育児と仕事に追われ、神の教えに触れる機会もないまま今日に至ってしまいました。

しかし、私には10年前から神の王国へ通じる道が敷かれていたのです。当

時、私は小学校2年生の担任をしていました。クラスの中に桐林夏子という少女がいました。花にたとえるなら菅待草かひなげしのような、けなげで、どこか頼りなげながら、人をフワーとやさしく包んでくれる子として心に残っています。しかし、もっと印象づけられたのは彼女のお母さんでした。快活で行動的で、今風に言えばまさに「元気印のお母さん」という感じの方でした。お母さんとお話すると私まで元気のおすそ分けをいただけるようで、「あんな人になりたいな」とひそかに思ったものでした。

4年生になったのを機に、息子をラボ・チューター(アメリカ合衆国政府機関と国際交流をしながら、言語活動を通して子供を教育する機関の教師)をしていた桐林さんに預けました。息子は喜々として桐林家へ出かけました。「なぜ息子は桐林さんの前では別人のようになるのだろうか。桐林さんをもっと知りたい。」そんな思いから、ときおりおじゃまするたび、手作りのケーキをごちそうしていただき、子育てや人生のことから、ファッションのことまで、いろいろお話していただきました。そのうち、桐林さんのすばらしさは聖書、そしてモルモン経にあることを知りました。

私はさっそく主人に「桐林さんのような人間になりたいので聖書を勉強させてください」と頼みました。2、3の条件はあったものの、主人は快く認めてくれ、私は本格的に聖書を学び始めました。毎週訪問してくれるふたりの宣教師とのレッスンの時間は、実に平安なひとときでした。

しかし、バプテスマの予定日が近づくとつれ私の心も揺れ始めました。聖書やモルモン経のすばらしさは確信し

ていました。けれども、目の前にある現実の事柄、たとえば、毎週教会へ行くこと、知恵の言葉、什分の一の律法、果ては、もし身内に葬儀があったらどうしたらよいのだろうかといった、小さな悩みが入道雲のようにもくもくとわきあがり、とうとうまたもや桐林家へ駆け込んでいました。

1時間後、私の不安、迷いは取り除かれました。そのとき一番勇気づけられた聖句は、マタイ4章18節から22節でした。「『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』すると彼らはすぐ網を捨てて、イエスに従った。……」

私はこの聖句を桐林さんから教えられ、本当に励まされました。それから、毅然とした、しかも自信に満ちた行動がとれるようになりました。そして、主人にバプテスマを同意してもらえよう、あらゆる努力をしました。断食して神に祈りました。主人に宣教師と会ってもらいました。家でも妻として、母として、嫁として、それぞれの立場で誠意を尽くしました。バプテスマの1週間前、主人が快く同意してくれたときには涙が出ました。心を込めて神に感謝しました。

神への道は細くて長いと言われます。私もバプテスマを受けるまでに10年かかりました。でも、今振り返ってみると、きちんと道は備えられていたように思います。迷うことなくここまでたどり着けたのもみたまの導きと教会員の方々のすばらしい模範があったからこそです。

周知のようにほかの教会とは異なり、当教会は十字架などで教会員であることを示しません。すべて行動で示します。私も桐林姉妹をはじめ、五日市ワード部の教会員すべての方々の模範によりここまで歩んで来ることができました。家族、とりわけ主人は、すばらしい人々と私が交わっていることを温かく見守ってくれています。主人の寛容な心に深く感謝します。

私は、神の娘として歩み始めました。これからは、みずからの模範によって、教会員であることを示していきたいと思っています。(もりさき・くにこ 1949年生まれ、ホームメーカー教師)

配達された霊の「糧」

大阪ステーキ部枚方ワード部

植木かずみ

手紙とその2冊の小冊子を読んだとき、
心の中がフワフワといい気持ちになり、涙が止まりませんでした。

その当時、私は主人の考え方がどうしても理解できず、毎日悩んでいました。理解したいと思う気持ちと、どうしても理解できないと思う気持ちとが交錯していたのです。

葛藤を何とか克服したいと思っていたとき、不思議なことにあんなに嫌いだったはずの宗教が、ぐっと身近なものに感じられるようになりました。その気持ちはどんどん大きくなりました。ところが、ひと口に宗教と言ってもたくさんあり、家と会社の往復という毎日では知るきっかけもなく、そのまま何週間かが過ぎていきました。ただ、「宗教を通して、心の問題も解決できるのでは」という思いだけがくすぶり続けていました。

そんなある日、郵便受けに夕食材料配達のチラシが入っていました。仕事をしていましたし、近くのお店が早く閉まることもあり、便利そうなのでさっそくお願いしました。1988年の1月26日のことでした。

配達が始まりました。会社から帰る

と、家の前に野菜やお肉の入った箱が置いてあり、次の日の朝には、その空箱を家の前に出して出勤するのです。配達の方と顔を合わすことはまったくありませんでした。でもいつのころからか、その箱の中で、メモ用紙に書いた手紙の交換が始まりました。

3月の中旬でしたでしょうか。「3月末で会社を1年半休職して北海道に行きます。最後の3月31日には何をしに北海道へ行くのか手紙を書いていきます」とのメモがありました。

いよいよその最後の日、分厚い手紙と一緒に「予言者ジョセフ・スミスの証」と「人生の目的」という小冊子が入っていました。手紙とその2冊の小冊子を読んだとき、心の中がフワフワといい気持ちになり、涙のわからないまま涙が止まりませんでした。その配達の方は岩崎尊美姉妹といい、それから間もなく、会うこともないまま北海道へ伝道に召されて行きました。神様は岩崎姉妹を僕として、不思議な方法で私をこの教会に導いてくださったの

です。

ちょうど8歳になったひとり息子と共にバプテスマの水をくぐったのは、とても寒い日でした。「見える人には、きっと天使の姿が見えたはずだ」とか、「特別なみたまに満たされたバプテスマ会だった」とか今でも言われます。

教会に入ってから、苦しい日が何日も続きました。主人は私たちふたりが知恵の言葉を守ること以外は何ら協力してくれようとせず、教会へ行くのも聖典を読むのもままならない日々でした。

そんなとき西原兄弟(西原伝道部長のお父さん)による神殿ファイヤサイドがありました。前の晩、それに出席するために祈っていたとき、急流がせきを切ったように天のお父様の返事がありました。「姉妹、あなたが決めたことは正しいですよ」と。

ファイヤサイドのあとで私の出した結論を西原兄弟にお伝えしたところ、「姉妹、よくがまんしたね。苦しかったらうね」とやさしく言ってくださいました。

今、生活は決して楽ではありませんが、福音を知り、楽しい日々を過ごしています。神様がそばにいてくださり、居心地の良い大きな安心感を与えてくださることに深く感謝しています。

無事に伝道も終わり、初めて会える岩崎姉妹に心から感謝しています。姉妹の手紙がなかったら、今もまだ暗い日々を過ごしていたでしょう。また、今も心配して手紙をくださる姉妹宣教師の一人一人に、また、会うたびにやさしくほほえみかけてくださる西原兄弟の信仰の模範に感謝しています。

私は祝福も艱難辛苦も賜も、すべて神様が私たちのために与えてくださっていることを知っています。福音に対する証を持つことにより大きな自信が得られ、何にも勝る幸せをつかむことができ、心から感謝しています。(うえき・かずみ 1956年生まれ、ワード部図書主任)

編集者注：文中の岩崎姉妹の証は1989年11月号に掲載されました。



◀植木姉妹と長男の純也兄弟

フランスで出会ったモルモン

東京東ステーキ部北千住支部

小林克美

今振り返ってみると、すべて神様が私のために備えてくださっていた道と、改めて天父と主の愛の深さに感謝の思いでいっぱいになります。

今から約2年前、私はフランス語習得のため、南フランスのモンペリエという美しい町に滞在していました。着いて1カ月ほどたったある日、私は友人と町の中を散歩していました。「ボクハ、ニホンゴヲ ベンキョウシテイマス。オハシヲ ツカイマスカ。」突然、奇妙な日本語で私たちに話しかけてくるフランス人の青年がいました。いつもならからかっているのだと思い通り過ぎるのですが、そのときはなぜか「話してみよう」と思いました。

自己紹介の中で彼は「ぼくはモルモンです」と言いました。最初は、「モルモン」という名前を聞いたことはあったものの詳しくは知らなかったので、「フランスにもモルモンがいるんだ」と思っただけで、何の興味もありませんでした。けれども3人で日本やフランスについて話しているうちに、だんだんと打ち解けてきました。

彼は「家庭の夕べに参加しないか」と誘ってくれました。そこで4人の宣教師と会員が心から私を歓迎してくれました。部屋の中は輝き、暖かい光に包まれているようでした。そのとき私は、ひとりの姉妹と知り合いになりました。彼女は、一番苦しかったときに宣教師の訪問を受けて福音を教えられ、

カトリックから改宗したいきさつを、ゆっくり、よくわかるように話してくれました。

その後彼女は、ひとりで寮に住んでいた私をたびたび食事にご招待してくれました。地中海地方独特の魚料理の方法を教えてもらったり、お菓子を一緒に焼いたりして、まるで家族のようでした。いつも「ここは、あなたの家なんだから、来たいときに来なさい。大歓迎ですよ」と言ってくれました。

週末のほとんども彼女と過ごすようになり、私は次第に教会に興味を持ち始めました。彼女の模範と愛が、宗教にまったく関心なかった私の心を変えたのです。

そのころ、宣教師からレッスンを受けるようにチャレンジされました。1回目のレッスンは寮の中庭で受けました。長老は、まず私と私の家族のために祈ってくれ、とても感激しました。しかし、もっと感激したのはレッスンの内容でした。「人生の目的とは何か」ということを教えられたとき、すべてが心に浸み通るように入ってきました。それは、私が小さいときから探し求めてきた答えだったからです。

フランスに渡る前、私はひとつの夢を見ました。私は大きな古い広場にある噴水の前に立ち、なぜだかわからないながらもふたりのアメリカ人を待っていました。目が覚めたとき、夢で見た景色がフランスであることはわかり

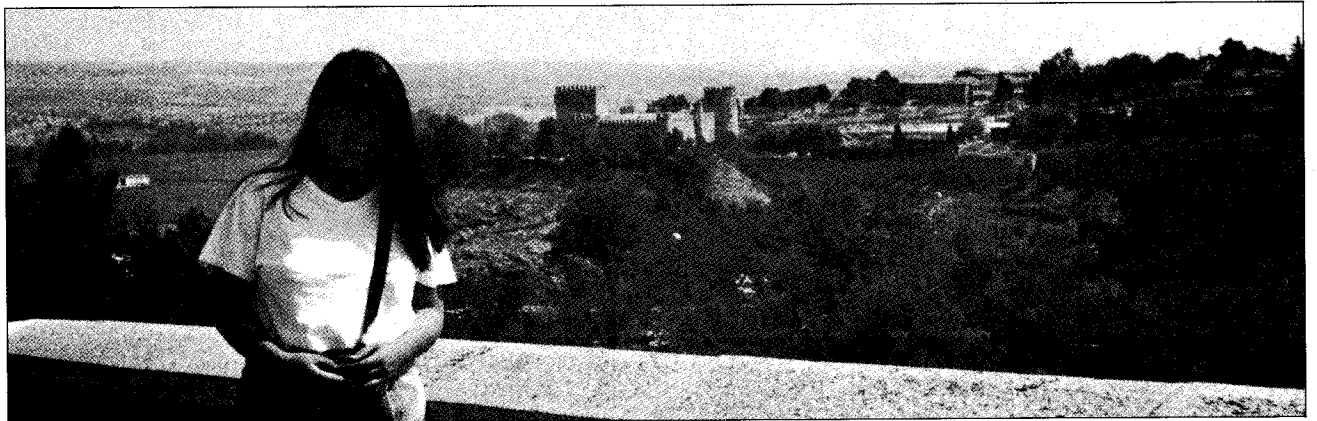
ましたが、どうしてフランスでアメリカ人と待ち合わせをしていたのかはわかりませんでした。そしていつの間にか、この夢のことは忘れていました。しかし、モンペリエに着いたとき、そこには私の知っている景色、「古い広場と噴水」がありました。もちろん、ふたりのアメリカ人というのは……。

「あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。」(マタイ6:8)

今になってみると、なぜあんなにも強くモンペリエという町にひかれたのか、よくわかります。そして、主は私を導き、多くのすばらしい人を遣わして、福音を知る機会を与えてくださいました。本当に言い尽くせないほど、感謝しています。

4月16日、天父と主と友人の愛に支えられ、私はバプテスマを受けました。小雨が降り、海は波が高く、私は何度も大波にもまれて倒れてしまいました。けれども心の中は喜びに満ちあふれ、気温は低かったにもかかわらず、とても暖かく感じました。まるで、様々な試練に遭っても天父と主が私を守ってくださることを示しているように思えました。

末日の世にあって、この回復された真実の教会の会員であるという大きな祝福に感謝しています。天父と主の愛は深く、とても清いものです。私は、福音によって人は生まれ変わることを知っています。私を改宗に導いてくださった神様と、神様の僕として私を支えてくださった宣教師や多くの兄弟姉妹に心から感謝しています。(こばやし・かつみ 1966年生まれ、支部若い女性第二副会長)





ミュージカル「若草物語」上演

若い女性の 「若草物語」を見て

高崎ステーキ部
高崎ワード部 宮沢誠

10月14日の夕方、9日から15日までの高崎ワード部大会の一環として、若い女性によるミュージカル「若草物語」が上演されました。幼いころの彼女たちを知っている私には出来栄の予想もつかず、心配していましたが、前評判も上々で、近くのワード部、支部からも多数の観客が集まり、盛況の内に幕が上がりました。

開演してすぐに、私はその内容にグングン引き込まれていきました。「あのおちゃめな姉妹たちにここまで真に迫った演技ができるのか」と、感動がわきあがってきました。

特にすばらしかったのは、6曲の劇中歌でした。澄んだ美しいソプラノとアルトのハーモニーは聴衆を魅了しました。

このミュージカルは、若い女性9人と、他の組織から応援の父親役の兄弟、召し使い役の姉妹各1名によって、4カ月半の練習を経て上演されました。しかも、ただ原文の流れを追うのではなく、とかく忘れがちな愛の形とそれを表現する方法をも教えてくれたのです。

たとえば新しい隣人と友人になる場面では、あきらめず何回も積極的に愛

を示すことを、そしてそのためには、ほんの少し勇気が必要であることを思い出させてくれました。

さらに、信仰についても多くを学ぶことができました。その姿はすべてが伝道でした。彼女たちの真剣な演技は、恥ずかしがったり遠慮したりしては、伝道の実を結ぶことは不可能であることを再認識させてくれました。

また、彼女たちの演技は終始一致の精神に満ちていました。この一致を陰で支えた人々をも忘れることができません。特に裏方を務めた若い男性には、拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。

ワード部大会最終日の一般大会で、ステーキ部長は、「若い女性のミュージカルで一番感動した人は、観客ではなく、それを演じた人々です」と言われました。確かに彼女たちにはすばらしい経験となったことでしょう。若い女性のすばらしい伝道、そして奉仕に心から感謝しています。(みやざわ・まこと 1953年生まれ、ワード部広報委員長)

ミュージカルを通して証を得ました

高崎ワード部 関雅美

教 会員の家庭に生まれ育った私は、教会について教えられてきたこ

とは、当たり前だと思っていました。でもそれを、「いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも」証するような信仰はまだ持っていませんでした。

あるセミナーの大会で、先生はこう言われました。「証を得たいなら天のお父様に、お父様は本当に生きていらっしゃるのか、そして、この教会は本当に真実なのか、尋ねてみるべきです。」

私は、まだこれらのことについて尋ねたことはありませんでした。でもそのときに、お父様に尋ねてみようと思ったのです。さっそく祈りましたが、何の答えもありませんでした。なぜなのか考えると、霊的な準備がまだ十分にできていないことに気づきました。

私は、自分に何ができるか考えました。そのときワード部大会のために若い女性によるミュージカル「若草物語」の準備が始まっていました。私はこの活動に思いきって自分自身をおつてみようと思った。それから、一層ミュージカルに力を入れ、いつしか、それが「伝道になったらいいな」と考えるようになりました。

当日、出演者全員で、ミュージカルが本当の意味で成功するように祈り、本番に臨みました。ミュージカルは大成功でした。仲間や観客、みんなが涙を流していました。

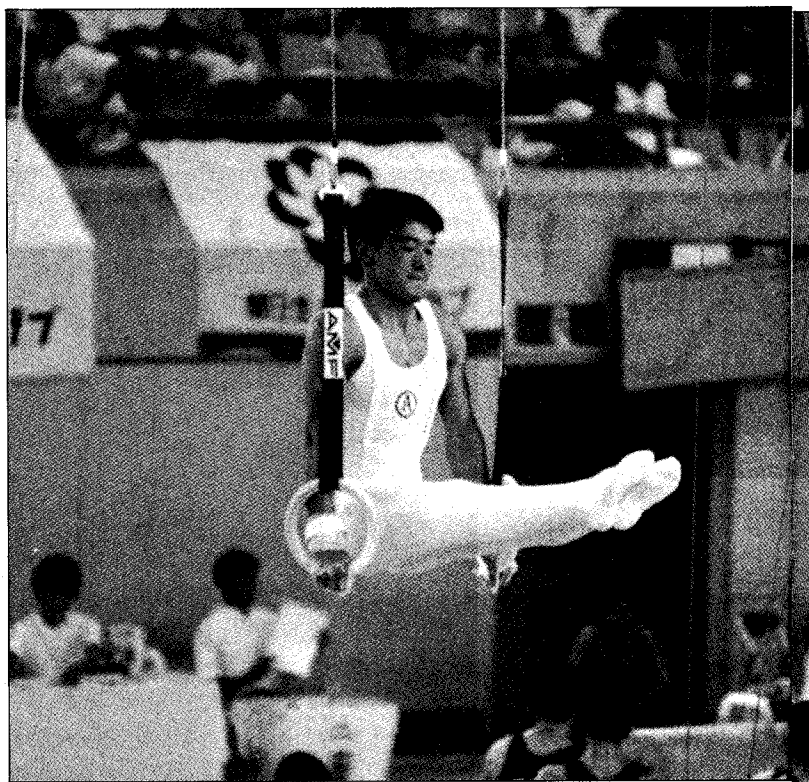
夜家に帰ると、その日の出来事をすべて日記に書きました。そのときです。心の中に何とも言えない熱い思いが込み上げてき、涙が止まりませんでした。なぜ涙が出てくるのかわかりませんでした。でもたったひとつだけ、それが長い間待ち望んでいた私自身の証だということがわかりました。ミュージカルを通して証を得ることができたのです。

天のお父様は生きておられ、この教会は真実の教会です。そして現在、見聞き、経験することはすべて、天のお父様とイエス様によって計画され、創造されたことを証します。「いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも」神の証し人になれるよう、仲間の姉妹たちと共に頑張っていきたいと思えます。(せき・まさみ 1973年生まれ、若い女性マイアメイドクラス会長)

主に従う

全日本選手権を捨てて

福岡伝道部専任宣教師
谷田部英正



十二使徒のダリン・H・オクス長老が初めて日本に来られたのは、3年前の2月23日のことでした。そのときオクス長老は、いくつかの家庭を訪問され、その中には私の家も入っていました。長老は、私と私の家族に祝福を与え、とても印象に残る祈りを主に捧げてくださいました。

当時私は受験生で、翌日に共通一次試験を控えていたということもあって、オクス長老は、まず私が「試験に合格するように」祈ってくださいました。その年、私は受験したすべての大学に合格しました。次にオクス長老は私が「伝道に出られるように」と祝福してくださいました。今、その祈りは成就しています。同時に家族に与えられた数々のすばらしい祝福の言葉も、ほとんど成就しました。

1989年2月5日、オクス長老は再び来日し、東京東ステーキ部大会を管理されました。このときにも、私の人生を大きく左右するメッセージが与えられました。

「すべてのふさわしい神権者は伝道に出てください。これは『義務』です！」伝道はそれまで、私にとってはあこがれと希望でしかありませんでした。

た。しかしこのときはっきりと、「必ず伝道に出る」と決心したのです。これが最初の確かなきっかけでした。

すぐにも伝道に出たいという思いはありましたが、その時期を実際に決めることがなかなかできず、その後約半年間、体操競技と学業に明け暮りました。必死の思いでレギュラーの座を獲得し、肉体を限界まで追い込んで克服した全日本選手権。それまで積み上げてきたものがやっと実を結び、世界に目を向けようとしていたのです。

一方、「伝道に出たい」という思いは強くなるばかりでした。8月の学生選手権の後、監督とステーキ部長の面接を受けましたが、そのとき、ステーキ部長からこのように言われました。

「もう主の再臨が間近にきています。間もなく第6の封印が閉じられます。私たちはそのためのために、ひとりでも多くの人に準備をさせ、刈り入れに携わらなければならないのです。」

もし競技も学業も問題なくこなして、最も都合の良いときに伝道に出るのであれば、神様から『それでは私の都合の良いときに祝福をあげましょう』と言われても文句は言えないのです。」

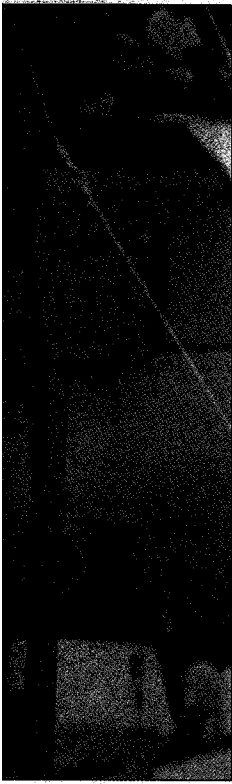
では、一体いつ伝道に出るべきなの

でしょうか。私はこう確信しました。「今、出るべきである」と。

しかし、伝道に出ようと決心したとき、それを引き止める大きな力が働きました。チームの皆は何か私を思いとどまらせようとしていました。筑波大学は選手の数が少なく、競技力でも精神面でも、レギュラーがひとり抜けるといことは大変な損失になるからです。ある意味で、学生選手権や全日本選手権に勝つということは、彼らにしてみれば青春のすべてであり、人生の中でも最も大きな位置を占めていると言っても過言ではないのです。

私はそれまで、お酒や日曜日の問題などで多くの迷惑をかけてきました。それでも仲間たちは一生懸命私のことをフォローし、がまんしてくれていました。皆のそうしたバックアップのおかげで、自分はそれまで選手生活を続けていくことができました。私が伝道に出してしまうのは、そんな中で互いに築きあげてきたものをすべて壊してしまうことと同じなのです。

彼らは口をそろえて私を責め、厳しく問いつめました。「今まで頑張ってきたのに、なぜあと1年延ばせないんだ。こんなにもおまえのことを必要と



では、一体いつ伝道に出るべきなのでしょう。

私はこう確信しました。

「今、出るべきである」と。

しかし、伝道に出ようと決心したとき、それを引き止める大きな力が働きました。チームの皆は何とか私を思いとどまらせようしました。

しているのに、なぜおれたちをおいて行ってしまふんだ。宗教は人を幸福にするものなんだろう。じゃあなぜ、おれたちにこんなにも苦しい思いをさせて出て行くんだ。おれたち以上におまえのことを必要としているやつが一体どこにいるんだ！」

彼らは本当に私を必要としており、真剣になって私のことを考えてくれました。私には同じ釜の飯を毎日食べてきた仲間たちの気持ちが、痛いほど伝わってきました。でもベンソン大管長は言われました。

「だれにとっても最も大きな試しは、愛し尊敬する人、特に家族を喜ばせるか、神を喜ばせるかのどちらかを選ぶように迫られたときです。……私たちは人生にあって、霊の父であられる神に絶対の優先権をおかなければなりません。……人生にあって大いなる試しは、神に従うことです。」

とはいえ、ベンソン大管長の言葉や「キリストの再臨が近いから、ひとりでも多くの人を救いに導かなければならない」というステーク部長の言葉を言ってみても、彼らの心の中には届くはずはありません。私は何も言い返すことができませんでした。

とうとう最後の日がやって来ました。忘れもしない9月23日、私がクラブに何か残したいと思い練習をしていると、コーチに呼びつけられて、「ここは競技者の集まりだからおまえの来るべき所じゃない。荷物をまとめて出て行きなさい」と激しい口調で言われました。そのときに書いた日記があります。

「私の選手生命が今終わった。すべて終わった。もう二度と競技者として、この体育館に入ることはできない。皆に責められ、なじられ、送る言葉もなく私は体操競技場を後にした。その瞬間、今まで築いてきたものがすべて終わったことを実感し、涙が止まらなくなった。……インターハイ、団体、学生選手権、そして全日本と、10年間必死に築きあげてきた私の体操が今、すべて終わったのだ。あまりにも突然で、あまりにも切ないこの決断の後で、今まで登りつめてきた階段の後ろを振り返ると……そこには空虚な暗やみ以外何も残されていないような気がした。

涙はまるで、私を清めるかのように流れた。それは悲しさのためではなかった。多くの人々に支えられ、助けられ、励まされてきた10年間への深い感謝の気持ち、そして何よりも、イエス・キリストのたぐいえない愛と憐れみに対する心からの感謝が、涙をして私を清めていたのである。私は心から喜んでいて。主に感謝し、心から賛美の声をあげていた。私はこうして、主に愛を示すことができたのだから。」

次の日から私はチームメイトの家を一軒一軒、イエス・キリストを証して回りました。すると、どうでしょう。主が彼らの心を和らげてくださり、多くの人々が理解してくれるようになったのです。また理解してくれない人々とも、和やかに話し合うことができたのです。

私が筑波を去る前日には、チームの皆が私のために送別会を開いてくれることになりました。ほとんどすべてのメンバーが集まり、激励の言葉をかけてくれました。中には「おめでとう」と言って送り出してくれる人さえいました。そしてこのとき、多くの人々にキリストについて話し、福音を宣言し、モルモン経を渡すことができたのです。

その後しばらくの間は、残された仲間たちのことを思うと本当に心苦しいものがありました。けれども、神殿で個人のエンダウメントを受けたとき、「これは私にとっても、クラブの皆にとっても、永遠の観点に立って神様が良かれと思って与えてくださった機会である」ことを確かに知りました。

私はキリストにより生まれ変わりました。キリストのみ名には力があり、サタンはこれに対してまったく無力です。この力が宿ると、悪い思いも、雑念も、すべて頭の中から消えていきます。そして日常のどんなささいな思いや行ないでさえ、すべてキリストのみ名によってそのみこころに従わせることができるのです。これは私が神殿で得た最大の証です。また、日の栄の部屋に入ったときには、眼前に大いなる栄光が開け、神様が私たちに用意してくださっている祝福の偉大さを感じました。

信仰生活に犠牲はつきものですが、たとえどんなに大きな犠牲を払ったとしても、神様に従うなら、祝福は犠牲の何千倍、何万倍にもなって返ってくることを心から証します。アミュレクも父親や親戚、友人、財産もすべて捨ててアルマと共に伝道に出たのです。(アルマ15—16参照)

この世でどんなに価値あるものも、神様がくださる偉大な栄光と祝福に代わるものなどあるはずはありません。神の長子の教会員となるためにはたとえどのような犠牲を払ったとしても、やがて永遠の報いを受けるときが来るのです。

福音には人をこんなにも喜ばせ、幸せにする力があります。なぜならキリストは救い主であり、私たちの身近で、今も現に生きておられるお方だからです。神は時満ちたるこの神権時代に、ジョセフ・スミスを通して完全な福音を回復されました。そして今、私たちに、神のみもとに帰るために必要な事柄はすべて示されています。それはすべての人々に開かれている道なのです。

私は2年間、九州の地でこのことをひとりでも多くの人に伝えたいと思っています。(やたべ・ひでまさ 1967年生まれ、東京東ステーク部牛久ワード部出身)

1990年度 「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは、1990年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は、早日にお申し込みください。

所在地：埼玉県入間郡
毛呂山町長瀬1313

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 墓地永代使用料
支払い方法 | 1区画 285,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金4,750円以降毎月4,750円59回払いの無利子分割払いとなります。 |
| 2. 墓地管理料 | 年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします) |
| 3. 申し込み方法 | 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
(1) クモラの丘霊園使用申し込み書
(2) 住民票
(3) クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
(4) 銀行自動振替手続き書類 |
| 4. 今年度申し込み期限 | 1990年12月31日まで |
| 5. 墓所の指定 | 申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。 |
| 6. 初回金および
管理料の振込先 | 三和銀行青山支店 普通預金口座 219499
クモラの丘霊園 代表 岡本 亮 |
| 7. お問い合わせ | 〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(440)2351(代) |

編集室から

皆さんの原稿を募集 しています

- ▶各地のたよりの原稿を常時募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。
- ▶ワード部/支部特集への投稿を希望される方は、編集室へ直接お電話ください。必要な資料をお送りいたします。
- ▶5月号掲載分の締切は3月10日です。なお、投稿の際、必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ▶あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
☎03(444)5264

